

山武市 まちづくり報告書

～第2次山武市総合計画の進行管理～

海と緑、人が集い、住まう誇りがもてるまち 山武



令和2年度実績

目 次

1. 山武市まちづくり報告書の基本的考え方

- (1)山武市まちづくり報告書とは…………… 1
- (2)総合計画と行政評価…………… 1
- (3)行政評価による総合計画の進行管理…………… 2

2. まちの経営動向

- (1)人口の推移 …………… 3
- (2)歳出決算額の推移（普通会計）…………… 3

3. 総合計画の評価概要（令和2年度）

- (1)まちづくりの進捗状況（成果指標値の推移）…………… 4
- (2)政策別のまちづくりの進捗状況（成果指標値の推移）…………… 5

4. 学識経験を有する者の知見…………… 7

5. 総合計画の体系図……………16

6. 施策の進み具合の報告

- (1)評価結果の見方……………18

(2)施策・基本事業評価結果

- 1 暮らしを支える快適なまちづくり……………19
- 2 住みやすい環境と安全なまちづくり……………32
- 3 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり……………55
- 4 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり……………69
- 5 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり……………91
- 6 市民と行政が協働してつくるまちづくり……………109

1. 山武市まちづくり報告書の基本的考え方

(1) 山武市まちづくり報告書とは

「第2次山武市総合計画（令和元～4年度）」は、4年後の山武市のめざす姿を定めたまちづくりの指針となるものです。（図①参照）

この総合計画では、分野別にめざす姿（目標）を設定しており、定期的にその成果（数値）を把握することで、本市のまちづくりがどの程度達成されたかを評価しています。

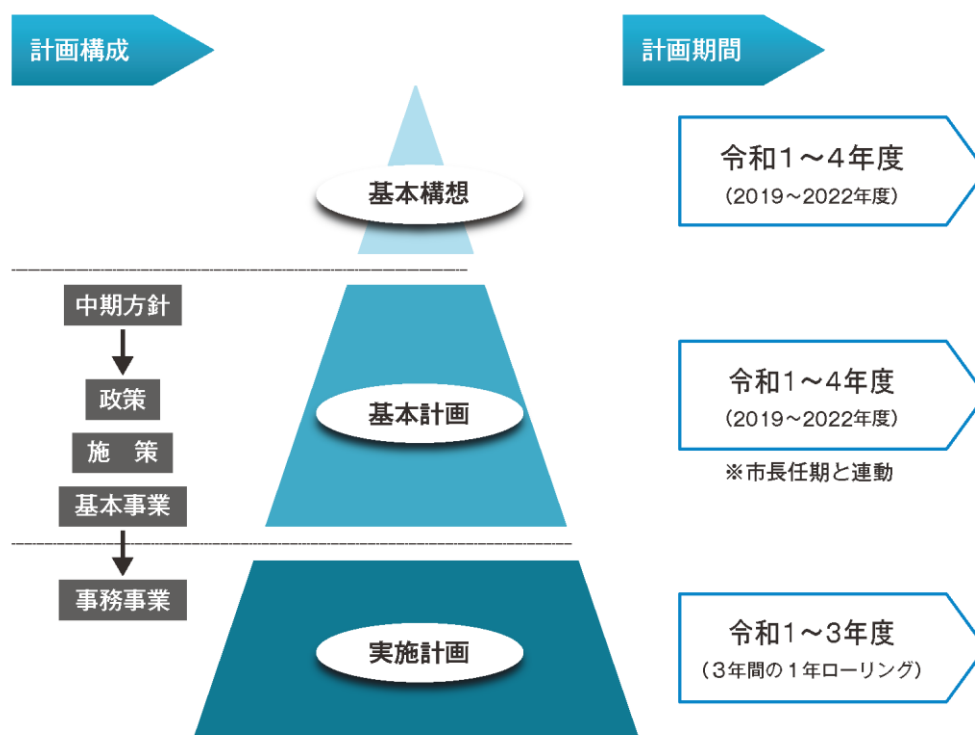
この「まちづくり報告書」は、現在までのまちづくりの取組状況（目標の推進状況、達成状況）をまとめ、みなさまにお知らせするものです。

(2) 総合計画と行政評価

第2次山武市総合計画では、基本構想は山武市のまちづくりの普遍的な方向性を示しています。また、基本構想の状況を示すまちづくり指標を設定し、基本計画終了時に確認を行うこととしています。

そのため、基本計画に6つの政策を掲げ、それぞれの政策ごとに取組の方針を定めています。6つの政策の下には、24の「施策」と108の「基本事業」が位置付けられ、さらに「基本事業」を実現する最も具体的な手段としての「事務事業」があり、総合計画の体系を構築しています。（図①参照）

図① 総合計画の体系



また、取組を進めていく中で、ヒト、モノ、カネといった限られた経営資源を有効に活用するとともに、みなさまに分かりやすい行財政運営を行うひとつの方策として、本市では「行政評価」の考え方を導入しています。

(3) 行政評価による総合計画の進行管理

山武市では総合計画の進行管理のために、Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）のサイクルを活用した行政評価の考え方を取り入れ、目標年次に向けた総合計画の進行管理を行い、成果の向上を図ります。（図②参照）

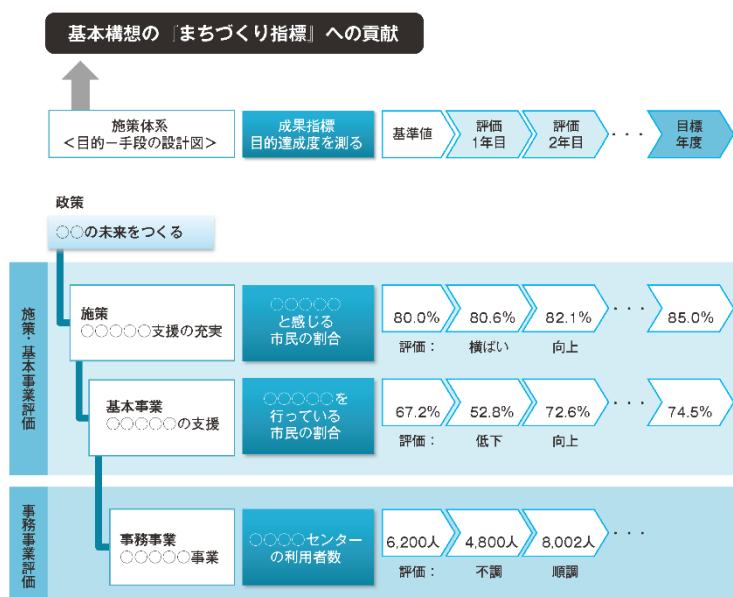
行政評価の考え方を取り入れた第2次山武市総合計画では、「施策」と「基本事業」にそれぞれ「めざす姿」を掲げ、その「めざす姿」の達成度を数値で表すモノサシとして「成果指標」を設定し、計画の最終年次である令和4年度に、達成すべき目標値を定めています。

総合計画の進行管理を行ううえで、毎年「施策」、「基本事業」の成果を評価し、目標に向かって遅れが出ている項目については、現状を把握し、なぜ数値が伸びていないのかというような原因を分析し、事業の見直しを検討、実施することで目標の達成を目指します。(図③参照)

図② 総合計画の進行管理



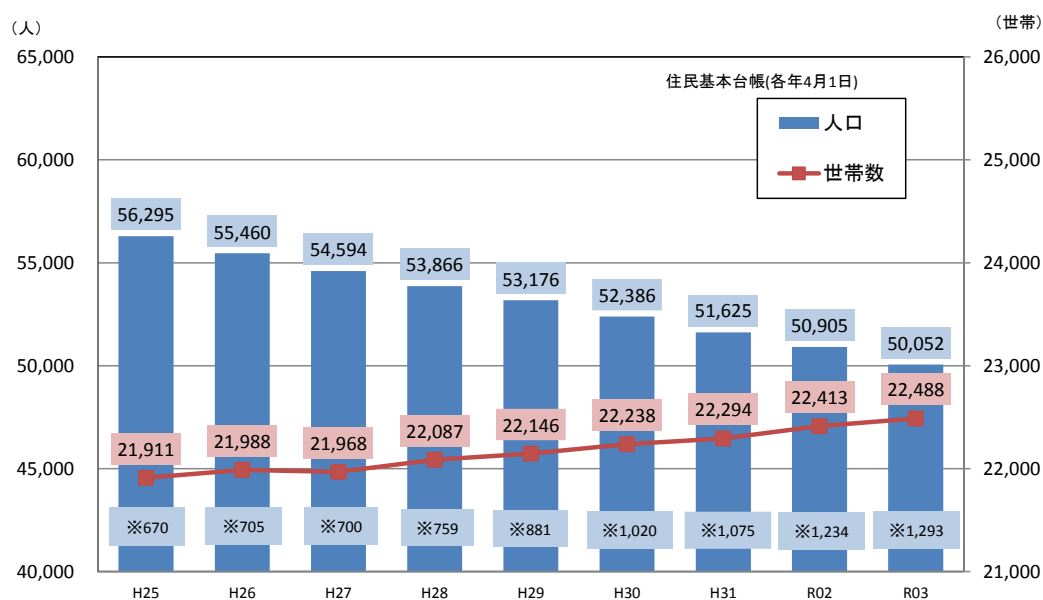
図③ 成果指標に基づく進行管理



2. まちの経営動向

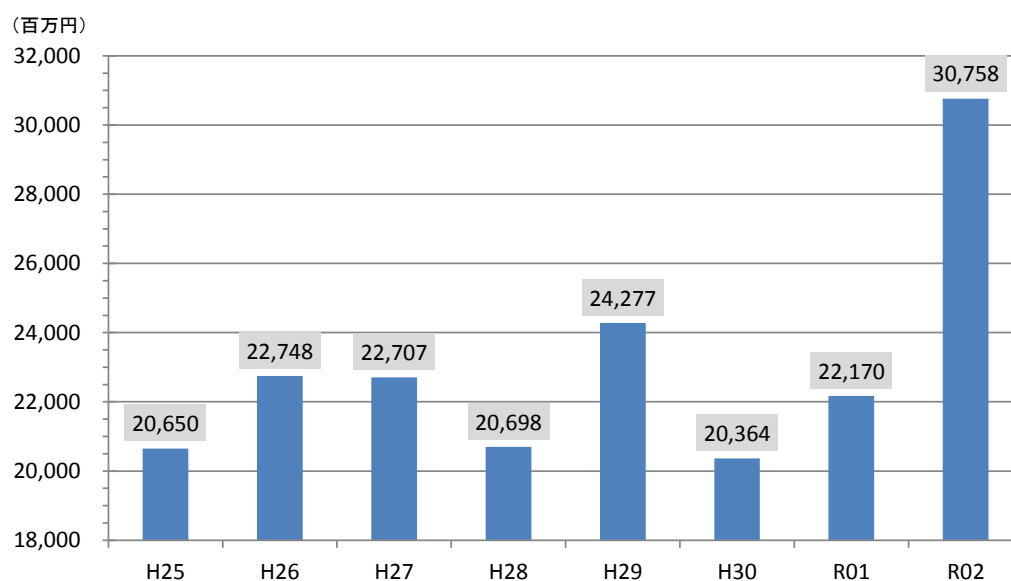
(1) 人口の推移

人口は減少傾向が続いています。これは、主に若い世代が流出する「社会減」と出生率の低下による「自然減」が大きく影響しています。なお、山武市の高齢化率は令和2年度の34.2%から令和3年度は35.7%と増加しています。一方で世帯数は、増加傾向が続いていることから核家族化等が進んでいるものと推察できます。



(2) 歳出決算額の推移 (普通会計)

令和2年度の歳出については、昨年度と比較して85億8千8百万円増の307億5千8百万円となりました。主な事業内容は、新型コロナウイルス感染症対応による特別定額給付金給付事業の実施、令和元年度台風被害への支援として強い農業・担い手づくり総合支援事業の実施となっています。



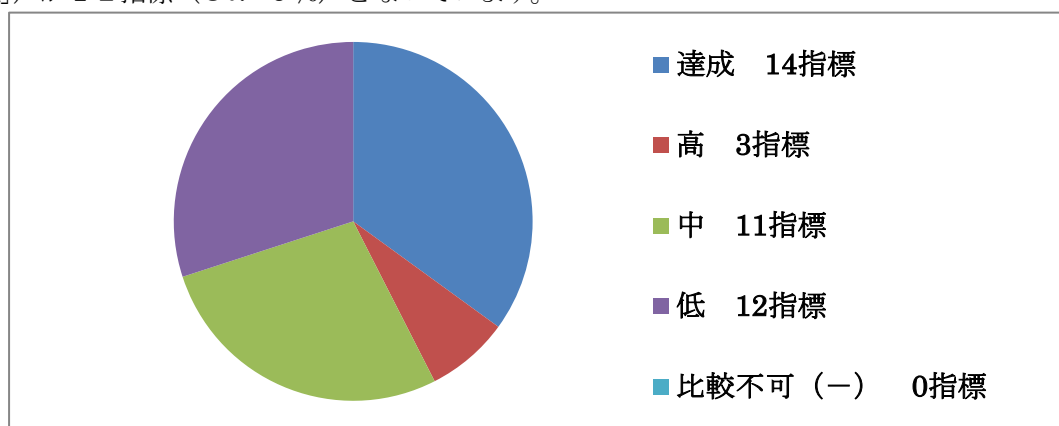
3. 総合計画の評価概要（令和2年度）

（1）まちづくりの進捗状況（成果指標値の推移）

山武市総合計画で設定された247の成果指標の進捗状況は下記のとおりとなっています。

① 施策の成果指標動向【24施策40指標】

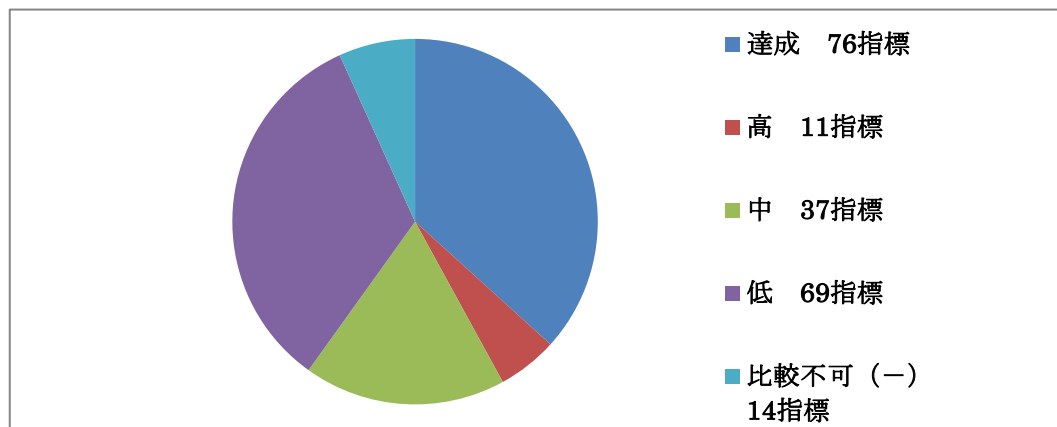
24施策の成果として設定されている40の成果指標について、成果が向上し、めざそう値に対して概ね順調な成果を上げていると評価したもの（評価区分「達成」「高」）は17指標（42.5%）となっています。維持・横ばいのもの（評価区分「中」）が11指標（27.5%）、計画開始当初よりも低下したもの（評価区分「低」）が12指標（30.0%）となっています。



② 基本事業の成果指標動向【108基本事業207指標】

24施策の成果（前述の40成果指標）を向上させるための手段として、施策体系に位置付けられている108の基本事業の成果を示すものとして207の成果指標が設定されています。

それらの指標の動向として、成果が向上し、めざそう値に対して概ね順調な成果を上げていると評価したもの（評価区分「達成」「高」）が87指標（42.0%）、維持・横ばいのもの（評価区分「中」）が37指標（17.9%）、計画当初よりも低下したもの（評価区分「低」）が69指標（33.3%）となっています。



※比較不可・・・主に国、県等の統計データの実施年度が隔年や5年毎等で成果指標の実績値を毎年把握することができず、令和2年度の評価として進捗を検討できないものを指します。

(2) 政策別のまちづくりの進捗状況（成果指標値の推移）

① 施策の成果指標動向【24施策40指標】

6つの政策	成果指標の動向					☐ 目標達成、概ね順調な主な指標 ☒ 維持・横ばい、計画開始当初より低下した指標
	達成	高	中	低	—	
1 暮らしを支える快適なまちづくり	2	1	0	0	0	☐ 都市施設（道路、公園、排水路、駅周辺）の満足度 ☐ 公共交通網の満足度 ☐ 災害被災戸数（火災含む）
2 住みやすい環境と安全なまちづくり	3	1	3	2	0	☐ 人口1,000人当たりの刑法犯認知件数 ☐ 人口1,000人当たりの交通事故発生件数 ☐ 給水戸数【広域水道】 ☒ 生活環境に関する苦情件数
3 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり	2	0	0	3	0	☐ 森林整備年間実施面積（累計） ☐ 法人市民税額 ☒ 年間宿泊観光客数 ☒ 年間観光客入込数
4 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり	5	0	4	1	0	☐ 介護保険サービスの満足度 ☐ 健康だと思う市民割合 ☒ 障がいの特性及びその環境に応じて、就業している障がい者の割合（分母から重度障がい者を除く）
5 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり	2	0	2	2	0	☐ スポーツ活動に親しむ市民の割合 ☐ 人権が尊重されているまちだと思う市民の割合 ☒ 学校生活に満足している生徒の割合 ☒ 生涯学習に取り組んでいる市民の割合（全般的）
6 市民と行政が協働してつくるまちづくり	0	1	2	4	0	☐ 山武市の特徴や良い点を近隣以外の人に説明できる市民の割合 ☒ 市民活動（地域活動）に参加している市民の割合 ☒ 市政情報の提供の満足度 ☒ 公正確実な事務の執行の満足度

②基本事業の成果指標動向【108基本事業207指標】

6つの政策	成果指標の動向					☐ 目標達成、概ね順調な主な指標 ☒ 維持・横ばい、計画開始当初より低下した指標
	達成	高	中	低	—	
1 暮らしを支える快適なまちづくり	12	1	5	7	0	☐ 駅周辺の利便性に対する満足度 ☐ 市内移動の交通手段に困っている市民の割合 ☐ 自主防災組織数 ☒ 基幹バスの年間利用者数
2 住みやすい環境と安全なまちづくり	21	3	3	11	2	☐ 再生可能エネルギーの発電装置による契約発電量 ☐ 污水处理世帯の普及率 ☐ 防犯活動を行っている協力者数 ☒ ごみ排出指導件数
3 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり	9	0	6	5	5	☐ 農地中間管理集積面積 ☐ 市補助制度を活用し、搬出された木材量 ☐ 観光協会 HP 等の閲覧数 ☒ 観光施設(海水浴場)の利用者数
4 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり	17	4	8	13	2	☐ 乳幼児健診の満足度 ☐ 地域医療体制の充足度 ☐ 福祉活動の市民活動団体の加入者数 ☒ 特定健康診査受診率
5 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり	10	1	7	17	2	☐ 学力の向上が見られる児童の割合 ☐ 学力の向上が見られる生徒の割合 ☒ 中学校卒業時に英語検定3級以上を取得している生徒の割合
6 市民と行政が協働してつくるまちづくり	7	2	8	16	3	☐ 多文化共生社会への行政・市民団体の取組数(オリパラ関連除く) ☐ 実質公債費比率 ☐ 市のICTサービスを利用している市民割合 ☒ 広報紙を読んでいる市民の割合

4. 学識経験を有する者の知見

慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員
金子 光

1. 山武市の総合計画と行政評価

(1) 山武市の総合計画

山武市の総合計画は市の最重要計画として 6 つの政策から構成されており、それぞれの政策で明確な目的が掲げられている。今回評価を行う総合計画は、令和元年度から令和 4 年度までを計画期間とし、「海岸、田園、丘陵という豊かな自然環境を活かしたまちづくり」「成田国際空港と圏央道ネットワークを意識したまちづくり」「将来に渡って持続可能で魅力あるまちづくり」を進めるために 6 つの政策、その下に 24 の施策・108 の基本事業・約 1,000 の事務事業が存在している。それぞれが上位の目的を達成するための手段という関係が成り立っており、政策－施策－基本事業という政策体系の明示化により政策目的と手段の明確化・体系化が図られている。

(2) 山武市の行政評価

山武市の行政評価制度は施策・基本事業の達成度を評価する制度であり、目的としては以下の 6 つが挙げられる。

- ①総合計画に基づいた成果重視の事業実施を行う
- ②行政資源の効率的配分とその効率的活用を可能とする基準づくり
- ③職員の意識改革を促進し、コスト意識・マネジメント意識を醸成する
- ④市民への説明責任を果たす
- ⑤総合計画の策定とそれに伴う進捗状況（達成度）を評価し、次の計画に生かす
- ⑥不要な事業、無駄な事業を削減・縮小・廃止する

評価の実施方法としては、施策と基本事業について内部評価が行われており、令和 3 年度は令和元年度から始まった第 2 山武市総合計画の 2 年目の評価にあたる。

施策・基本事業の評価結果は「まちづくり報告書」を通して市民に情報を公開し説明責任を果たしている。

2. 「まちづくり報告書」の特徴

(1) グラフによるトレンドの把握

それぞれの指標についてグラフが記載されており、その中で基準値とめざそう値が設定されておりトレンドが分かる。

(2) <原因>における分析

グラフから現状を把握した上で、評価のなかで<状況>と<原因>が書かれ分析が行われている。

(3) 市民生活との関連

基本事業の記述については市民生活に直結するものが取り上げられている。

(4) アウトカム指標の活用

アウトカム指標はまちづくりアンケートの結果や統計データ、業務取得データなど、その施策の目的・意図に貢献したかどうかを検討しながら設定されている。

(5) 次年度へのフィードバック

行政サービスを市民のニーズに合わせて効果的・効率的に提供していくために、行政サービスの分野ごとに目標と達成度を示す指標を定めデータに基づく客観的な評価を行っている。そして評価の結果を次年度の計画に活用しようと取り組んでいる。

3. 「学識経験を有する者の知見」のフィードバック

令和2年度の「学識経験を有する者の知見」の内容を踏まえて、令和3年度の評価方法に変化が見られる。

(1) 政策 01 施策 03 基本事業 03 「防災意識の向上」

<令和2年度における提言>

「基本事業成果指標」の「災害に対する備えの平均実施項目数（全12項目）」の<原因>において、「出来ていると思われます」、「共有できていると思われます」という記述があるが、データに基づいて記述することが望ましい。

<令和3年度の評価>

「共有できていると思われます」から「共有できています」という表現となり、根拠に基づいた記述となった。

(2) 政策 02 施策 03 基本事業 01「自然環境保全活動の推進」

＜令和 2 年度における提言＞

「基本事業成果指標」の「自然環境保全活動に参加している団体数」の＜原因＞において、「市民や企業の意識が高まってきている」とあるが、数値は前年と変化していない。意識が高まっているにもかかわらず、なぜ団体数が増加していないのか要因について分析することが望ましい。

＜令和 3 年度の評価＞

団体の活動が休止された原因について分析し、記述されるようになった。

(3) 政策 02 施策 04 基本事業 01「安定給水の確保」

＜令和 2 年度における提言＞

「基本事業成果指標」の「漏水事故件数【広域水道】」の＜原因＞において、「配水管改良工事を計画的に実施し、漏水事故の減少に努めています」とあるが、平成 30 年度の 23 件に対して、令和元年度は 26 件となり増加している。増加している要因について分析することが望ましい。

＜令和 3 年度の評価＞

漏水事故が増加した原因について分析し、記述されるようになった。

(4) 政策 05 施策 01「学校教育の充実」

＜令和 2 年度における提言＞

「学校生活に満足している児童の割合」の＜原因＞において、「支援員の配置によりきめ細かな指導が行き渡っている」とあるが、それにもかかわらず、数値が減少傾向である要因は何か分析すると今後の対策につながる。

＜令和 3 年度の評価＞

数値の背景について、多面的に分析し説明されるようになった。

(5) 政策 05 施策 01「学校教育の充実」

＜令和 2 年度における提言＞

「学校生活に満足している生徒の割合」の＜原因＞について、令和元年度では「相談体制はあるが、利用に結びつかなかったことが原因」とあるが、令和 2 年度では、相談体制についての記述がない。数値が減少傾向にあるなかで、相談体制をどのように見直しているかを記述することが望ましい。

＜令和 3 年度の評価＞

相談体制に関する記述はなく、コロナ禍における学校の状況の変化について明記された。

(6) 政策 05 施策 01 基本事業 05 「教育環境の整備」

＜令和 2 年度における提言＞

「学校施設・給食施設の不具合による学校生活支障件数」は 0 件で推移し、めざそう値を達成している。＜原因＞において、「突発的な案件についても迅速かつ適切に対応してきた」とあるが、このようなフィードバックのあり方は他の政策においても参考となる。

＜令和 3 年度の評価＞

迅速かつ適切な対応により、「学校施設・給食施設の不具合による学校生活支障件数」は 0 件が続いている。

(7) 政策 05 施策 03 基本事業 02 「体育関係団体・指導者の育成」

＜令和 2 年度における提言＞

「体育関係団体の指導者数」の＜原因＞において、「指導者数を維持している」とあるが、基準値と比較して減少している理由を分析することで、めざそう値を達成するために必要な対策を明らかにすることが望ましい。

＜令和 3 年度の評価＞

指導者数が減少している要因を分析したうえで、今後の対策について記述されるようになった。

(8) 政策 05 施策 04 「人権尊重のまちづくり」

＜令和 2 年度における提言＞

「あらゆる分野で男女が対等に参画していると思う市民の割合」の＜原因＞において、世代別や男女別の割合について記述されていることは分かりやすい。そのうえで、それぞれの数値の原因を分析し、その改善点まで考察すると今後の対策につながる。

＜令和 3 年度の評価＞

世代別や男女別だけでなく、職業別の割合についても記述されるようになった。

(9) 政策 06 施策 02 「開かれた市政とまちの魅力発信」

＜令和 2 年度における提言＞

「多様な市民の声を取り入れる仕組みとなっていると思う市民の割合」の＜原因＞において、令和元年度では「30 歳代等の若い世代の意見を聞く機会がなかった」という記述があり、令和 2 年度では「年齢別で 10～20 歳代の若い世代で満足している割合が高く、職業別では『学生』が高くなっている」となっている。年齢別の割合について、それぞれの数値の原因を分析し、その改善点まで考察すると今後の対策につながる。

＜令和 3 年度の評価＞

年齢別や職業別で分析し、今後の対策につながる記述となっている。

(10) 政策 06 施策 02 「開かれた市政とまちの魅力発信」

＜令和 2 年度における提言＞

「市民の声が市政に届いていると思う市民の割合」の＜原因＞において、世代別の割合について記述されていることは分かりやすい。そのうえで、それぞれの数値の原因を分析し、その改善点まで考察すると今後の対策につながる。

＜令和 3 年度の評価＞

世代別で分析し、今後の対策につながる記述となっている。

4. 「まちづくり報告書」の各項目の内容と課題

(1) 「施策のプロフィール」

- ① 「施策の対象」が書かれており、それぞれの施策について誰のために実施しているかが明らかになっている。
- ② 「施策の意図」が書かれており、一つひとつの施策について、市民が市の目標や方向性をイメージできる。

(2) 施策・基本事業の「指標」について

山武市の成果指標は、上位から「施策」、「基本事業」、「事務事業」として構成される体系の各階層が目的と手段の関係になっている。「施策」や「基本事業」で定めた対象や意図に対し、成果達成度を分かりやすくする観点から指標を選択し、その進捗状況を具体的な数値で測っている。

(3) 施策・基本事業の「グラフ」について

- ① 指標について客観的なデータが示されており現状を把握できる。
- ② 前年度との比較で現状を把握できトレンドが分かる。

(4) グラフの「めざそう値」について

施策の成果指標の「めざそう値」を設定していることにより、山武市の未来に対する明確な目標が分かる。また、設定した基準も明確になっており、市民にとっても分かりやすい。

達成目標の設定は、Specific（具体的である）、Measurable（測定可能である）、Ambitious（意欲的である）、Realistic（現実的である）、Time bound（時宜を得ている）であることが望ましいが、山武市の「めざそう値」はこれらすべてを満たしている。Ambitious かつ Realistic な目標を設定することは難しいが、山武市の「めざそう値」は、これらを両立できる値に適切に設定されている。これにより市民も未来に対する目標や方向性を共有することができる。

(5) 「評価」のなかの「原因」について

① 政策 01 施策 02 「公共交通網の整備・充実」

「公共交通網の満足度」について、令和 2 年度と令和 3 年度のまちづくり報告書の記述を比較すると、地域別では大きな変化はないが、男女別と年代別で変化があったことが分かる。1 年間で「女性」と「40 代」の満足度が低下した原因を分析することが求められる。

② 政策 01 施策 02 基本事業 01 「市内における交通手段の確保」

「基本事業成果指標」の「市内移動の交通手段に困っている市民の割合」において、令和元年度と令和 2 年度のまちづくり報告書では、若年層の割合が高いことが記述されているが、令和 3 年度のまちづくり報告書では年代別についての記述がない。若年層の割合が低下した要因を分析することが望ましい。

③ 政策 01 施策 02 基本事業 01 「市内における交通手段の確保」

「基本事業成果指標」の「バス運行状況の満足度」において、「満足度の向上に寄与している」と記述があるが、実績値は 4 ポイント減少しており、減少した要因を分析することが望ましい。「旧町村地域で差異が見受けられる」とあるが、令和元年度のまちづくり報告書においても同様の記述がある。地域での差異が生じている現状に対して、2 年間の取組とそれが満足度に与えた影響について分析することが求められる。

④ 政策 02 施策 01 基本事業 03 「航空機騒音等の対策」

「航空機騒音対策に対する満足度」について、令和元年度、令和２年度、令和３年度のそれぞれのまちづくり報告書で、「防音家屋冷暖房設備維持管理補助金」を要因として挙げている。しかし、年度によって満足度の変動があり、その他の要因を考慮し複眼的に分析することが望ましい。

⑤ 政策 02 施策 03 「自然環境の保全」

「自然環境の満足度」について、令和元年度と令和２年度のまちづくり報告書において松尾地域と蓮沼地域について記述しているが、令和３年度のまちづくり報告書では、地域に関する記述がない。年度によって、地域による満足度の変動がなぜ生じているか分析すると今後の対策につながる。

⑥ 政策 02 施策 04 「上水道の充実」

「給水戸数【広域水道】」において、改良工事の実施に関する記述があるが、普及率は他地域と比較して低く、今後は切り替えによるメリットとデメリットについて市民に情報を共有していく必要がある。

⑦ 政策 04 施策 01 基本事業 01 「生きがいつくりと介護予防の推進」

「基本事業成果指標」の「社会参加している高齢者の割合」において、減少の要因が記述されているが、実績値が前年度に比べて増加している。記述されているような要因があるにもかかわらず、実績値が増加した要因を分析することで今後の対策が明確になる。

⑧ 政策 04 施策 01 基本事業 01 「生きがいつくりと介護予防の推進」

「基本事業成果指標」の「生きがいを持っている高齢者の割合」において、新型コロナウイルスに関する記述があるが、令和元年度のまちづくり報告書に記載されている「趣味・娯楽」、「仕事・就職等」に生きがいを感じる割合がどのように変化したか分析することが望ましい。

⑨ 政策 04 施策 03 基本事業 02 「健診の受診率向上と生活習慣の改善」

「メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合」において、男女別で数値が記述されている。これを踏まえて、基準値と比較して増加している理由を分析することで、めざそう値を達成するために必要な対策を明らかにすることが望ましい。

⑩ 政策 04 施策 05 基本事業 01「地域福祉の担い手育成」

「基本事業成果指標」の「地域福祉サービスや福祉のボランティアをしたことがある市民の割合」において、令和 2 年度のまちづくり報告書では、台風 15 号などの災害のボランティアが要因として挙げられている。令和 3 年度のまちづくり報告書では、「ボランティアを行うことに対する市民の意識が浸透してきているのではないかと考えられます」と記載されているが、根拠を明確にすることにより今後の対策に繋がる。

⑪ 政策 05 施策 03「スポーツの振興」

「スポーツ活動に親しむ市民の割合」において、「スポーツ活動やウォーキングに親しむ市民の割合は増加している」とあるが、実績値が減少している事実に基づいた分析が求められる。

⑫ 政策 06 施策 02 基本事業 01「情報発信力の充実」

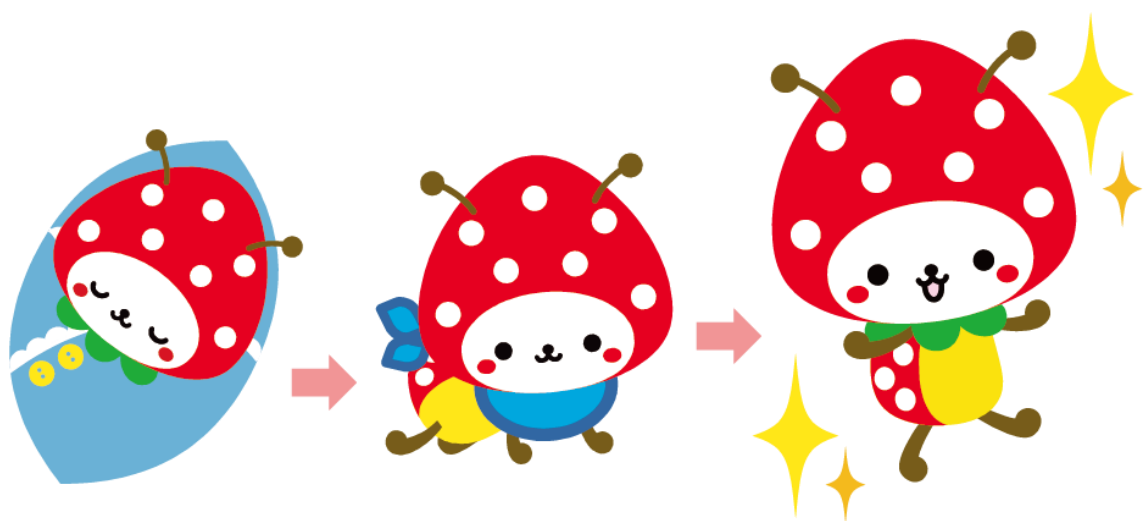
「広報誌が分かりやすいと思う市民の割合」において、「文字が多い紙面構成」であることが挙げられているが、令和元年度のまちづくり報告書においても同じ要因が挙げられている。紙面構成について 2 年間でどのような取組をしてきて、それが実績値に与えた影響を分析することが望ましい。

5.「海と緑、人が集い、住まう誇りがもてるまち 山武」に向けて

山武市においては市民の生活に直結する事業を中心に評価が実施されている。平成 25 年度から始まった後期基本計画は計画期間が終了し、これまでのまちづくりの評価結果を踏まえ、令和元年度から第 2 次山武市総合計画が策定され、今後のまちづくりに向けて、着実に対応が図られている。

また、この「学識経験を有する者の知見」で提言したことが次年度の「まちづくり報告書」の作成にフィードバックされており、年々、評価手法が進化している。

山武市を取り巻く環境の変化に的確に対応し、今後も行政評価の結果を政策にフィードバックすることで、「海と緑、人が集い、住まう誇りがもてるまち 山武」を実現していくことが望まれる。



5. 総合計画の体系図

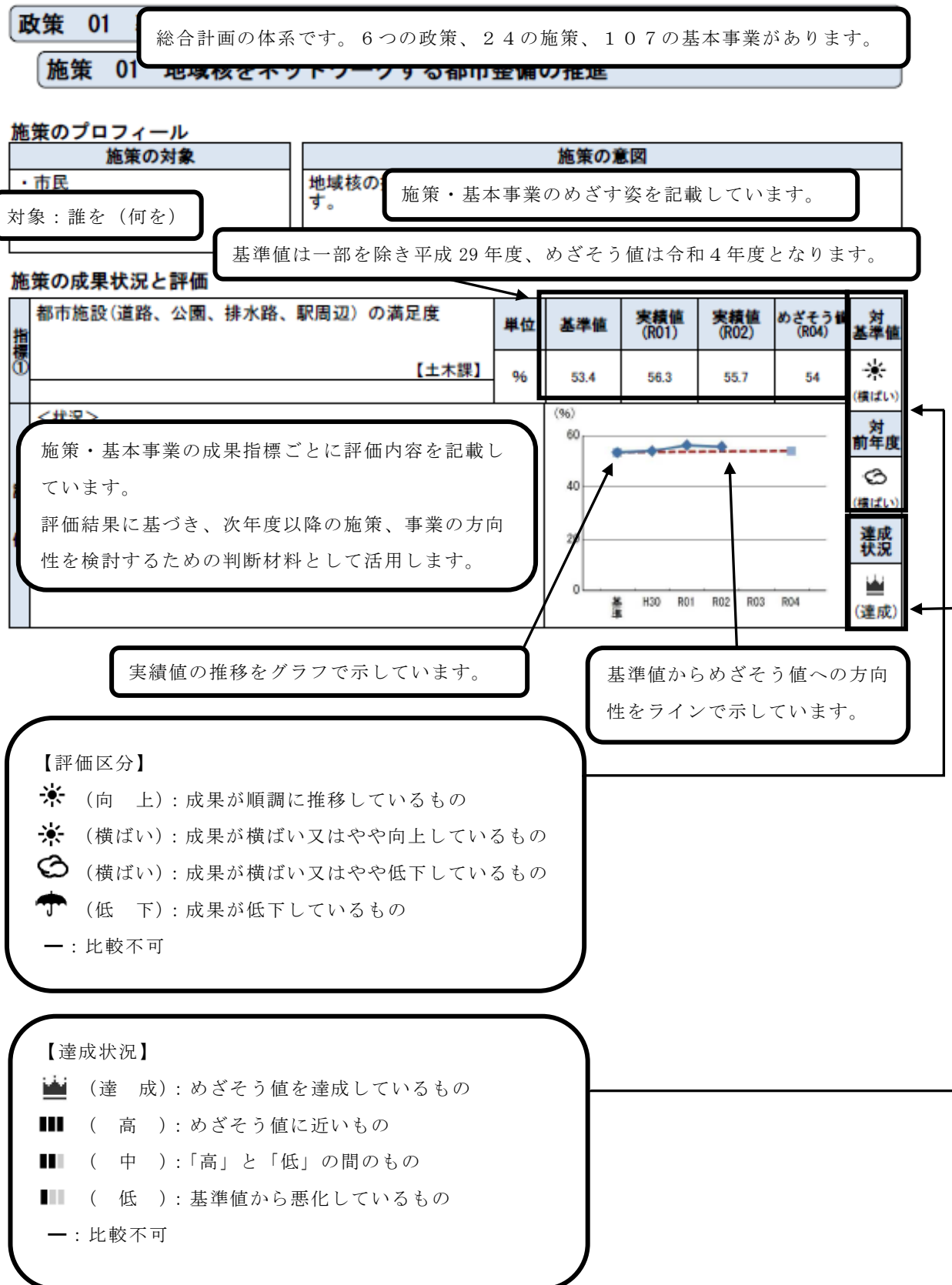
基本構想 ・ 海岸、田園、丘陵という豊かな自然環境を活かしたまちづくり
 ・ 成田国際空港と圏央道ネットワークを意識したまちづくり
 ・ 将来に渡って持続可能で魅力あるまちづくり

政策名	施策名	基本事業名	重点分野	行政改革
1 暮らしを支える快適なまちづくり	1 地域核をネットワークする都市整備の推進	1 道路網の整備・維持管理	●	
		2 成田空港周辺地域としての基盤整備	●	
		3 浸水対策の推進		
		4 駅周辺の利便性の向上	●	
		5 公園の適正な管理		
		6 まちなみ・家屋・土地の適正管理と有効活用	●	
	2 公共交通網の整備・充実	1 市内における交通手段の確保	●	●
		2 バスでの主要都市へのアクセス向上		
		3 鉄道の利便性向上		
	3 防災・減災対策の推進	1 地域防災力の向上		
		2 災害支援体制の確立		
		3 防災意識の向上		●
		4 消防力の充実		
		5 強靱化対策の推進		
2 住みやすい環境と安全なまちづくり	1 生活環境の充実	1 生活公害の対策		
		2 美化運動の推進と不法投棄防止対策		
		3 航空機騒音等の対策		
	2 廃棄物の減量・処理の適正化	1 ごみの減量化・再資源化の推進		
		2 廃棄物に関する意識の向上と啓発		
		3 ごみ処理の効率化		
	3 自然環境の保全	1 自然環境保全活動の推進		
		2 自然環境取組意識の向上		
		3 バイオマスタウン構想の推進		
		4 再生可能エネルギー対策の推進		
		5 汚水処理の推進		
	4 上水道の充実	1 安定給水の確保		
		2 水質の安全性の確保		
		3 地震等の災害対策		
		4 経営の健全化		
	5 防犯・交通安全の推進	1 防犯体制の充実		
		2 児童・生徒の安全確保		
		3 犯罪がおこりにくい環境に向けての施設設備の整備		
		4 消費者トラブルの防止		
		5 交通安全意識の向上		
3 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり	1 農林水産業の振興	1 経営の安定化の推進		
		2 担い手の育成・支援	●	
		3 農地の利用集積の推進		
		4 農産物の付加価値向上と販路の拡大		
		5 農業基盤整備の推進		
		6 森林再生の推進		
	2 商工業の振興と地域経済活性化	1 市内消費の向上		
		2 経営体の体質強化・育成		
		3 企業立地と企業定着による雇用の推進	●	
		4 成田空港経済圏の形成	●	
	3 観光の振興	1 魅力ある観光事業の推進		
		2 海岸を活用した観光推進	●	
		3 観光情報の発信		

政策名	施策名	基本事業名	重点分野	行政改革
4	だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり 「保健・福祉・医療の充実」	1 高齢者福祉の充実	1 生きがいづくりと介護予防の推進 2 介護サービス・日常生活の支援 3 安全・安心な生活への仕組みづくり 4 介護保険制度の安定的な運用	●
		2 障がい者（児）福祉の充実	1 自立支援サービスの促進 2 地域生活支援の基盤づくり 3 社会活動参加の促進 4 児童発達支援の充実	
		3 健康づくりの推進	1 心身の健康管理の充実 2 健診の受診率向上と生活習慣の改善 3 母子の健康管理 4 医療体制の充実 5 国民健康保険医療費の改善	● ●
		4 子育ての支援	1 幼保機能の充実 2 子育て不安の軽減 3 子育て家庭への援助 4 こどもの人権の尊重 5 学童保育の充実 6 次世代育成による家族形成の支援	● ●
		5 地域福祉の充実とセーフティネットの推進	1 地域福祉の担い手育成 2 社会福祉機関・団体の充実 3 生活困窮者自立支援の充実 4 生活保護制度の適正な実施 5 公営住宅の維持管理	
5	生涯を通じて人と人との学びあえるまちづくり 「教育・文化の振興」	1 学校教育の充実	1 「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進 2 「健やかな体」の育成 3 「豊かな心」を育む 4 ICT 教育の実践 5 教育環境の整備 6 地域と学校の協力体制の推進	● ●
		2 生涯学習の推進	1 主体的な学習の推進 2 生涯学習施設の利用促進 3 文化財の保護・活用 4 芸術文化活動の充実 5 青少年の育成	
		3 スポーツの振興	1 スポーツ活動の充実 2 体育関係団体・指導者の育成 3 体育施設の利用促進	
		4 人権尊重のまちづくり	1 人権教育・人権啓発の推進 2 人権擁護の推進 3 男女共同参画の推進	
		1 協働と交流によるまちづくり	1 区・自治会活動の活性化 2 市民活動の活性化 3 市民活動施設の利用促進 4 多文化共生社会の推進 5 東京オリンピック・パラリンピック関連事業の推進	●
		2 開かれた市政とまちの魅力発信	1 情報発信力の充実 2 広聴の充実 3 議会情報の公開の推進	● ●
		3 計画的・効率的な行財政運営	1 行政経営の推進 2 人材育成と効率的な組織運営 3 健全な財政運営 4 税収の確保 5 公共資産の適正化とファシリティマネジメントの推進 6 情報化の推進と適正管理	● ● ● ● ●
		4 公正確実な事務の執行	1 適正な会計処理 2 積極的な選挙啓発 3 監査の充実 4 情報公開及び個人情報保護の推進 5 窓口サービスの向上 6 公平・公正な課税	● ●
6	市民と行政が協働してつくるまちづくり 「コミュニティ推進と行財政の効率化」	1 協働と交流によるまちづくり	1 区・自治会活動の活性化 2 市民活動の活性化 3 市民活動施設の利用促進 4 多文化共生社会の推進 5 東京オリンピック・パラリンピック関連事業の推進	●
		2 開かれた市政とまちの魅力発信	1 情報発信力の充実 2 広聴の充実 3 議会情報の公開の推進	● ●
		3 計画的・効率的な行財政運営	1 行政経営の推進 2 人材育成と効率的な組織運営 3 健全な財政運営 4 税収の確保 5 公共資産の適正化とファシリティマネジメントの推進 6 情報化の推進と適正管理	● ● ● ● ●
		4 公正確実な事務の執行	1 適正な会計処理 2 積極的な選挙啓発 3 監査の充実 4 情報公開及び個人情報保護の推進 5 窓口サービスの向上 6 公平・公正な課税	● ●

6. 施策の進み具合の報告

(1) 評価結果の見方



(2) 施策・基本事業評価結果

【政 策】

1 暮らしを支える快適なまちづくり

【施 策】

1-1 地域核をネットワークする都市整備の推進

1-2 公共交通網の整備・充実

1-3 防災・減災対策の充実

政策 01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策 01 地域核をネットワークする都市整備の推進

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆国・県道においては、市街地における国道126号とそれに接続する県道の渋滞緩和や、通学路及び生活道路では安全に通行できる環境整備が、それぞれ求められています。加えて、成田空港の機能強化に伴い、成田空港方面へのアクセス改善や、産業振興を視野に入れた道路環境の改善が必要となっています。

◆排水路等を含む道路施設や公園施設については、適正な管理が求められ、定期的な調査や修繕が必要となっています。

◆駅周辺の市街地については、人口が微減する一方、高齢化が進んでいることから、駅周辺の中心市街地の活性化や、利便性の向上を図る必要があります。その他の地域では、人口減少に伴い増加している空家への対策等を通じて、秩序あるまちなみ形成につなげる必要があります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
都市施設(道路、公園、排水路、駅周辺)の満足度 (%)	成果	56.3	55.7	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	道路の拡幅・改良・新設延長(計画期間累計) (km)	成果	2.91	4.59	☀ (向上)	☀ (向上)	○
01	道路・橋りょうの維持管理上の瑕疵による損害賠償件数(件)	成果	2	0	☀ (横ばい)	☀ (向上)	
02	成田空港関連事業実施箇所数(延べ) (箇所)	成果	30	76	☀ (向上)	☀ (向上)	
03	床上浸水件数(件)	成果	61	0	☀ (横ばい)	☀ (向上)	○
04	駅周辺の利便性に対する満足度 (%)	成果	47	43.5	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
05	都市公園長寿命化進捗率 (%)	成果	13.4	22.4	☀ (向上)	☀ (向上)	
05	公園の維持管理上の瑕疵による損害賠償件数(件)	成果	0	0	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
06	空家対策数(件)	成果	8	19	☀ (向上)	☀ (向上)	○
06	景観条例指導件数(件)	成果	0	0	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策 01 地域核をネットワークする都市整備の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民 ・ 市全域	地域核の拠点機能及びネットワークが形成され、利便性が向上します。

施策の成果状況と評価

指標①	都市施設(道路、公園、排水路、駅周辺)の満足度	単位	基準値	実績値(R01)	実績値(R02)	めざそう値(R04)	対基準値
	【土木課】	%	53.4	56.3	55.7	54	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の都市施設(道路、公園、排水路、駅周辺)の満足度は55.7%で、前年度と比較して0.6ポイント減少しましたが、基準値と比較すると2.3ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 都市施設の整備については、特に駅周辺の利便性について満足度が低い結果となりましたが、市内の各駅前の店舗などの立寄り場がなくなっていることや、駅までのアクセス道路の整備が遅れていることなどが要因と考えられます。						対前年度
							☁ (横ばい)
							達成状況
							🏰 (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

基本事業 01	道路網の整備・維持管理
基本事業 02	成田空港周辺地域としての基盤整備
基本事業 03	浸水対策の推進
基本事業 04	駅周辺の利便性の向上
基本事業 05	公園の適正な管理
基本事業 06	まちなみ・家屋・土地の適正管理と有効活用

指標 ①	道路の拡幅・改良・新設延長（計画期間累計）	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
		Km	0	2.91	4.59	8	 (向上)
評価	<状況> 令和2年度の道路の拡幅・改良・新設延長は4.59kmで、前年度と比較して1.68km増加しました。 <原因> 道路網の整備・維持管理が順調に進んでいるためです。						 (向上)
							 達成 状況
							 (中)

指標 ①	床上浸水件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値																		
		【土木課】	件	0	61	0	0	☀️ (横ばい)																	
評価	<状況> 令和2年度の床上浸水件数は0件で前年度と比較して61件減少し、めざそう値を達成しました。 <原因> 令和2年度は大きな水害がなく、めざそう値を達成しましたが、近年の気象状況の変化により、既設排水路の規格、改修を含め対策が必要と考えられます。	(件) <table border="1"> <caption>地上浸水件数推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R01</td> <td>61</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R02</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R03</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R04</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>					年度	件数	目標値	H30	0	0	R01	61	0	R02	0	0	R03	0	0	R04	0	0	☀️ 対 前年度 ☀️ (向上) ✅ 達成 状況 🏠 (達成)
	年度	件数	目標値																						
H30	0	0																							
R01	61	0																							
R02	0	0																							
R03	0	0																							
R04	0	0																							

指標①	駅周辺の利便性に対する満足度	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値														
	【都市整備課】	%	40.8	47	43.5	43	☀️ (横ばい)														
評価	<状況> 令和2年度の駅周辺の利便性に対する満足度は43.5%で、前年度と比較して3.5ポイント減少しましたが、基準値と比較すると2.7ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 各駅での駅前広場、駅舎等の整備が行われなかったことにより、利便性の向上が図られなかったことが要因と考えられます。 老朽化した駅舎の改修、待避場などの整備による利便性の向上が求められています。	<table border="1"> <caption>駅周辺の利便性に対する満足度推移</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準</td> <td>40.8</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>41.5</td> </tr> <tr> <td>R01</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>R02</td> <td>43.5</td> </tr> <tr> <td>R03</td> <td>43.5</td> </tr> <tr> <td>R04</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table>					項目	値	基準	40.8	H30	41.5	R01	47	R02	43.5	R03	43.5	R04	43	対前年度 ☁️ (横ばい) 達成状況 🏰 (達成)
	項目	値																			
基準	40.8																				
H30	41.5																				
R01	47																				
R02	43.5																				
R03	43.5																				
R04	43																				

指標 ①	空家対策数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値														
	【都市整備課】	件	0	8	19	66	☀ 対 前年度														
評 価	<状況> 令和2年度の空家対策数は19件で、基準値と比較して19件増加、前年度と比較して11件増加しました。 <原因> 空家対策として所有者への啓発リーフレットの配布や、地区回覧による周知を行いました。また、適正管理に対する助言書の通知や、特定空家等の認定を実施しました。 こうした取り組みにより、空家の適正管理に対する所有者の意識が高まり、空家の改善に至ったケースが増えたことが原因と考えられます。	(件) <table border="1"> <caption>空家対策数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R01</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>R02</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>R03</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>R04</td> <td>66</td> </tr> </tbody> </table>					年度	件数	基準	0	H30	0	R01	8	R02	19	R03	19	R04	66	☀ (向上) 達成状況
	年度	件数																			
基準	0																				
H30	0																				
R01	8																				
R02	19																				
R03	19																				
R04	66																				
							■ (中)														

政策 01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策 02 公共交通網の整備・充実

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆人口減少及び少子高齢化（令和3年4月1日現在、高齢化率35.67%）が急速に進んでおり、日常生活の移動手段がない高齢者が増加傾向にあり、交通弱者の移動手段として公共交通の重要性は大きくなっています。
◆そのため、市内3区域内を運行するデマンド対応の乗合タクシーと、各地域の拠点及び主要施設間を連絡する基幹バスを運行し、接続可能な公共交通の確立を目指します。
◆本計画期間では、平成30年度に策定した「山武市地域公共交通網形成計画」に基づき、各交通手段の連携と維持向上、より公共交通を使いやすい環境づくりに取り組んでいきます。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
公共交通網の満足度（％）	成果	45.9	42.4	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	市内移動の交通手段に困っている市民の割合（％）	成果	34.5	35.8	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
01	基幹バスの年間利用者数（人）	代替	47,854	34,640	☂ (低下)	☂ (低下)	○
01	乗合タクシーの年間利用者数（人）	代替	47,462	39,131	☂ (低下)	☂ (低下)	
01	バス運行状況の満足度（％）	成果	42.4	38.4	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	
02	東京・千葉方面への1日当たりのバス利用者数（人）	成果	1,117	605	☂ (低下)	☂ (低下)	
02	成田空港方面への1日当たりのバス利用者数（人）	成果	68.5	33.4	☂ (低下)	☂ (低下)	○
03	1日当たりの鉄道利用者数（人）	代替	4,551	3,363	☂ (低下)	☂ (低下)	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策 02 公共交通網の整備・充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民 ・ 交通事業者	・ 公共交通網が充実し、市民生活における移動の利便性が高まります。

施策の成果状況と評価

指標①	公共交通網の満足度	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【企画政策課】	%	41.3	45.9	42.4	45	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の公共交通網の満足度は42.4%で、基準値と比較して1.1ポイント増加しましたが、前年度と比較して3.5ポイント減少しました。 <原因> アンケートの割合では、男性47.2%、女性38.9%、年代別では40歳代が38.6%で最も低い数値です。地域別では成東52.3%、山武33.3%、蓮沼35.2%、松尾43.0%で地域差がみられます。これらのことから女性視点や地域視点での利便性を踏まえた公共交通網の整備が求められているものと考えます。						対前年度
							☁ (横ばい)
							達成状況
							■■■ (高)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 市内における交通手段の確保

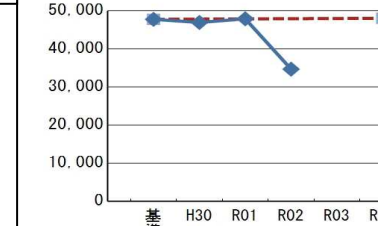
基本事業 02 バスでの主要都市へのアクセス向上

基本事業 03 鉄道の利便性向上

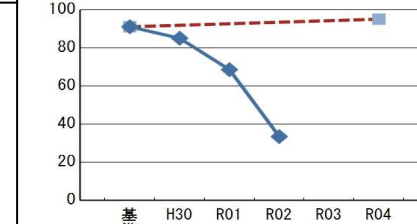
基本事業01 市内における交通手段の確保

指標①	市内移動の交通手段に困っている市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値														
	【企画政策課】	%	39.7	34.5	35.8	35.8															
評価	＜状況＞ 令和2年度の市内移動の交通手段に困っている市民の割合は35.8%で、前年度と比較して1.3ポイント増加しましたが、基準値と比較すると3.9ポイント減少し、めざそう値を達成しました。 ＜原因＞ アンケートの割合では、地域別で成東32.6%、山武41.7%、蓮沼23.9%、松尾32.7%で差異が見られ、性別や年齢等では突出した要因は見られませんが、地域ニーズに配慮した取り組みが必要と考えます。	<table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>39.7</td></tr><tr><td>H30</td><td>35.8</td></tr><tr><td>R01</td><td>34.5</td></tr><tr><td>R02</td><td>35.8</td></tr><tr><td>R03</td><td>-</td></tr><tr><td>R04</td><td>35.8</td></tr></tbody></table>					項目	値 (%)	基準	39.7	H30	35.8	R01	34.5	R02	35.8	R03	-	R04	35.8	 (横ばい)
							項目	値 (%)													
							基準	39.7													
							H30	35.8													
R01	34.5																				
R02	35.8																				
R03	-																				
R04	35.8																				
対前年度																					
 (横ばい)																					
達成状況																					
 (達成)																					

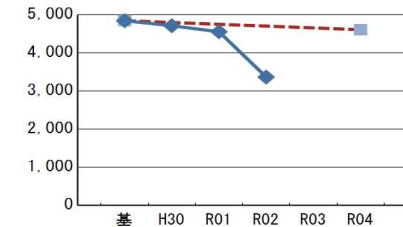
基本事業01 市内における交通手段の確保

指標②	基幹バスの年間利用者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値														
		人	47,723	47,854	34,640	48,000															
評価	【企画政策課】																				
	＜状況＞ 令和2年度の基幹バスの年間利用者数は34,640人で、基準値と比較して13,083人、前年度と比較して13,214人減少しました。 ＜原因＞ 利用者数の減少は、新型コロナウイルス感染症に係る国県の措置として、外出や移動の自粛が求められたこと等が考えられます。	(人)  <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>47,723</td></tr><tr><td>H30</td><td>47,854</td></tr><tr><td>R01</td><td>47,854</td></tr><tr><td>R02</td><td>34,640</td></tr><tr><td>R03</td><td>-</td></tr><tr><td>R04</td><td>34,640</td></tr></tbody></table>					項目	値	基準	47,723	H30	47,854	R01	47,854	R02	34,640	R03	-	R04	34,640	(低下)
		項目	値																		
		基準	47,723																		
H30	47,854																				
R01	47,854																				
R02	34,640																				
R03	-																				
R04	34,640																				
						対前年度															
						 (低下)															
						達成状況															
						 (低)															

基本事業02 バスでの主要都市へのアクセス向上

指標②	成田空港方面への1日当たりのバス利用者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【空港地域振興課】	人	91	68.5	33.4	95	
評価	＜状況＞ 令和2年度の成田空港方面への1日当たりのバス利用者数は33.4人で、基準値と比較して57.6人減少、前年度と比較して35.1人減少しました。 ＜原因＞ 令和2年度は年間を通してコロナ禍にあり、空港従業員や観光などの空港利用者数が、引き続き低迷したことが主な要因と思われます。感染症対策に十分配慮し運行を行います。	(人)					(低下)
			対前年度				
							
			達成状況				
値							 (低)

基本事業03 鉄道の利便性向上

指標 ①	1日当たりの鉄道利用者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値														
		人	4,841	4,551	3,363	4,605															
評 価	【企画政策課】		(人)  <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>4,841</td></tr><tr><td>H30</td><td>4,750</td></tr><tr><td>R01</td><td>4,551</td></tr><tr><td>R02</td><td>3,363</td></tr><tr><td>R03</td><td>3,363</td></tr><tr><td>R04</td><td>3,363</td></tr></tbody></table>				項目	値	基準	4,841	H30	4,750	R01	4,551	R02	3,363	R03	3,363	R04	3,363	(低下)
	項目	値																			
	基準	4,841																			
	H30	4,750																			
R01	4,551																				
R02	3,363																				
R03	3,363																				
R04	3,363																				
<状況> 令和2年度の1日当たりの鉄道利用者数は3,363人で、基準値と比較して1,478人減少、前年度と比較して1,188人減少しました。 <原因> 各駅の利用者の内訳は、成東駅2,052人(前年比731人減)、日向駅638人(前年比235人)、松尾駅673人(前年比222人減)です。要因として、人口減少や少子高齢化による通勤通学利用者の減少のほか、新型コロナウイルス感染症に係る都心部への移動自粛やリモートワークの普及が考えられます。		対 前年度																			
																					
		(低下)																			
		達成 状況																			
																					
		(低)																			

政策 01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策 03 防災・減災対策の推進

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

- ◆東日本大震災以降、市内の自主防災組織の設置が促進されています。地域主体の継続的な活動が期待されます。
- ◆千葉県地域防災計画の一部改訂を受けて、避難行動要支援者の個別支援計画の策定が必要となります。
- ◆近年は台風等の集中豪雨による災害が多く発生しています。自主防災組織による訓練等の積極的な活動が期待されます。
- ◆地域防災強化として消防団員の確保が必要です。団員の消防技術の維持・向上のために訓練が必要です。
- ◆津波対策としての井之内地先に津波避難施設（築山）の整備が完了しました。地域住民に対して避難施設や備蓄物資の活用方法の周知を図る必要があります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
災害被災戸数(火災含む) 戸)	成果	2,621	40	☀ (向上)	☀ (向上)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	自主防災組織数 組織)	成果	81	85	☀ (向上)	☀ (横ばい)	○
01	各地区防災訓練実施率 (%)	成果	46.2	46.2	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
01	避難行動要支援者名簿の情報提供に同意した人数の割合 (%)	代替	22.3	88.1	☀ (向上)	☀ (向上)	
02	地域防災計画における災害支援体制 7項目の充足率 (%)	成果	100	100	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
03	災害に対する備えの平均実施項目数(全12項目) 項目)	成果	4.88	4.67	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
04	消防団の火災出動率 (%)	成果	65.8	74	☀ (向上)	☀ (向上)	
04	消防団員の充足率 (%)	成果	93.5	90.5	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
04	常備消防職員の充足率 (%)	代替	98.2	97.8	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	
05	強靱化対策が終了した箇所 施設数 東日本大震災以降の累計) 箇所)	成果	5	7	☀ (向上)	☀ (向上)	

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策 03 防災・減災対策の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民・行政 ・ 消防団・常備消防	・ 市民の防災意識が高まり、地域の防災力が向上し、災害の被害が少なくなります。

施策の成果状況と評価

指標①	災害被災戸数(火災含む)	単位	基準値	実績値(R01)	実績値(R02)	めざそう値(R04)	対基準値
	【消防防災課】	戸	59	2,621	40	50	☀ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の災害被災戸数(火災含む)は40戸で、基準値と比較して19戸減少、前年度と比較して2,581戸減少し、めざそう値を達成しました。 <原因> 令和2年度は、大きな災害が発生しなかったことが要因と考えます。火災件数は令和元年度が31件、令和2年度は36件で、5件増加しているので、市民への火災予防に対する意識向上を図っていきます。		(戸)				対前年度
							☀ (向上)
							達成状況
							🏰 (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 地域防災力の向上

基本事業 02 災害支援体制の確立

基本事業 03 防災意識の向上

基本事業 04 消防力の充実

基本事業 05 強靱化対策の推進

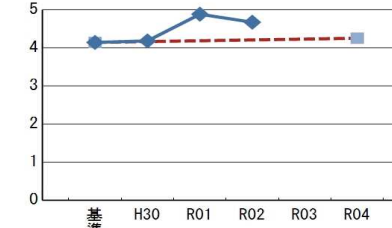
基本事業01 地域防災力の向上

指標 ①	自主防災組織数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値															
		組織	67	81	85	72																
評 価	【消防防災課】		(組織)					(向上)														
	<状況> 令和2年度の自主防災組織数は85組織で、基準値と比較して18組織増加、前年度と比較して4組織増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 令和元年房総半島台風の影響や広報等により共助の必要性を周知したことで、市民の防災意識が高まり、各地域における自主防災組織の必要性が認識されているものと考えます。		<table><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>67</td></tr><tr><td>H30</td><td>71</td></tr><tr><td>R01</td><td>81</td></tr><tr><td>R02</td><td>85</td></tr><tr><td>R03</td><td>85</td></tr><tr><td>R04</td><td>72</td></tr></tbody></table>					項目	値	基準	67	H30	71	R01	81	R02	85	R03	85	R04	72	(対前年度)
			項目	値																		
			基準	67																		
			H30	71																		
R01	81																					
R02	85																					
R03	85																					
R04	72																					
					(横ばい)																	
					達成状況																	
					(達成)																	

基本事業02 災害支援体制の確立

指標 ①	地域防災計画における災害支援体制7項目の充足率	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値														
	【消防防災課】	%	100	100	100	100															
評 価	<状況> 令和2年度の地域防災計画における災害支援体制7項目の充足率は100%で、基準値を維持し、めざそう値を達成しました。 <原因> 令和2年度災害協定については、64協定を締結しています。備蓄品については、賞味期限を迎える食品等の入替えを行いました。避難所、給水体制(22箇所)、伝達手段(8種類)については、基準値を維持しています。防災行政無線、戸別受信機の不具合については、保守管理を実施し修繕、交換にて対応しています。	(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>基準</th><th>H30</th><th>R01</th><th>R02</th><th>R03</th><th>R04</th></tr></thead><tbody><tr><td>充足率</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr></tbody></table>					項目	基準	H30	R01	R02	R03	R04	充足率	100	100	100	100	100	100	(横ばい)
		項目	基準	H30	R01	R02	R03	R04													
		充足率	100	100	100	100	100	100													
		対 前年度																			
		(横ばい)																			
達成 状況																					
(達成)																					

基本事業03 防災意識の向上

指標 ①	災害に対する備えの平均実施項目数(全12項目)	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
		項目	4.14	4.88	4.67	4.25	
評 価		(項目)					(横ばい)
	<状況> 令和2年度の災害に対する備えの平均実施項目数(全12項目)は4.67項目で、前年度と比較して0.21項目減少しましたが、基準値と比較すると0.53項目増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 災害時に必要とされる飲料水、保存食品、ラジオ・懐中電灯、燃料などの基本的な備えや家族内で災害時の避難場所の共有ができています。						対 前年度  (横ばい)
							達成 状況  (達成)

基本事業04 消防力の充実

消防団員の充足率		単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
指標②	【消防防災課】	%	95.3	93.5	90.5	96	
評価							(横ばい)
	<状況> 令和2年度の消防団員の充足率は90.5%で、基準値と比較して4.8ポイント減少、前年度と比較して3ポイント減少しました。						対 前年度
	<原因> 若年層の減少や地域参加への意識希薄化等により、新入団員の確保が難しくなっていると考えられます。						
							(横ばい)
							達成 状況
							(低)



【政 策】

2 住みやすい環境と安全なまちづくり

【施 策】

2-1 生活環境の充実

2-2 廃棄物の減量・処理の適正化

2-3 自然環境の保全

2-4 上水道の充実

2-5 防犯・交通安全の推進

政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

施策 01 生活環境の充実

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

- ◆空き家及び空地における雑草等の管理不良状態を放置する管理者が、居所不明の場合等における対策が必要になります。
- ◆畑及び畜産場周辺における農薬等の影響、山林等における産業廃棄物の不法投棄により、地下水の水質汚染が懸念されています。
- ◆産業廃棄物の不法投棄件数は、毎年10件以内で推移していますが、啓発運動、パトロールの強化により大規模な不法投棄は減少しています。
- ◆成田国際空港の更なる機能強化策として、第3滑走路の新設が計画され、飛行時間の延長が実施されたことから、周辺自治体として新たな騒音対策等が必要となります。
- ◆航空機騒音直下の市民等に対し、飛行回数増に対する防音等の整備措置を、成田国際空港株式会社に要請していきます。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
快適な生活環境が整っていると思う市民の割合（％）	成果	70.9	68.9	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
生活環境に関する苦情件数（件）	成果	274	273	☂ (低下)	☀ (横ばい)	○
航空機騒音を不快に感じる市民の割合（％）	成果	78.4	77.6	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	空地の管理（雑草等）苦情件数（件）	成果	127	113	☀ (向上)	☀ (向上)	○
01	その他生活公害苦情件数（件）	成果	34	63	☂ (低下)	☂ (低下)	
02	産業廃棄物不法投棄件数（件）	成果	13	13	☂ (低下)	☁ (横ばい)	○
02	一般廃棄物等不法投棄件数（件）	成果	100	84	☀ (横ばい)	☀ (向上)	○
02	ごみゼロ運動参加者数（人）	成果	9,571	0	☂ (低下)	☂ (低下)	
03	航空機騒音対策に対する満足度（％）	成果	76.4	79.9	☀ (向上)	☀ (横ばい)	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

施策 01 生活環境の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民	・ 市民が快適に暮らせる生活環境を確保します。

施策の成果状況と評価

指標①	快適な生活環境が整っていると思う市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【環境保全課】	%	67.6	70.9	68.9	70	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の快適な生活環境が整っていると思う市民の割合は68.9%で、基準値と比較して1.3ポイント増加しましたが、前年度と比較して2ポイント減少しました。 <原因> 防災無線による禁止行為に対する周知を行ったことで、騒音、野焼きに関する通報が増加するなど、市民の関心が高まったことが原因と考えられます。						対前年度 ☁ (横ばい) 達成状況 ■■ (中)
指標②	生活環境に関する苦情件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【環境保全課】	件	248	274	273	248	☔ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の生活環境に関する苦情件数は273件で、基準値と比較して25件増加しましたが、前年度と比較して1件減少しました。 <原因> 空地の管理、不法投棄に関する苦情件数は減少しましたが、野焼きに関する苦情が49件で、前年度と比較して27件増加しました。防災無線による周知を行ったことで、市民の関心が高まったことが原因と考えられます。						対前年度 ☀ (横ばい) 達成状況 ■■ (低)
指標③	航空機騒音を不快に感じる市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【空港地域振興課】	%	78.4	78.4	77.6	75	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の航空機騒音を不快に感じる市民の割合は77.6%で、基準値および前年度と比較して0.8ポイント減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症の影響により成田国際空港を離発着する航空機の便数が減少したことが、騒音を不快に感じる市民の割合が減少した要因であると考えられます。						対前年度 ☀ (横ばい) 達成状況 ■■ (中)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 生活公害の対策

基本事業 02 美化運動の推進と不法投棄防止対策

基本事業 03 航空機騒音等の対策

基本事業01 生活公害の対策

指標①	空地の管理（雑草等）苦情件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
		件	128	127	113	128	☀ (向上)
評価	【環境保全課】	(件)					☀ (向上)
	<状況> 令和2年度の空地の管理（雑草等）の苦情件数は113件で、基準値と比較して15件減少、前年度と比較して14件減少しめざそう値を達成しました。 <原因> 指導書等を毎年送付しており、事前に草刈り等の管理をする所有者が増えてきたためと考えられます。						☀ (向上)
							☀ (達成)

基本事業02 美化運動の推進と不法投棄防止対策

指標①	産業廃棄物不法投棄件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
		件	4	13	13	4	☔ (低下)
評価	【環境保全課】	(件)					☔ (低下)
	<状況> 令和2年度の産業廃棄物不法投棄件数は13件で、基準値と比較して9件増加しました。 <原因> 関係機関と連携を図りパトロールを実施していますが、一部事業者において、廃プラスチックや木材などの不法投棄が行われています。						☔ (横ばい)
							☔ (低)

基本事業02 美化運動の推進と不法投棄防止対策

指標②	一般廃棄物等不法投棄件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
		件	87	100	84	87	☀ (横ばい)
評価	【環境保全課】	(件)					☀ (横ばい)
	<状況> 令和2年度の一般廃棄物等不法投棄件数は84件で、基準値と比較して3件減少、前年度と比較し16件減少し、めざそう値を達成しました。 <原因> 関係機関と連携を図りパトロールを実施していますが、テレビ、冷蔵庫等が適正に処分されなかったことが不法投棄の原因と考えられます。						☀ (向上)
							☀ (達成)

基本事業03 航空機騒音等の対策

指標①	航空機騒音対策に対する満足度	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
		%	74.7	76.4	79.9	80	☀ (向上)
評価	【空港地域振興課】	(%)					☀ (向上)
	<状況> 令和2年度の航空機騒音対策に対する満足度は79.9%で、基準値と比較して5.2ポイント増加、前年度と比較して3.5ポイント増加しました。 <原因> 満足度が上昇した要因としては、防音家屋冷暖房設備維持管理補助金を増加したことが考えられます。						☀ (横ばい)
							☀ (高)

政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

施策 02 廃棄物の減量・処理の適正化

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

- ◆家庭ごみの排出量は、新型コロナウイルス感染症の影響により、在宅する市民が増加したことごとみ量が増加となりました。
- ◆市民と事業者が、廃棄物の適正排出の意識を高め、きめ細かなごみ分別を行っていく必要があります。このため、廃棄物の3Rを総合的に推進する必要があります。（リサイクル倉庫の活用、資源回収運動奨励制度の普及等）
- ◆ごみの最終処理が2つの組合に委託され、袋の料金、容量、収集方法、分別方法等が異なっています。
- ◆現在実施されている両組合の分別収集品目を今後協議しつつ、法に定めるところの容器包装廃棄物（10品目）の分別収集に取り組む必要があります。（東金市外三市町清掃組合：7品目、山武郡市環境衛生組合：9品目）
- ◆2028年度からは、成東地域のごみ処理も山武郡市環境衛生組合で取り扱うことから、一本化に向けた検討を行う必要があります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
1人1日当たりのごみ排出量 (g)	成果	764	792	 (低下)	 (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	家庭ごみ排出量 (t)	成果	10,824	11,137	 (横ばい)	 (横ばい)	○
01	事業系ごみ排出量 (t)	成果	3,380	2,986	 (横ばい)	 (向上)	
01	再資源化率 (%)	成果	16.8	16.8	 (横ばい)	 (横ばい)	○
02	ごみ排出指導件数 (件)	成果	4	7	 (低下)	 (低下)	○
02	残置シール貼付件数 (件)	成果	1,653	1,789	 (低下)	 (低下)	○
03	1人当たりの負担金額 (収集料金・ごみ袋代金を含む) (円)	成果	9,535	10,627	 (低下)	 (低下)	

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

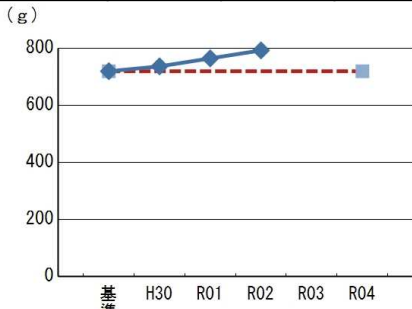
政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

施策 02 廃棄物の減量・処理の適正化

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民 ・ 事業者 ・ 廃棄物処置	・ ごみ排出量が減り、安全に効率的に処理されます。

施策の成果状況と評価

指標①	1人1日当たりのごみ排出量	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【環境保全課】	g	719	764	792	719	☂ (低下)
	<状況> 令和2年度の1人あたりのごみ排出量は792gで、基準値と比較して73g増加、前年度と比較して28g増加しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症の影響により、在宅する市民が増加したことから、生活ごみが増加したと考えられます。						対前年度 ☁ (横ばい)
評価							達成状況 ■■■ (低)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 ごみの減量化・再資源化の推進

基本事業 02 廃棄物に関する意識の向上と啓発

基本事業 03 ごみ処理の効率化

基本事業01 ごみの減量化・再資源化の推進

指標①	家庭ごみ排出量	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【環境保全課】	t	10,693	10,824	11,137	10,501	☁
評価	＜状況＞ 令和2年度家庭ごみの排出量は11,137tで、基準値と比較して444t増加、前年度と比較して313t増加しました。 ＜原因＞ 新型コロナウイルス感染症の影響により、在宅する市民が多くなったことから、生活ごみが増加したことが原因と考えられます。						対前年度 (横ばい)
							☁ (横ばい) 達成状況 ■■■ (低)

基本事業01 ごみの減量化・再資源化の推進

指標③	再資源化率	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【環境保全課】	%	17.3	16.8	16.8	18.9	☁
評価	＜状況＞ 令和2年度の再資源化率は16.8%で、基準値と比較して0.5ポイント減少しました。 ＜原因＞ 再資源化への意識の高まりからリサイクル倉庫の利用は前年度と比べ約42t増加していますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、家庭ごみの排出量が増加したことが原因と考えられます。						対前年度 (横ばい)
							☁ (横ばい) 達成状況 ■■■ (低)

基本事業02 廃棄物に関する意識の向上と啓発

指標①	ごみ排出指導件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【環境保全課】	件	0	4	7	0	☔
評価	＜状況＞ 令和2年度のごみ排出指導件数は7件で、基準値と比較して7件増加、前年度と比較して3件増加しました。 ＜原因＞ ごみの出し方を理解していない外国人住民が増加傾向にあり、集積所の不適物が多くなっていることが原因と考えられます。						対前年度 (低下)
							☔ (低下) 達成状況 ■■■ (低)

基本事業02 廃棄物に関する意識の向上と啓発

指標②	残置シール貼付件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【環境保全課】	件	1,657	1,653	1,789	1,657	☔
評価	＜状況＞ 令和2年度の残置シール貼付件数は1,789件で、基準値と比較して132件増加、前年度と比較して136枚増加しました。 ＜原因＞ ごみの出し方を理解していない外国人住民が増加傾向にあり、集積所の不適物が多くなっていることが原因と考えられます。						対前年度 (低下)
							☔ (低下) 達成状況 ■■■ (低)

政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

施策 03 自然環境の保全

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

- ◆地域での環境活動を充実させ、自然環境保全に係る体制を整備する必要があります。
- ◆自然環境保全について、市民や企業の意識を高め、自主的な取組を促す必要があります。
- ◆林業者不足による山林の荒廃が進んでいるため、森林保全の一環として、県及び民間事業者と共同でバイオマスの取組を実施していきます。
- ◆地球温暖化防止のため二酸化炭素の排出量の削減が求められています。
- ◆令和2年6月2日にゼロカーボンシティを宣言し、2050年二酸化炭素排出量実質ゼロを目指しています。
- ◆公共用水域の水質が徐々に改善されています。
- ◆農業集落排水事業が大平、借毛本郷、武野里、大富の4地区で供用開始しています。円滑な運営のため接続率の向上と汚泥のコンポスト化を図ります。
- ◆浄化槽の維持管理が行われておらず、未処理の汚水が公共用水域に排水されてしまうおそれがあります。新築住宅での水洗化はほぼ100%で、小型合併浄化槽が設置されている状況ですが、引き続き合併処理浄化槽の適正な設置と補助金の継続を図ります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
自然環境の満足度（％）	成果	80.5	77.8	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	自然環境保全活動に参加している団体数（団体）	成果	33	31	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
02	環境にやさしい生活様式平均実践項目数（項目）	成果	5.13	5.17	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
02	環境学習参加団体数（団体）	成果	17	17	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	
03	バイオマスに関する取組の事業数（累計）（件）	代替	9	9	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
04	再生可能エネルギーの発電装置の普及件数（件）	成果	1,948	1,982	☀ (向上)	☀ (横ばい)	
04	再生可能エネルギーの発電装置による契約発電量（kw）	成果	463,844	517,948	☀ (向上)	☀ (向上)	○
04	市の事務事業により発生する二酸化炭素の量（CO2）	成果	4,772		---	---	
05	BOD濃度作田川（中流域）（mg/l）	成果	1.7	1.7	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
05	BOD濃度木戸川（中流域）（mg/l）	成果	1.5	1.7	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	
05	汚水処理世帯の普及率（％）	成果	44.3	54.2	☀ (向上)	☀ (向上)	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

施策 03 自然環境の保全

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民・事業者 ・ ボランティア団体 ・ NPO法人	・ 市民や企業による自然環境保護の取組や地球に負荷を与えない行動が定着化し、市の豊かな自然環境が保全されています。

施策の成果状況と評価

指標①	自然環境の満足度	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【環境保全課】	%	77.5	80.5	77.8	80	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の自然環境の満足度は77.8%で、基準値と比較して0.3ポイント増加しましたが、前年度と比較して2.7ポイント減少しました。 <原因> まちづくりアンケートの結果では、「不満」と回答した人が2.3ポイント増加しています。 空き地における雑草の繁茂や野焼き行為、里山の形成等の環境整備の遅れが一因と考えられます。		(%) 基準 H30 R01 R02 R03 R04				対前年度
							☁ (横ばい)
							達成状況
							■■ (中)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

基本事業	01	自然環境保全活動の推進
基本事業	02	自然環境取組意識の向上
基本事業	03	バイオマスタウン構想の推進
基本事業	04	再生可能エネルギー対策の推進
基本事業	05	汚水処理の推進

指標 ①	自然環境保全活動に参加している団体数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基 準 値										
		団体	29	33	31	29											
評価	<状況> 令和２年度の自然環境保全活動に参加している団体数は31団体で、前年度と比較して２件減少しましたが、基準値と比較すると２件増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 参加者の高齢化により団体の活動が休止されたことが原因です。	(団体) <table border="1"> <caption>Graph Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Number of Organizations</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>R01</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>R02</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>R04</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table> 対 前 年 度 (横ばい) 達 成 状 況 (達成)						Year	Number of Organizations	H30	28	R01	33	R02	31	R04	29
		Year	Number of Organizations														
H30	28																
R01	33																
R02	31																
R04	29																

指標 ①	バイオマスに関する取組の事業数（累計）	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値														
	【農政課】	件	8	9	9	9	☀️														
評価	<状況> 令和2年度のバイオマスに関する取組みの事業数は9件で、基準値と比較して1件増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 令和2年度は令和元年の台風被害林整備を含む森林整備事業を優先していたため、新規事業への着手はできませんでしたが、令和3年度から「森林づくり審議会」を立ち上げて、新規事業について検討していきます。	(件) <table border="1"> <caption>バイオマスに関する取組の事業数（累計）</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>R01</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>R02</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>R03</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>R04</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>					項目	値	基準	8	H30	8	R01	9	R02	9	R03	9	R04	9	対 前年度 ☀️ (横ばい) 達成 状況 🏰 (達成)
	項目	値																			
基準	8																				
H30	8																				
R01	9																				
R02	9																				
R03	9																				
R04	9																				

指標 ②	再生可能エネルギーの発電装置による契約発電量	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値														
	【環境保全課】	k w	259,882	463,844	517,948	259,882	☀ (向上)														
評価	<状況> 令和2年度の再生可能エネルギーの発電装置による契約発電量は517,948kwで、基準値と比較して258,066kw増加、前年度と比較して54,104kw増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 再生可能エネルギーの普及に積極的に取り組み、二酸化炭素の削減が図られるよう取り組みを推進しています。	(k w) <table border="1"> <caption>契約発電量の推移 (単位: k w)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準</td> <td>259,882</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>300,000</td> </tr> <tr> <td>R01</td> <td>463,844</td> </tr> <tr> <td>R02</td> <td>517,948</td> </tr> <tr> <td>R03</td> <td>259,882</td> </tr> <tr> <td>R04</td> <td>259,882</td> </tr> </tbody> </table>					項目	値	基準	259,882	H30	300,000	R01	463,844	R02	517,948	R03	259,882	R04	259,882	☀ (向上)
	項目	値																			
基準	259,882																				
H30	300,000																				
R01	463,844																				
R02	517,948																				
R03	259,882																				
R04	259,882																				
							☀ (向上)														
							達成 状況														
							🏠 (達成)														

指標 ③	汚水処理世帯の普及率	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値																					
	【環境保全課】	%	43	44.3	54.2	44	☀ (向上)																					
評価	<状況> 令和2年度の汚水処理世帯の普及率は54.2%で、基準値と比較して11.2ポイント増加、前年度と比較して9.9ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 単独浄化槽やくみ取り便槽から合併浄化槽への転換補助金を交付していることが、普及率が増加した原因と考えられます。	<table border="1"> <caption>汚水処理世帯の普及率推移</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準</th> <th>H30</th> <th>R01</th> <th>R02</th> <th>R03</th> <th>R04</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績値 (R01)</td> <td>44.3</td> <td>44.3</td> <td>44.3</td> <td>54.2</td> <td>-</td> <td>44.3</td> </tr> <tr> <td>めざそう値 (R04)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table>					項目	基準	H30	R01	R02	R03	R04	実績値 (R01)	44.3	44.3	44.3	54.2	-	44.3	めざそう値 (R04)	-	-	-	-	-	44	☀ (向上) 対 前年度 ☀ (向上) 達成 状況 🏠 (達成)
	項目	基準	H30	R01	R02	R03	R04																					
実績値 (R01)	44.3	44.3	44.3	54.2	-	44.3																						
めざそう値 (R04)	-	-	-	-	-	44																						

政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

施策 04 上水道の充実

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆飲用水を個人用井戸に依存している世帯が多く、上水道への転換には費用がかかるため給水戸数は伸び悩んでいます。
◆水道事業の対象区域外や水道の本管が付近にない地区の一部で地下水の汚染が懸念されています。
◆県より「県内水道の統合・広域化の当面の考え方」が公表され、県は広域自治体として広域的な水源の確保及び水道用水供給事業を担い、市町村は、基礎自治体として末端給水事業を担うことを基本とする考え方が示されました。
◆県営水道と九十九里地域水道企業団との統合を目指した協議が開始され、併せて末端給水事業体（長生郡市広域市町村圏組合、八匠水道企業団、山武市営水道、山武郡市広域水道企業団）による「県内水道の統合・広域化の進め方に係る九十九里地域水道事業体会議」で協議していく必要があります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
給水戸数【市営水道】戸)	成果	2,799	2,823	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
給水戸数【広域水道】戸)	成果	11,003	11,054	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	漏水事故件数【市営水道】件)	成果	0	0	☀ (向上)	☀ (横ばい)	○
01	漏水事故件数【広域水道】件)	成果	26	30	☂ (低下)	☂ (低下)	○
02	水質の苦情件数【市営水道】件)	成果	0	0	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
02	水質の苦情件数【広域水道】件)	成果	27	6	☀ (向上)	☀ (向上)	○
03	応急給水資機材の備蓄数【市営水道】袋)	代替	2,500	2,700	☀ (向上)	☀ (向上)	
03	応急給水資機材の備蓄数【広域水道】袋)	代替	6,000	6,000	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
04	経常収支比率【市営水道】%	成果	115.5	111.8	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	
04	有収率【市営水道】%	成果	92.2	92	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	
04	経常収支比率【広域水道】%	成果	107.51	109.71	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
04	有収率【広域水道】%	成果	87.7	89.3	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

施策 04 上水道の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民	・ 市民が安全で安定した水道水を使うことができます。

施策の成果状況と評価

指標①	給水戸数【市営水道】	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【水道課】	戸	2,705	2,799	2,823	2,887	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の給水戸数【市営水道】は2,823戸で、基準値と比較して118戸増加、前年度と比較して24戸増加しめざそう値を達成しました。 <原因> 新築並びに個人井戸からの切り替えにより給水戸数が増加した原因と考えられます。		(戸)				対前年度
							☀ (横ばい)
							達成状況
							■ (高)

指標②	給水戸数【広域水道】	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【環境保全課】	戸	10,885	11,003	11,054	10,671	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の給水戸数【広域水道】は11,054戸で、基準値と比較して169戸増加、前年度と比較して51件増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 給水施設の改良工事を実施したことにより、加入者数が増加しました。		(戸)				対前年度
							☀ (横ばい)
							達成状況
							■ (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
 なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 安定給水の確保

基本事業 02 水質の安全性の確保

基本事業 03 地震等の災害対策

基本事業 04 経営の健全化

基本事業01 安定給水の確保

指標①	漏水事故件数【市営水道】	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【水道課】	件	2	0	0	0	☀️ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の漏水事故件数【市営水道】は0件で、基準値と比較して2件減少し、めざそう値を達成しました。 <原因> 安定的に水道水を供給するために、配水量の監視など適正な管理に努めました。						☀️ (向上)
							☀️ (横ばい)
							☀️ (達成)
							☀️ (達成)

基本事業01 安定給水の確保

指標②	漏水事故件数【広域水道】	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【環境保全課】	件	28	26	30	25	☔️ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の漏水事故件数【広域水道】は30件で、基準値と比較して2件増加、前年度と比較して4件増加しました。 <原因> 配水管の老朽化に伴い、漏水事故が増加しました。配水管改良工事を計画的に実施し、漏水事故の減少に努めていきます。						☔️ (低下)
							☔️ (低下)
							☔️ (達成)
							☔️ (低)

基本事業02 水質の安全性の確保

指標①	水質の苦情件数【市営水道】	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【水道課】	件	0	0	0	0	☀️ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の水質の苦情件数【市営水道】は0件で、基準値を維持し、めざそう値を達成しました。 <原因> 水質の苦情は平成21年度以降なく、水質確認を日々行っており、全ての項目に対して基準を満たしています。						☀️ (横ばい)
							☀️ (達成)
							☀️ (達成)

基本事業02 水質の安全性の確保

指標②	水質の苦情件数【広域水道】	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【環境保全課】	件	11	27	6	10	☀️ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の水質の苦情件数【広域水道】は6件で、基準値と比較して5件減少、前年度と比較して21件減少し、めざそう値を達成しました。 <原因> 令和元年度は台風15号及び台風16号に伴い苦情件数が増加しましたが、令和2年度は通常の状況に戻ったことが原因と考えられます。						☀️ (向上)
							☀️ (達成)
							☀️ (達成)

政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

施策 05 防犯・交通安全の推進

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

- ◆「人口1,000人当たりの刑法犯認知件数」は減少傾向が継続しています。
- ◆刑法犯認知件数のうち69.7%は窃盗犯であり、多くは乗り物盗や車上荒らし等の非侵入盗であることから、防犯カメラの設置やドライブレコーダーを搭載した青色パトロールカーを活用した防犯活動を推進します。
- ◆消費生活センター等の相談体制を確保することにより、電話de詐欺といった特殊詐欺をはじめとする消費者トラブルの防止に努めます。
- ◆「人口1,000人当たりの交通事故発生件数」は減少傾向が継続しています。
- ◆平成29年に道路交通法が改正され、運転免許更新時の高齢者の認知機能の検査が強化されました。
- ◆山武市交通安全条例に基づく交通安全対策会議において策定された、交通安全計画に基づき施策を展開します。高齢者、幼児、児童・生徒及びドライバー等の対象者に応じた交通安全施策に取り組みます。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
人口1,000人当たりの刑法犯認知件数（件）	社会	8	6	☀ (向上)	☀ (向上)	○
人口1,000人当たりの交通事故発生件数（件）	成果	2.5	2.1	☀ (向上)	☀ (向上)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	防犯活動を行っている区・自治会や団体の数（団体）	成果	29	28	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	
01	防犯活動を行っている協力者数（人）	成果	613	614	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
02	登下校時における児童生徒の事件・事故件数（件）	成果	3	5	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
03	防犯灯設置要望対応率（％）	成果	100	100	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
03	防犯カメラの設置台数(累積)（台）	成果	39	39	☀ (向上)	☀ (横ばい)	
04	消費者相談件数（件）	代替	573	580	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
04	消費者トラブルにあった市民の割合（％）	成果	3.4	3.3	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
05	1ヶ月当たりの交通安全啓発回数（回）	成果	3	2	☂ (低下)	☂ (低下)	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 02 住みやすい環境と安全なまちづくり

施策 05 防犯・交通安全の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民	・ 安全で安心して住めるまちになっていきます。

施策の成果状況と評価

指標①	人口1,000人当たりの刑法犯認知件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【市民自治支援課】	件	9	8	6	9	☀ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の人口1,000人当たりの刑法犯認知件数は6件で、基準値と比較して3件減少、前年度と比較して2件減少し、めざそう値を達成しました。 <原因> 防犯メールによる犯罪・不審者情報の提供や地域住民、防犯関係団体、警察等の連携により、見守り、声かけ、パトロール等地道な防犯活動のほか、防犯灯や防犯カメラの施設整備が犯罪抑止に貢献していると考えられます。		(件)				対前年度 ☀ (向上)
							達成状況 🏰 (達成)
指標②	人口1,000人当たりの交通事故発生件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【市民自治支援課】	件	2.7	2.5	2.1	2.7	☀ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の人口1,000人当たりの交通事故発生件数は2.1件で、基準値と比較して0.6件減少、前年度と比較して0.4件減少し、めざそう値を達成しました。 <原因> 市では、交通安全協会指導員が市内交差点での街頭監視のほか、幼児及び小中学生を対象として交通安全教室を開催しています。千葉県でも、各世代別に交通安全教室を開催しており、段階的な交通安全教育を実施していることが引き続き効果を挙げているものと考えられます。		(件)				対前年度 ☀ (向上)
							達成状況 🏰 (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 防犯体制の充実

基本事業 02 児童・生徒の安全確保

基本事業 03 犯罪がおこりにくい環境に向けての施設設備の整備

基本事業 04 消費者トラブルの防止

基本事業 05 交通安全意識の向上

基本事業01 防犯体制の充実

指標 ②	防犯活動を行っている協力者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
		人	612	613	614	612	☀ (横ばい)
評価	【市民自治支援課】 ＜状況＞ 令和2年度の防犯活動を行っている協力者数は614人で、基準値と比較して2人増加、前年度と比較して1人増加し、めざそう値を達成しました。 ＜原因＞ 通学路での不審者情報が、メール配信等を通して報告されており、児童生徒の保護者のみならず、子どもたちの保護に協力をしてくれる商店、工場等の防犯に対する意識が高まっているものと考えられます。						☀ (横ばい)
		(人) 対前年度 ☀ (横ばい) 達成状況 ☑ (達成)					

基本事業02 児童・生徒の安全確保

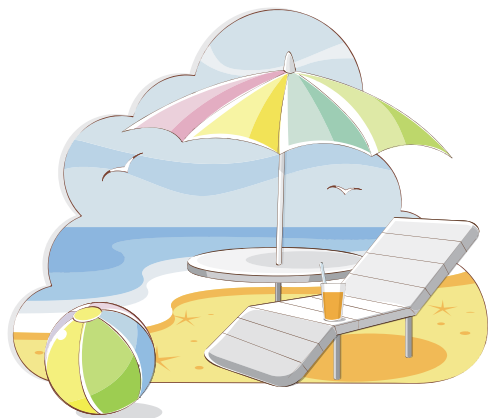
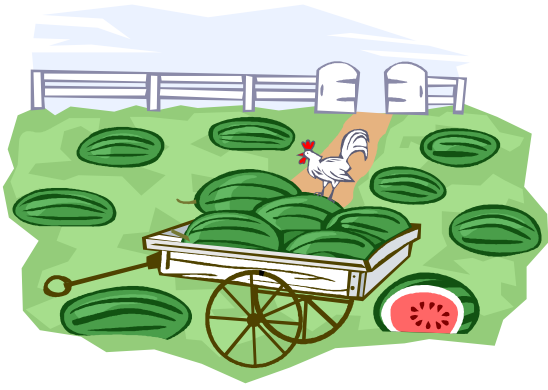
指標 ①	登下校時における児童生徒の事件・事故件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
		件	5	3	5	—	☁ (横ばい)
評価	【子ども教育課】 ＜状況＞ 令和2年度の登下校時における児童生徒の事件・事故件数は5件でした。 ＜原因＞ 内訳は、交通事故で小学校3件、中学校2件です。児童生徒の自転車の事故が原因の主なものとなっています。事件・事故防止に向けて、各学校で例年実施している交通安全指導教室が新型コロナウイルス感染症により実施できなかったことが一因と考えられます。						☁ (横ばい)
		(件) 対前年度 ☁ (横ばい) 達成状況 ---					

基本事業04 消費者トラブルの防止

指標 ①	消費者相談件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
		件	506	573	580	455	☁ (横ばい)
評価	【商工観光課】 ＜状況＞ 令和2年度の消費者相談件数は580件で、基準値と比較して74件増加、前年度と比較して7件増加しました。 ＜原因＞ 消費者を取り巻く環境の変化に伴い、消費生活相談の内容も複雑・多様化しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりインターネット通販に関する相談件数が倍増しており、このことが主な増加原因として考えられます。						☁ (横ばい)
		(件) 対前年度 ☁ (横ばい) 達成状況 ■■ (低)					

基本事業05 交通安全意識の向上

指標 ①	1ヶ月当たりの交通安全啓発回数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
		回	3	3	2	3	☂ (低下)
評価	【市民自治支援課】 ＜状況＞ 令和2年度の1ヶ月当たりの交通安全啓発回数は2回で、基準値および前年度と比較して1回減少しました。 ＜原因＞ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のために啓発活動を自粛したためです。						☂ (低下)
		(回) 対前年度 ☂ (低下) 達成状況 ■■ (中)					



【政 策】

3 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり

【施 策】

3-1 農林水産業の振興

3-2 商工業の振興と地域経済活性化

3-3 観光の振興

政策 03 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり

施策 01 農林水産業の振興

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆農業従事者の高齢化及び後継者不足、T P P問題や放射能事故の影響による風評被害等、農業を取り巻く環境は厳しい状況です。また、令和元年9月の台風被害の影響による収穫の減少や設備復旧等に要する経費の増加もあり、農業所得が減少しています。

◆地域の中心的担い手である認定農業者の増加及び新規就農者の育成を図り、効率的農業の推進や補助事業等の積極的活用によるコスト削減を図ることにより、農業所得の向上を目指す必要があります。

◆農地中間管理事業を活用した農地集積・集約化、耕作放棄地の解消及び農地基盤整備事業を活用し優良農地化を図り、効率的かつ生産性の高い農業を目指す必要があります。

◆林業者不足や溝腐病被害等によりサンプスギ林を中心とした森林の荒廃が進んでいます。特産品である「サンプスギ」の周知を図ることで、市内産木材の利用促進及び森林資源のエネルギー活用の仕組みづくりの検討を行う必要があります。

◆令和元年度に創設された森林環境譲与税の使い道について、森林整備や木材利用の促進など、山武市森林づくり審議会や各部会で検討を行う必要があります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
農業所得 百万円)	成果	595	570	☂ (低下)	☁ (横ばい)	○
森林整備年間実施面積 累計) ha)	成果	289.76	317.38	☀ (向上)	☀ (向上)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	耕作面積 ha)	成果	2,915	2,904	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
01	家畜伝染病発生件数 酪農、養豚、養鶏) 件)	成果	0	0	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
02	認定農業者数 人)	成果	364	369	☀ (向上)	☀ (横ばい)	○
02	青年等就農計画認定者数 人)	成果	6	11	☀ (向上)	☀ (向上)	
03	農地中間管理集積面積 ha)	成果	311.2	320.2	☀ (向上)	☀ (横ばい)	○
04	産地化した品目の作付面積 ha)	成果	396.8		---	---	
04	GAP等による取組人数 人)	成果	1,216		---	---	
05	国営、県営等の有利な補助制度を活用した農業基盤整備の事業完了数 箇所)	成果	4	4	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
06	森林整備事業年間実施箇所数 箇所)	成果	41	33	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	
06	市補助制度を活用し、搬出された木材量 ㎥	成果	1,700	3,735	☀ (向上)	☀ (向上)	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 03 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり

施策 01 農林水産業の振興

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 農林水産業従事者	・ 農業経営が安定し、所得額が増えます。 ・ 荒廃した森林が再生します。

施策の成果状況と評価

指標①	農業所得	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【農政課】	百万円	1,393	595	570	1,599	☂ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の農業所得は570百万円で、基準値と比較して823百万円減少、前年度と比較して25百万円減少しました。 <原因> 令和元年9月の台風被害の影響による農業施設・設備復旧等に要する経費の増加が、農業所得が減少した主な要因であると考えられます。	(百万円)					対前年度 ☁ (横ばい) 達成状況 ■■■ (低)

指標②	森林整備年間実施面積（累計）	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【農政課】	ha	237.72	289.76	317.38	297.12	☀ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の森林整備年間実施面積（累計）は317.38haで、基準値と比較して79.66ha増加、前年度と比較して27.62ha増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 災害に強い森づくり事業が実施されたことにより森林整備面積が増えています。 (実施事業) ①造林支援事業②県単森林整備事業③サンプスギ林再生・資源循環促進事業④災害に強い森づくり事業	(ha)					対前年度 ☀ (向上) 達成状況 🏰 (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 経営の安定化の推進

基本事業 02 担い手の育成・支援

基本事業 03 農地の利用集積の推進

基本事業 04 農産物の付加価値向上と販路の拡大

基本事業 05 農業基盤整備の推進

基本事業 06 森林再生の推進

基本事業01 経営の安定化の推進

指標①	耕作面積	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【農政課】	h a	2,902.8	2,915	2,904	2,902.8	☀
評価	<状況> 令和2年度の耕作面積は2,904haで、前年度と比較して11ha減少しましたが、基準値と比較すると1.2ha増加、めざそう値を達成しました。 <原因> 農地の集積・集約化による営農の効率化や農業経営者への支援を図ることにより、耕作面積を維持することができたものと考えられます。	(h a) 					(横ばい)
							対前年度
							(横ばい)
							達成状況 (達成)

基本事業02 担い手の育成・支援

指標①	認定農業者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【農政課】	人	344	364	369	389	☀
評価	<状況> 令和2年度の認定農業者数は369人で、基準値と比較して25人増加、前年度と比較して5人増加しました。 <原因> 市の担い手として、農業用機械購入及び施設整備に要する経費に対する市独自の助成制度を活用する等、規模拡大を目指す経営体新たに認定を希望したため、認定農業者が増加しました。	(人) 					(向上)
							対前年度
							(横ばい)
							達成状況 (中)

基本事業03 農地の利用集積の推進

指標①	農地中間管理集積面積	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【農政課】	h a	111	311.2	320.2	281	☀
評価	<状況> 令和2年度の農地中間管理集積面積は320.2haで、基準値と比較して209.2ha増加、前年度と比較して9.0ha増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> ほ場整備事業に伴う大規模な農地の集積・集約化を令和元年度に実施したことが主な要因です。なお、その他の地域でも担い手や地権者に本制度の趣旨が理解され、制度を活用する方が増加しています。	(h a) 					(向上)
							対前年度
							(横ばい)
							達成状況 (達成)

基本事業06 森林再生の推進

指標②	市補助制度を活用し、搬出された木材量	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【農政課】	t	476.2	1,700	3,735	1,400	☀
評価	<状況> 令和2年度の市補助制度を活用して、搬出された木材量は3,735tで、基準値と比較して3,258.8t増加、前年度と比較して2,035t増加し、めざそう値を達成しています。 <原因> 台風被害の森林を整備する山林所有者からの搬出量増加や新たに森林経営計画対象林において発生した間伐材などの買取価格の一部を補助したことにより搬出量が増加しました。	(t) 					(向上)
							対前年度
							(向上)
							達成状況 (達成)

政策 03 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり

施策 02 商工業の振興と地域経済活性化

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆郊外型の大・中規模小売店舗等が進出し、既存小売店に大きな影響を及ぼすとともに、後継者不足も相まって、旧来の商店街では空き店舗が多数発生しています。地域ならではの魅力を高める取り組みを通じて、商店街の連携強化とまちの活性化を図ることが求められています。

◆山武市中小企業振興基本条例（平成30年4月1日施行）に基づき、地元中小企業の育成と長期的な安定成長を図るための施策を推進します。

◆市商工会を通じた支援策を継続的に行うとともに、人口減少や急激な社会環境の変化に対応できる、レジリエンスな地域経済の実現に向けた「エコノミックガーデニング」の推進により、地元企業が長生きして繁栄するビジネス環境の構築に取り組みます。

◆成田空港の機能強化に併せて、他団体との連携を強化し、空港の発展を市の発展に結びつける取組を推進する必要があります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
法人市民税額 百万円)	社会	405	305	☂ (低下)	☂ (低下)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	市内で日用品や食料品を買う市民の割合 (%)	成果	70.7	67.6	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
02	黒字化している事業所割合(法人税割を納めている事業所数) (%)	成果	41.8	39.3	☂ (低下)	☁ (横ばい)	○
02	新規法人登録件数 件)	社会	67	83	☀ (横ばい)	☀ (向上)	
02	支援制度を活用して事業推進に取り組んでいる事業者数 社)	社会	163	235	☀ (向上)	☀ (向上)	○
03	市内事業所数 社)	成果	—	—	---	---	
03	市内従業者数 人)	社会	—	—	---	---	
04	成田空港周辺自治体としての取組件数 件)	代替	7	7	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
04	成田空港関連の市内従業員数 人)	社会	—	—	---	---	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 03 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり

施策 02 商工業の振興と地域経済活性化

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・市民 ・商工会 ・商工業者	・地域経済が活性化されます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	法人市民税額	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
	【商工観光課】	百万円	349	405	305	297	☔ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の法人市民税調定額は、305百万円で、基準値と比較して44百万円減少、前年度と比較して100百万円減少しましたが、めざそう値を達成しました。 <原因> 令和2年度の法人市民税の調定件数は1,749件で、前年度に比べ33件増加となっており全体的な経済活動は維持されていることが伺えますが、度重なる自然災害や新型コロナウイルス感染症による経済への打撃が調定額減少の主要因と考えられます。		(百万円) 				対前年度 ☔ (低下)
							達成状況 🏰 (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
 なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

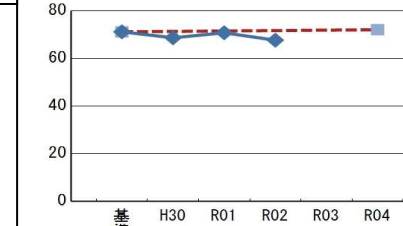
基本事業 01 市内消費の向上

基本事業 02 経営体の体質強化・育成

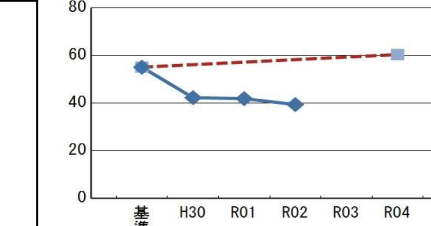
基本事業 03 企業立地と企業定着による雇用の推進

基本事業 04 成田空港経済圏の形成

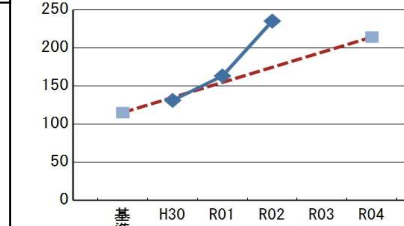
基本事業01 市内消費の向上

指標 ①	市内で日用品や食料品を買う市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
	【商工観光課】	%	71.1	70.7	67.6	72	
評 価	<状況> 令和2年度の市内で日用品や食料品を買う市民の割合は67.6%で、基準値と比較して3.5ポイント減少、前年度と比較して3.1ポイント減少しました。 <原因> 山武地域において市外商店等の利用者が増加しており、近隣市の利便性向上が伺えるほか、70歳以上の宅配サービス利用の増加が市内商店等利用減少の要因と考えられます。	(%)					(横ばい)
							対 前年度
							(横ばい)
							達成 状況
							■■ (中)

基本事業02 経営体の体質強化・育成

指標 ①	黒字化している事業所割合（法人税割を納めている事業所数）	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
	【商工観光課】	%	55	41.8	39.3	60.3	
評 価	<状況> 令和2年度の黒字化している事業所割合（法人税割を収めている事業所数）は39.3%で、基準値と比較して15.7ポイント減少、前年度と比較して2.5ポイント減少しました。 <原因> 法人税割納税事業所自体の件数は前年度と比較して1件増加していますが、度重なる自然災害や新型コロナウイルス感染症による経済への打撃が減少の主な要因と考えられます。	(%)					(低下)
							対 前年度
							
							(横ばい)
							達成 状況
							 (低)

基本事業02 経営体の体質強化・育成

指標 ③	支援制度を活用して事業推進に取り組んでいる事業者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
	【商工観光課】	社	115	163	235	214	
評 価	<状況> 令和2年度の支援制度を活用して事業推進に取り組んでいる事業者数は235社で、基準値と比較して120社増加、前年度と比較して72社増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 持続化補助金申請者数が58件（前年度比32件増）と大きく増加したほか、商工会幹旋分の公庫融資も63件（前年度比27件増）となり各制度を活用した投資活動が活発化しています。	(社)					(向上)
							対 前年度
							
							達成 状況
							 (達成)

基本事業04 成田空港経済圏の形成

指標②	成田空港関連の市内従業員数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【空港地域振興課】	人	630	—	—	630	
評価	＜状況＞ 令和2年度は成田空港株式会社による調査対象年度でしたが、調査が実施されなかったため数値の取得ができませんでした。 ＜原因＞ 新型コロナウイルス感染拡大の影響が原因です。						(人)

							対前年度

							達成状況

政策 03 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり

施策 03 観光の振興

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆国内外問わず、近年のトレンドは「団体」から「個人」へ、「物見遊山型」から「体験型」観光へと変化しています。また、宿泊者数は、平成27年の91,163人をピークに減少しており、魅力あるイベントの開催、ニーズに合った観光メニューや滞在時間の長時間化を見据えた観光ルートの造成が必要です。

◆東日本大震災後に激減した海水浴客数は、平成27年に約11万人まで達しましたが、近年の気候変動の影響もあり、震災前の約半数に留まっています。対策として、常設トイレのある本須賀海水浴場において、2019年に国際環境認証であるブルーフラッグを取得しました。その他の海水浴場においても適切な施設管理を行い、海水浴のイメージアップを図ります。また、サーフィンやビーチスポーツ等、夏季以外の利用を促進します。

◆NPO法人山武市観光協会ホームページやツイッター等のSNSを活用し、若年層に向けた観光情報発信を行います。また、電話や来訪での対応窓口である成東駅前観光案内所で、適切な案内が行われるように努めます。

◆新型コロナウイルス感染拡大の影響により、観光客や宿泊客は大幅に減少しています。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
年間観光客入込数 人	成果	1,916,018	1,366,578	☂ (低下)	☂ (低下)	○
年間宿泊観光客数 人	成果	80,531	45,248	☂ (低下)	☂ (低下)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	イベントの来場者数 人	成果	5,400	0	☂ (低下)	☂ (低下)	○
01	広域(県)、民間事業者との連携事業数 件	成果	12	5	☂ (低下)	☂ (低下)	
01	体験型観光客数 人	成果	284,076	111,100	☂ (低下)	☂ (低下)	○
02	観光施設(海水浴場)の利用者数 人	成果	69,000	0	☂ (低下)	☂ (低下)	○
02	観光施設の維持管理上の不具合件数 件	成果	0	0	☀ (向上)	☀ (向上)	
03	観光案内所利用件数 件	成果	6,670	5,859	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	
03	観光協会HP等の閲覧数 人	成果	46,945	96,491	☀ (向上)	☀ (向上)	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 03 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり

施策 03 観光の振興

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
- 観光客 - 市民	観光客が増加し、市の魅力が高まります。

施策の成果状況と評価

指標①	年間観光客入込数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【商工観光課】	人	2,030,557	1,916,018	1,366,578	2,081,000	☂ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の年間観光客入込数は1,366,578人で、基準値と比較して663,979人減少、前年度と比較して549,440人減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、市内海水浴場を全て不開設としたこと、サマーカーニバル、産業まつりやさんむすびフェスティバル等の大規模イベントを中止したことが原因です。今後は、アウトドアツーリズムの推進を図り、コロナ禍であっても通年で楽しめる観光資源のPRを実施していきます。		(人)				対前年度 ☂ (低下)
							達成状況 ■■■ (低)

指標②	年間宿泊観光客数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【商工観光課】	人	82,019	80,531	45,248	82,800	☂ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の年間宿泊者数は45,248人で、基準値と比較して36,771人減少、前年度と比較して35,283人減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、緊急事態宣言が発令された地域等からの宿泊者数が大幅に減少しています。しかし、家族や友人等と少人数でキャンプ場を利用する宿泊客は増加しています。今後は、観光協会と宿泊組合が連携して、誘客促進と再訪に繋げる事業を展開します。		(人)				対前年度 ☂ (低下)
							達成状況 ■■■ (低)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

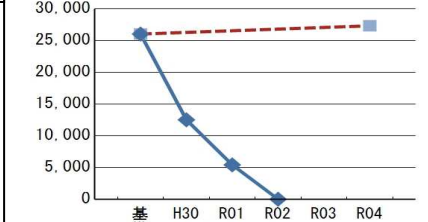
□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 魅力ある観光事業の推進

基本事業 02 海岸を活用した観光推進

基本事業 03 観光情報の発信

基本事業01 魅力ある観光事業の推進

指標①	イベントの来場者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値														
		人	26,000	5,400	0	27,300															
	【商工観光課】	(人)					(低下)														
評価	<状況> 令和2年度は各イベントを開催することができませんでした。 <原因> 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、サマーカーニバル、産業まつり及びエコキャンドル、さんむS1フェスティバルが全て中止となりました。今後は、新型コロナウイルス感染予防対策を十分にした上でのイベント開催方法を検討していく必要があります。	 <table><caption>イベントの来場者数実績値</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値 (人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>26,000</td></tr><tr><td>H30</td><td>12,000</td></tr><tr><td>R01</td><td>5,400</td></tr><tr><td>R02</td><td>0</td></tr><tr><td>R03</td><td>-</td></tr><tr><td>R04</td><td>27,300 (めざそう値)</td></tr></tbody></table>					年度	実績値 (人)	基準	26,000	H30	12,000	R01	5,400	R02	0	R03	-	R04	27,300 (めざそう値)	対前年度  (低下)
		年度	実績値 (人)																		
基準	26,000																				
H30	12,000																				
R01	5,400																				
R02	0																				
R03	-																				
R04	27,300 (めざそう値)																				
							達成状況  (低)														

基本事業01 魅力ある観光事業の推進

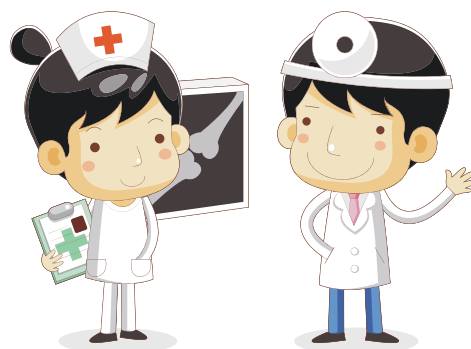
体験型観光客数		単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値														
指標③	【商工観光課】	人	285,510	284,076	111,100	292,500	☂														
評価	<状況> 令和2年度の体験型観光客は111,100人で、基準値と比較して174,410人減少、前年度と比較して172,976人減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、いちご狩りに訪れる観光客数は大幅に減少しています。今後は、観光協会と成東観光母組合と連携し、市内観光の周遊プランの充実やサイクルツーリズムを推進し、誘客促進を図ります。	(人) <table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値 (人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>285,510</td></tr><tr><td>H30</td><td>284,076</td></tr><tr><td>R01</td><td>284,076</td></tr><tr><td>R02</td><td>111,100</td></tr><tr><td>R03</td><td>-</td></tr><tr><td>R04</td><td>292,500 (めざそう値)</td></tr></tbody></table>					年度	実績値 (人)	基準	285,510	H30	284,076	R01	284,076	R02	111,100	R03	-	R04	292,500 (めざそう値)	(低下)
	年度	実績値 (人)																			
基準	285,510																				
H30	284,076																				
R01	284,076																				
R02	111,100																				
R03	-																				
R04	292,500 (めざそう値)																				
							☂ (低下) 達成状況 ■ (低)														

基本事業02 海岸を活用した観光推進

観光施設(海水浴場)の利用者数		単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値														
指標①	【商工観光課】	人	93,087	69,000	0	95,000	☂														
		(人)					(低下)														
評価	<状況> 令和2年度は海水浴場を開設することができませんでした。 <原因> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市内の5ヵ所の海水浴場を不開設としたことが原因です。ブルーフラッグを取得した本須賀海水浴場を中心に観光PRを強化し、多くの観光客が来訪する美しい海岸を守る取り組みを継続します。	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値 (人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>93,087</td></tr><tr><td>H30</td><td>90,000</td></tr><tr><td>R01</td><td>69,000</td></tr><tr><td>R02</td><td>0</td></tr><tr><td>R03</td><td>-</td></tr><tr><td>R04</td><td>95,000 (めざそう値)</td></tr></tbody></table>					年度	実績値 (人)	基準	93,087	H30	90,000	R01	69,000	R02	0	R03	-	R04	95,000 (めざそう値)	対 前年度
		年度	実績値 (人)																		
基準	93,087																				
H30	90,000																				
R01	69,000																				
R02	0																				
R03	-																				
R04	95,000 (めざそう値)																				
							☂														
							(低下)														
							達成 状況														
							■ ■ ■														
							(低)														

基本事業03 観光情報の発信

指標②	観光協会HP等の閲覧数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値													
		人	2,294	46,945	96,491	7,200	☀ (向上)													
評価	【商工観光課】	(人)					対前年度													
	<状況> 令和2年度の観光協会HP等の閲覧数は、96,491人で、基準値と比較して94,197人増加、前年度と比較して49,546人増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 令和元年度と比較すると、ホームページは29,040人増加、フェイスブックは21,111人増加しており、SNS等を効果的に運用することで、大幅に増加しています。今後は観光PR動画配信による若者向けの情報提供を充実させます。	<table><caption>観光協会HP等の閲覧数実績値</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値 (人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>2,294</td></tr><tr><td>H30</td><td>10,000</td></tr><tr><td>R01</td><td>46,945</td></tr><tr><td>R02</td><td>96,491</td></tr><tr><td>R03</td><td>-</td></tr><tr><td>R04</td><td>7,200 (めざそう値)</td></tr></tbody></table>					年度	実績値 (人)	基準	2,294	H30	10,000	R01	46,945	R02	96,491	R03	-	R04	7,200 (めざそう値)
年度	実績値 (人)																			
基準	2,294																			
H30	10,000																			
R01	46,945																			
R02	96,491																			
R03	-																			
R04	7,200 (めざそう値)																			
							☀ (達成)													



【政 策】

4 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

【施 策】

4-1 高齢者福祉の充実

4-2 障がい者(児)福祉の充実

4-3 健康づくりの推進

4-4 子育ての支援

4-5 地域福祉の充実とセーフティーネットの推進

政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

施策 01 高齢者福祉の充実

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆本市は、65歳以上の高齢者数が年々増加傾向にあり、高齢化が進展しているため、高齢者が住み慣れた地域で健康で自分らしく住み続けられるような環境づくり（地域包括ケアシステム）を行うことが求められています。

◆そのため、介護予防に積極的に取り組み、要支援・要介護状態にならないよう心身ともに健康で過ごし、生きがいをもって社会参加ができるような仕組みを構築し、推進していきます。

◆介護保険制度や介護保険サービスの周知や理解が不足しています。また、介護サービス事業所における有資格者の確保が困難な状況となっています。

◆そのため、介護保険制度を広く周知するとともに、マンパワーを充足させる施策を推進し、併せて地域支援事業等において各介護保険サービスの充実を図ります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
65歳から74歳までの高齢者で介護認定を受けずに生活している高齢者の割合（％）	成果	96.2	96.1	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
介護保険サービスの満足度（％）	成果	79.1	80.7	☀ (向上)	☀ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	社会参加している高齢者の割合（％）	成果	30.7	31.3	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
01	生きがいを持っている高齢者の割合（％）	成果	45	43.8	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	
01	新規要支援 新規要介護認定者の割合（％）	成果	3.6	3.6	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	
02	介護給付サービス利用率（居宅）（％）	成果	58.1	58.3	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
02	施設入所待機率（％）	成果	9.4	8.3	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
03	相談先がある高齢者の割合（％）	成果	79.7	77.9	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
04	介護保険料収納率（現年度）（％）	成果	98.43	98.72	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

施策 01 高齢者福祉の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 65歳以上の市民（高齢者） ・ 介護保険被保険者（40歳以上）	・ 高齢者が健康を保ちながら生活でき、自分の健康状態にあった福祉サービスが受けられ、地域生活が送れます。

施策の成果状況と評価

指標①	65歳から74歳までの高齢者で介護認定を受けずに生活している高齢者の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【高齢者福祉課】	%	96.3	96.2	96.1	97	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の65歳から74歳までの高齢者で介護認定を受けずに生活している高齢者の割合は96.1%で、基準値と比較して0.2ポイント減少、前年度と比較して0.1ポイント減少しました。 <原因> 介護予防や健康教室（運動教室）などの実施により、昨年度と概ね同じ割合を維持しています。（令和3年3月末現在：第1号被保険者9,352人、認定者366人）						対前年度 ☁ (横ばい) 達成状況 ■■■ (低)
指標②	介護保険サービスの満足度	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【高齢者福祉課】	%	75.6	79.1	80.7	77	☀ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の介護保険サービスの満足度は80.7%で、基準値と比較して5.1ポイント増加、前年度と比較して1.6ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 介護保険制度や介護サービスについて周知を続けてきた結果と考えます。引き続きわかりやすい説明、周知に努めます。						対前年度 ☀ (横ばい) 達成状況 ■■■ (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 生きがいづくりと介護予防の推進

基本事業 02 介護サービス・日常生活の支援

基本事業 03 安全・安心な生活への仕組みづくり

基本事業 04 介護保険制度の安定的な運用

基本事業01 生きがいづくりと介護予防の推進

指標①	社会参加している高齢者の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【高齢者福祉課】	%	35.7	30.7	31.3	40	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の社会参加している高齢者の割合は31.3%で、基準値と比較して4.4ポイント減少しましたが、前年度と比較して0.6ポイント増加しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症予防対策による外出自粛や交流の場・通いの場の休止など社会参加の機会の減少が要因と考えられます。						☀ (横ばい)
		(低)					達成状況

基本事業02 介護サービス・日常生活の支援

指標①	介護給付サービス利用率（居宅）	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【高齢者福祉課】	%	59.2	58.1	58.3	60	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の介護給付サービス利用率（居宅）は58.3%で、基準値と比較して0.9ポイント減少しましたが、前年度と比較して0.2ポイント増加しました。 <原因> 要介護認定者2,130人のうち、居宅サービスを利用された方は1,242人となっています。前年度と比較して、居宅サービスを利用された方が20人増加しています。						☀ (横ばい)
		(中)					達成状況

基本事業02 介護サービス・日常生活の支援

指標②	施設入所待機率	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【高齢者福祉課】	%	10.5	9.4	8.3	8	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の施設入所待機率は8.3%で、基準値と比較して2.2ポイント減少、前年度と比較して1.1ポイント減少しました。 <原因> 令和2年3月、山武市に特別養護老人ホームが1施設開設され、近隣市町においても特別養護老人施設が開設されている状況から待機者は、今後減少すると考えられます。（令和3年1月末現在 特養待機者数181名）						☀ (横ばい)
		(高)					達成状況

基本事業03 安全・安心な生活への仕組みづくり

指標①	相談先がある高齢者の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【高齢者福祉課】	%	76.2	79.7	77.9	78.4	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の相談先がある高齢者の割合は77.9%で、基準値と比較して1.7ポイント増加しましたが、前年度と比較して1.8ポイント減少しました。 <原因> コロナ禍のため、他者との交流の機会が減ったことが考えられます。「ある」との回答は男女とも家族や友人・知人への割合が高くなっています。						☀ (横ばい)
		(中)					達成状況

政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

施策 02 障がい者（児）福祉の充実

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆平成23年8月に「障害者基本法」が改正され、障がいの有無に関わらず人格と個性を尊重する共生社会の実現を目指すことが掲げられています。

◆加えて、平成30年4月には「障害者総合支援法」が改正され、障がい者自ら望む地域生活を営む事ができるよう生活と就労に関する支援の一層の充実を図るとともに、児童福祉法の一部改正により、発達支援が必要な児童のニーズにきめ細かく対応するための支援の充実を図ることとしています。

◆障がい者の高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能を整備し、障がい者（児）の生活を地域全体で支えるサービス提供体制の構築として、地域生活支援拠点の整備が必要とされています。

◆精神障がい者が地域で安心して自分らしい暮らしができるよう、医療・障害福祉・介護・社会参加・住まい・地域の助け合い・教育が包括的に確保された、保健所圏域における「精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム」の構築が求められています。

◆「障害者総合支援法」第77条の2の規定により、地域で相談支援の中核的な役割を担う機関の設置が求められています。令和4年度から山武圏域の3市3町で「基幹相談支援センター」を共同設置するため、関係市町等で準備を進めています。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
障がいの特性及びその環境に応じて、就業している障がい者の割合（分母から重度障がい者を除く）（％）	成果	2	1.65	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
在宅で生活している障がい者の割合（％）	代替	97.3	97.1	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	自立支援給付サービスの利用者数（人）	成果	588	638	☀ (向上)	☀ (向上)	○
02	地域生活支援事業(地域活動支援センターⅠ型)での相談件数（件）	代替	1,833	2,300	☀ (向上)	☀ (向上)	
02	医療費助成を受け経済的負担が軽減されている障がい者数（人）	代替	1,568	1,643	☀ (向上)	☀ (横ばい)	○
03	就労移行支援事業等のサービスを利用した障がい者数（人）	成果	26	24	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	
03	社会参加促進事業サービス利用割合（％）	成果	48.3	36.7	☂ (低下)	☂ (低下)	○
04	就学前の障がい児通所支援の利用者数（人）	成果	52	55	☀ (向上)	☀ (向上)	
04	切れ目のない支援のための情報共有及び仕組み構築の協議回数（回）	代替	2	1	☀ (向上)	☂ (低下)	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

施策 02 障がい者（児）福祉の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・障がい者等	・障がい者（児）がその障がいの特性及び環境に応じて、地域で安心して自立し、社会参加できます。

施策の成果状況と評価

指標①	障がいの特性及びその環境に応じて、就業している障がい者の割合（分母から重度障がい者を除く）	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【社会福祉課】	%	1.52	2	1.65	2.2	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の就業している障がい者の割合は1.65%で、基準値と比較して0.13ポイント増加していますが、前年度と比較して0.35ポイント減少しました。 <原因> 令和3年3月1日に障がい者法定雇用率が2.2%から2.3%へ引き上げられましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける企業が多く、採用につながらない状況です。また、障がい者就労は職場定着やフルタイムを希望せず、短時間で働くことを選択する方が多く見られることも要因と考えられます。						対前年度 ☁ (横ばい)
							達成状況 ■ (中)
指標②	在宅で生活している障がい者の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【社会福祉課】	%	97.2	97.3	97.1	97.4	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の在宅で生活している障がい者の割合は97.1%で、基準値と比較して0.1ポイント減少、前年度と比較して0.2ポイント減少しました。 <原因> 生活訓練や居宅介護サービス等の利用促進に努めているため、めざそう値に近い数値で成果を維持していると考えられます。						対前年度 ☁ (横ばい)
							達成状況 ■ (中)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 自立支援サービスの促進

基本事業 02 地域生活支援の基盤づくり

基本事業 03 社会活動参加の促進

基本事業 04 児童発達支援の充実

基本事業01 自立支援サービスの促進

指標①	自立支援給付サービスの利用者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【社会福祉課】	人	489	588	638	540	☀️ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の自立支援給付サービスの利用者数は638人で、基準値と比較して149人増加、前年度と比較して50人増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 各種手帳交付の際、自立支援給付サービスの説明を行い、周知に努めたことにより、成果が向上したと考えられます。						☀️ (向上)
							☀️ (向上)

基本事業02 地域生活支援の基盤づくり

指標②	医療費助成を受け経済的負担が軽減されている障がい者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【社会福祉課】	人	1,560	1,568	1,643	1,610	☀️ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の医療費助成を受け経済的負担が軽減されている障がい者数は1,643人で、基準値と比較して83人増加、前年度と比較して75人増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 自立支援医療（精神通院）受給者証発行者数は、前年度と比較して104人増加、重度心身障害者福祉医療対象者数は、対象者の高齢化、新規申請者数の減少により前年度と比較して29人減少しました。						☀️ (向上)
							☀️ (向上)

基本事業03 社会活動参加の促進

指標②	社会参加促進事業サービス利用割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【社会福祉課】	%	58.7	48.3	36.7	70	☔️ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の社会参加促進事業サービス利用割合は36.7%で、基準値と比較して22ポイント減少、前年度と比較して11.6ポイント減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症に係る国県の措置として、外出や移動の自粛が求められたことにより、福祉タクシー利用助成事業やコミュニケーション支援事業による手話通訳者等派遣数が減少したことが要因と考えられます。						☔️ (低下)
							☔️ (低下)

基本事業04 児童発達支援の充実

指標②	切れ目のない支援のための情報共有及び仕組み構築の協議回数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【社会福祉課】	回	0	2	1	8	☀️ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の切れ目のない支援のための情報共有及び仕組み構築の協議回数は1回で、基準値と比較して1回増加しましたが、前年度と比較して1回減少しました。 <原因> 障害のある児童に対して地域で支援を提供する「児童発達支援センター」について、山武圏域での設置に向け、関係部課での情報共有を図りました。						☔️ (低下)
							☔️ (低下)

政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

施策 03 健康づくりの推進

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆がん、心臓病、脳卒中は市の死因の54.0%を占め、国民健康保険の疾病別医療費分析によると、その原因となる可能性が高い疾病の第1位は糖尿病、第2位は高血圧となっているため、生活習慣病の発症予防や重症化予防に対する対策を強化していく必要があります。

◆がんは死因順位1位であり、早期発見・早期治療のためには、がん検診受診率を向上させる必要があります。

◆市の自殺率（人口10万対）は、国、県と比較して高い状態が続いています。関係部署や関係機関と連携し、情報収集、情報共有を行い、個別支援につなげていくことが重要です。

◆市の子どものむし歯保有者数は、毎年県平均より高い状況にあるため、むし歯予防対策の充実に努める必要があります。

◆地域医療体制の充実に当たって、地方独立行政法人さんむ医療センターの整備と健全な運営を確保する必要があります。

◆国民健康保険一人あたり総医療費を減少させるためには、特定健康診査事業の受診率を向上させる必要があります。健診結果を理解し、健康意識向上につながる啓発や相談の強化を図る必要があります。

◆新型コロナウイルス感染拡大により、感染予防対策に取り組む必要があります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
健康だと思ふ市民割合（％）	成果	80.8	78.3	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
生活習慣病死亡率（％）	成果	54	-	☀ (横ばい)	---	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	1人当たりの健康づくり取組項目数(全12項目中) 項目)	成果	4	3.8	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
02	特定健康診査受診率（％）	成果	40.1	12.6	☂ (低下)	☂ (低下)	○
02	がん検診を年1回受けている市民の割合（％）	成果	50.3	36.2	☂ (低下)	☂ (低下)	
02	メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合（％）	成果	34.4	-	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	
03	乳幼児健診の受診率（％）	成果	93.5	92.6	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	
03	乳幼児健診の満足度（％）	成果	95.1	96.5	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
03	幼児（3歳）のむし歯保有者率（％）	成果	14.7	13	☀ (向上)	☀ (向上)	
04	地域医療体制の充足度（％）	成果	58.6	61.8	☀ (向上)	☀ (横ばい)	○
05	1人当たりの総医療費（円）	成果	340,123	332,397	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	
05	慢性腎不全、高血圧症、糖尿病の構成割合（％）	成果	28.2	27.7	☀ (向上)	☀ (横ばい)	

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

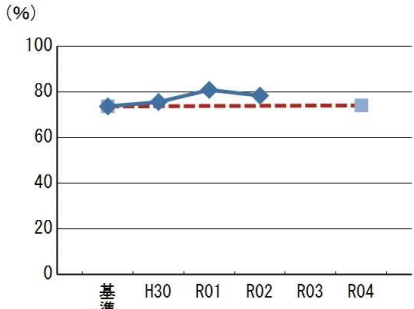
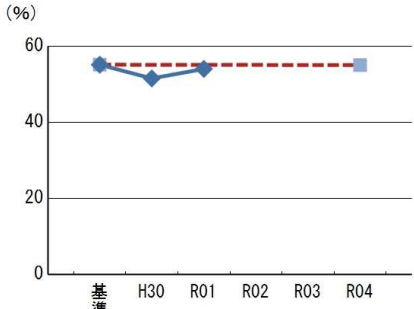
政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

施策 03 健康づくりの推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民	・ 健康への意識が高まることにより、生活習慣病が減少し、健康な心身で生活を送り続けられます。

施策の成果状況と評価

指標①	健康だと思ふ市民割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【健康支援課】	%	73.6	80.8	78.3	74	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の健康だと思ふ市民割合は78.3%で、前年度と比較して2.5ポイント減少しましたが、基準値と比較すると4.7ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 男女別では、前年度と比較して、男性は1.0ポイント増加しましたが、女性は5.0ポイント減少しました。						対前年度 ☁ (横ばい) 達成状況 🏰 (達成)
指標②	生活習慣病死亡率	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【健康支援課】	%	55.1	54	-	55	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の生活習慣病死亡率は2月以降に公表されるため未定ですが、令和元年度は基準値と比較して1.1ポイント減少し、めざそう値を達成しました。 <原因> がん検診や特定健診、糖尿病予防事業などの生活習慣病対策が一定の効果をもたらしたと考えられます。						対前年度 --- 達成状況 🏰 (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業	01	心身の健康管理の充実
基本事業	02	健診の受診率向上と生活習慣の改善
基本事業	03	母子の健康管理
基本事業	04	医療体制の充実
基本事業	05	国民健康保険医療費の改善

基本事業01 心身の健康管理の充実

指標①	1人当たりの健康づくり取組項目数(全12項目中)	単位	基準値	実績値(R01)	実績値(R02)	めざそう値(R04)	対基準値
	【健康支援課】	項目	3.73	4	3.8	3.8	☀️ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の1人当たりの健康づくり取組項目数は3.80項目で、前年度と比較して0.2項目減少しましたが、基準値と比較すると0.07項目増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 令和元年度と比較して「朝食を毎日とる」で2.0ポイント増加、「適正な体重の維持」は6.9ポイント減少、「週2回30分以上の運動(スポーツや散歩など)」は4.3ポイント減少したことから、新型コロナウイルス感染症流行によるステイホームが要因であると推察します。						☀️ (横ばい) 対前年度 ☀️ (横ばい) 達成状況 🏰 (達成)

基本事業02 健診の受診率向上と生活習慣の改善

指標①	特定健康診査受診率	単位	基準値	実績値(R01)	実績値(R02)	めざそう値(R04)	対基準値
	【国保年金課】	%	34.8	40.1	12.6	36.4	☔️ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の特定健康診査受診率は12.6%で、基準値と比較して22.2ポイント減少、前年度と比較して27.5ポイント減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集団健診を中止したことや未受診者勧奨を見合わせたことが、受診率減少の大きな要因です。対策として、完全予約制による公共施設での個別健診の実施や個別医療機関の拡大(4機関⇒16機関)に努めました。						☔️ (低下) 対前年度 ☔️ (低下) 達成状況 🏠 (低)

基本事業03 母子の健康管理

指標②	乳幼児健診の満足度	単位	基準値	実績値(R01)	実績値(R02)	めざそう値(R04)	対基準値
	【健康支援課】	%	94.3	95.1	96.5	94	☀️ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の乳幼児健診の満足度は96.5%で、基準値と比較して2.2ポイント増加、前年度と比較して1.4ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 健診時に実施しているアンケート結果を健診スタッフ全員で共有し、待ち時間の短縮や3密を避ける感染症対策を徹底するなどコロナ禍での改善・工夫に努めたことが要因と考えられます。						☀️ (横ばい) 対前年度 ☀️ (横ばい) 達成状況 🏰 (達成)

基本事業04 医療体制の充実

指標①	地域医療体制の充足度	単位	基準値	実績値(R01)	実績値(R02)	めざそう値(R04)	対基準値
	【健康支援課】	%	55.1	58.6	61.8	57	☀️ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の地域医療体制の充足度は61.8%で、基準値と比較して6.7ポイント増加、前年度と比較して3.2ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 内科、小児科、産婦人科、救急診療等で充足を感じる方が増加傾向にあります。						☀️ (向上) 対前年度 ☀️ (横ばい) 達成状況 🏰 (達成)

政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

施策 04 子育ての支援

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

- ◆共働きやひとり親家庭の増加に伴い、子育て支援のニーズが多様化しています。また、未満児（3歳児未満）の保育の需要増加に伴い、令和3年度から生後7ヶ月から保育を実施します。市では認定こども園化を推進するとともに、多様なサービスへの体制づくりに努める必要があります。
- ◆子育てについての相談機関として「子育て世代包括支援センター」等、相談機関の体制づくりを行っています。
- ◆市では、子どもの医療費助成の対象年齢を拡大しており、引き続き保護者の経済的な負担軽減を図っていく必要があります。
- ◆学童クラブは、利用者の増加に伴い小学校の余裕教室確保が課題となります。また、新・放課後子ども総合プランにより学童クラブと放課後子ども教室を一体的あるいは連携して実施する総合的な放課後対策が課題となります。
- ◆若い世代を中心に、結婚・出産・子育ての希望が叶えられる環境づくりが必要になっています。
- ◆新型コロナウイルス感染症対策を引き続き推進する必要があります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
子育てが幸せ、楽しいと思う乳幼児の保護者の割合（％）	成果	92.3	92.9	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
この地域で子育てをしたいと感じる乳幼児の保護者の割合（％）	成果	89.2	92.7	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	幼稚園・保育所・こども園の利用定員充足率（％）	成果	87.9	94	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
01	就学前保育・教育に関する保護者の満足度（％）	成果	94.6	95.5	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
02	配偶者・その他の親族以外で子育てを相談できる相手がいる保護者の割合（％）	成果	99.3	99.1	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
02	育てにくさを感じた時に対処できる保護者の割合（％）	成果	87	88.8	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	
02	子どもの社会性の発達過程を知っている保護者の割合（％）	成果	89.4%	91.4	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
02	各種子育て相談延べ件数（件）	代替	4,280	4,413	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
03	子育ての経済的負担軽減に関するのべ受給者数（人）	代替	74,865	56,745	☂ (低下)	☂ (低下)	
03	ひとり親家庭の自立率（％）	成果	7.5	8.7	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
04	児童虐待通告件数（件）	成果	71	83	---	---	○
04	児童に関する措置件数（件）	成果	2	0	---	---	
05	学童クラブの定員充足率（％）	成果	80.9	70.3	☂ (低下)	☂ (低下)	
06	出生者数(計画期間累計)（人）	成果	199	398	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	
06	結婚する意欲のある独身者の割合（％）	成果	84.1	79.3	☁ (横ばい)	☂ (低下)	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

施策 04 子育ての支援

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・児童（0～18歳未満） ・子育て家庭	安心して産む・育む等の子育て環境が整っているまちになっています。

施策の成果状況と評価

指標①	子育てが幸せ、楽しいと思う乳幼児の保護者の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【子育て支援課】	%	93	92.3	92.9	93	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の子育てが幸せ、楽しいと思う乳幼児の保護者の割合は92.9%で、基準値と比較して0.1ポイント減少しましたが、前年度と比較して0.6ポイント増加しました。 <原因> 子育ての孤立化や負担感の解消に向け、気軽に相談できる場や、経済的支援が行われたことにより心の余裕が生まれたことが原因と考えられます。						対前年度 ☀ (横ばい) 達成状況 ■■ (中)
指標②	この地域で子育てをしたいと感じる乳幼児の保護者の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【子育て支援課】	%	94.4	89.2	92.7	94.4	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度のこの地域で子育てをしたいと感じる乳幼児の保護者の割合は92.7%で、基準値と比較して1.7ポイント減少しましたが、前年度と比較して3.5ポイント増加しました。 <原因> 安心して子育てができるように、各こども園や幼稚園で新型コロナウイルス感染症対策を実施したことや、子育て世帯に対する給付金給付等の取り組みが要因と考えられます。						対前年度 ☀ (横ばい) 達成状況 ■■ (中)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業	01	幼保機能の充実
基本事業	02	子育て不安の軽減
基本事業	03	子育て家庭への援助
基本事業	04	こどもの人権の尊重
基本事業	05	学童保育の充実
基本事業	06	次世代育成に係る家族形成の支援

基本事業01 幼保機能の充実

指標②	就学前保育・教育に関する保護者の満足度	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【子育て支援課】	%	96.9	94.6	95.5	97	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の就学前保育・教育に関する保護者の満足度は95.5%で、基準値と比較して1.4ポイント減少しましたが、前年と比較して0.9ポイント増加しました。 <原因> 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により、例年どおりの園生活を行うことはできませんでしたが、11項目中8項目の満足度が向上しました。 各施設において保育教諭、保育士、幼稚園教諭等が適切な対応を行ったことが満足度向上の原因と考えます。						☀ (横ばい)
		(%)					達成状況
							■ (中)

基本事業02 子育て不安の軽減

指標①	配偶者・その他の親族以外で子育てを相談できる相手がいる保護者の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【子育て支援課】	%	99.2	99.3	99.1	99.2	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の配偶者・その他の親族以外で子育てを相談できる相手がいる保護者の割合は99.1%で、基準値と比較して0.1ポイント減少、前年度と比較して0.2ポイント減少しました。 <原因> 令和元年度と比較して、友人・知人などより身近な相談相手が増えましたが、職場や医師・看護師などの相談相手が減少しました。新型コロナウイルス感染症感染拡大による、生活スタイルの変化が原因と考えられます。						☁ (横ばい)
		(%)					達成状況
							■ (高)

基本事業04 こどもの人権の尊重

指標①	児童虐待通告件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【子ども教育課】	件	62	71	83	—	---
評価	<状況> 令和2年度の児童虐待通告件数は83件で、基準値と比較して21件増加、前年度と比較して12件増加しました。 <原因> 家庭児童相談室への令和2年度の相談・訪問延べ件数は1,866件で、相談内容も多岐にわたっています。地域や関係機関と連携を図りながら、児童虐待の早期発見、早期対応のため、相談者が小さな相談事と思っても相談できる環境づくりに取り組んでいることが児童虐待の予防につながっていると考えます。						---
		(件)					達成状況

基本事業06 次世代育成に係る家族形成の支援

指標②	結婚する意欲のある独身者の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【企画政策課】	%	80.2	84.1	79.3	80	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の結婚する意欲のある独身者の割合は79.3%で、基準値と比較して0.9ポイント減少し、前年度と比較して4.8ポイント減少しました。 <原因> 意欲が高い10歳代20歳代の回答数の減少と、男性の20歳代30歳代の8.4ポイントの低下により、指標値が下降しました。 独身の理由では、男女とも「適当な相手にめぐり会わない」「必要性を感じない」が多く、特に男性が趣味や独身の自由さを優先する考えが増加傾向にあることが懸念されます。						☁ (横ばい)
		(%)					達成状況
							☂ (低下)
							■ (中)

政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

施策 05 地域福祉の充実とセーフティネットの推進

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆国では、社会的孤立や生活困窮等の問題も含め、子ども・高齢者・障がい者等、すべての人々が地域、暮らし、生きがいをともに創り、高めあうことができる「地域共生社会」の実現を目指した方向性を示しています。

◆平成30年4月に「社会福祉法」が改正され、地域住民が自ら、地域の様々な分野にわたる生活課題を把握し、その解決に向けて各種支援機関と連携しながら活動するということが、地域福祉の理念として掲げられました。一人でも多くの市民が地域活動に参加することのできる仕組みを整備し、活動の活性化を図ることが必要とされています。

◆コロナ禍で、生活困窮者自立相談支援を行う「生活・就労相談室」の相談件数が増加しています。

◆生活保護受給者の増加に加え、非正規職員の労働者や低所得の給与収入者など、生活に困窮するリスクの高い層が増えています。

◆生活保護受給者数は、高齢化の進展等の社会情勢から、今後も増加が見込まれます。生活保護受給者の自立に向けた、個々の状況に応じた適切な援助、指導が必要です。

◆公営住宅については、長寿化や今後の在り方を検討しながら、施設管理を行っています。なお、令和2年度は市営住宅長寿化計画を策定しました。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
地域で福祉の相互扶助できていると思う市民の割合（％）	成果	22.6	22.4	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
生活保護率（‰）	代替	8.32	8.59	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	地域福祉サービスや福祉のボランティアをしたことがある市民の割合（％）	成果	12.4	12.4	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
01	福祉活動の市民活動団体の加入者数（人）	成果	1,478	1,512	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
02	社会福祉協議会で実施した事業への参加者数（人）	成果	27,406	14,347	☂ (低下)	☂ (低下)	○
02	民生委員児童委員の1人当たりの年間活動日数（日）	成果	94	66	☂ (低下)	☂ (低下)	
03	生活困窮者相談件数（件数）	成果	2,028	2,332	☀ (向上)	☀ (向上)	
04	自立による生活保護廃止件数（件）	成果	11	12	☁ (横ばい)	☀ (向上)	○
05	公営住宅入居率（％）	代替	90.2	96.73	☁ (横ばい)	☀ (向上)	

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

施策 05 地域福祉の充実とセーフティネットの推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民 ・ 生活困窮者	・ 地域で相互扶助できていると思う市民が増加します。 ・ 市民が経済的に安定した生活が送れます。

施策の成果状況と評価

指標①	地域で福祉の相互扶助できていると思う市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【社会福祉課】	%	19	22.6	22.4	22	☀ (横ばい)
評価	<状況> 地域で福祉の相互扶助できていると思う市民の割合は22.4%で、前年度と比較して0.2ポイント減少しましたが、基準値と比較すると3.4ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 令和元年度の災害や現在のコロナ禍を機に民生委員の活動など、相互扶助の機会が増えたことが要因と考えられます。						対前年度 ☁ (横ばい) 達成状況 🏰 (達成)
指標②	生活保護率	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【社会福祉課】	‰	7.61	8.32	8.59	11.19	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の生活保護率は8.59‰で、基準値と比較して0.98ポイント増加、前年度と比較して0.27ポイント増加しましたが、めざそう値を達成しました。 <原因> ケースワーカー及び就労支援員による生活保護廃止に向けた就労支援、指導等の取組を実施していますが、高齢化の進展や傷病などによる失業等により、高齢世帯、傷病世帯及び障がい者世帯が増加傾向にあります。						対前年度 ☁ (横ばい) 達成状況 🏰 (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

基本事業	01	地域福祉の担い手育成
基本事業	02	社会福祉機関・団体の充実
基本事業	03	生活困窮者自立支援の充実
基本事業	04	生活保護制度の適正な実施
基本事業	05	公営住宅の維持管理

指標①	地域福祉サービスや福祉のボランティアをしたことがある市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【社会福祉課】	%	11.3	12.4	12.4	12	対前年度
評価	<状況> 令和2年度の地域福祉サービスや福祉のボランティアをしたことがある市民の割合は12.4%で、基準値と比較して1.1ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> ボランティアを行うことに対する市民の意識が浸透してきているのではないかと考えられます。						達成状況
							達成

指標 ②	福祉活動の市民活動団体の加入者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値														
	【社会福祉課】	人	1,465	1,478	1,512	1,500	☀ (横ばい)														
評価	<状況> 令和2年度の福祉活動の市民活動団体の加入者数は1,512人で基準値と比較して47人増加、前年度と比較して34人増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 団体数は98団体で前年度から2団体減少しておりますが、新型コロナウイルス感染症対策の布マスク作成ボランティアによる個人ボランティアが増加したものです。	(人) <table border="1"> <caption>福祉活動の市民活動団体の加入者数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>加入者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準</td> <td>1,465</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>1,478</td> </tr> <tr> <td>R01</td> <td>1,478</td> </tr> <tr> <td>R02</td> <td>1,512</td> </tr> <tr> <td>R03</td> <td>1,512</td> </tr> <tr> <td>R04</td> <td>1,500</td> </tr> </tbody> </table>					年度	加入者数	基準	1,465	H30	1,478	R01	1,478	R02	1,512	R03	1,512	R04	1,500	☀ (横ばい)
	年度	加入者数																			
基準	1,465																				
H30	1,478																				
R01	1,478																				
R02	1,512																				
R03	1,512																				
R04	1,500																				
							☀ (横ばい)														
							達成状況														
							達成														

指標 ①	社会福祉協議会で実施した事業への参加者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
	【社会福祉課】	人	32,005	27,406	14,347	33,000	⬇
評価	<状況> 令和2年度の社会福祉協議会で実施した事業への参加者数は14,347人で、基準値と比較して17,658人減少、前年度と比較して13,059人減少しました。 <原因> 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、健康福祉まつりの他、多くの行事が中止や縮小となったためです。						(低下) 対 前年度 ⬇ (低下) 達成 状況 ■■■ (低)

指標①	自立による生活保護廃止件数	単位	基準値	実績値(R01)	実績値(R02)	めざそう値(R04)	対基準値														
	【社会福祉課】	件	15	11	12	9															
評価	<状況> 令和2年度の自立による生活保護廃止件数は12件で、基準値と比較して3件減少しましたが、前年度と比較して1件増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 主な原因としては、親類縁者の引取りにより廃止に至ったケースが増加しました。	(件) <table border="1"> <caption>自立による生活保護廃止件数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>R01</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>R02</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>R03</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>R04</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>					年度	件数	基準	15	H30	9	R01	11	R02	12	R03	10	R04	9	(横ばい) 対前年度 (向上) 達成状況 (達成)
	年度	件数																			
基準	15																				
H30	9																				
R01	11																				
R02	12																				
R03	10																				
R04	9																				



【政 策】

5 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり

【施 策】

5-1 学校教育の充実

5-2 生涯学習の推進

5-3 スポーツの振興

5-4 人権尊重のまちづくり

政策 05 生涯を通じて人と人とのふれあい共に学びあえるまちづくり

施策 01 学校教育の充実

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

- ◆少子化により児童・生徒数は今後も減少が見込まれます。「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画」に基づき、小学校の複式学級及び中学校の単学級の解消を図ります。
- ◆近年の教育課題として、経済格差から子どもの学ぶ意欲や学力の低下、規範意識や倫理観の欠如等、社会を構成する一員としての責任の自覚や正義感の乏しさ等が懸念されています。
- ◆確かな学力の向上を図るため、個に応じた少人数指導の充実による指導方法の工夫改善を図る必要があります。
- ◆児童・生徒一人ひとりのニーズに対応するために、支援員の配置等の人的支援を含めた具体的な対応策を講じる必要があります。
- ◆「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業においてＩＣＴ機器の有効活用を図る必要があります。
- ◆社会全体で子どもたちを守り育むため、学校・家庭・地域が協力できる体制づくりを推進する必要があります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
学校生活に満足している児童の割合 (%)	成果	92.5	94.1	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
学校生活に満足している生徒の割合 (%)	成果	89.2	90.7	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	学力の向上が見られる児童の割合 (%)	成果	-	62.1	☀ (横ばい)	---	○
01	学力の向上が見られる生徒の割合 (%)	成果	-	66.4	☀ (向上)	---	○
01	中学校卒業時に英語検定 3級以上を取得している生徒の割合 (%)	成果	35	32.8	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
02	生活習慣の改善に努めた生徒の割合 (%)	成果	28.7	4.6	☂ (低下)	☂ (低下)	
02	朝食を毎日食べている児童・生徒の割合 (%)	成果	78.5	92.5	☀ (向上)	☀ (向上)	
03	不登校児童の割合 (%)	成果	0.51	0.91	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	
03	不登校生徒の割合 (%)	成果	4.2	3.56	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
03	道徳性、規律性がある児童・生徒の割合 (%)	成果	93.7	-	---	---	
04	ICT機器の活用により学習意欲に向上が見られた児童の割合 (%)	成果	50.5	53.5	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	
04	ICT機器の活用により学習意欲に向上が見られた生徒の割合 (%)	成果	38.1	39.4	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
04	授業にICT機器を積極的に活用した教職員の割合 (%)	成果	46.9	51	☀ (向上)	☀ (横ばい)	
05	学校施設・給食施設の不具合による学校生活支障件数 (件)	成果	0	0	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
05	複式学級 (小学校) 及び単学級 (中学校) の出現数 (校)	成果	1	1	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
06	学校教育活動に協力した市民数 (人)	成果	503	395	☂ (低下)	☂ (低下)	
06	コミュニティ・スクール導入学校数 (校)	成果	2	2	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

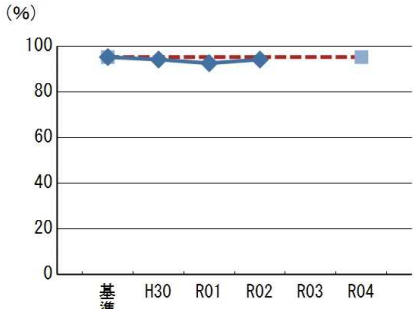
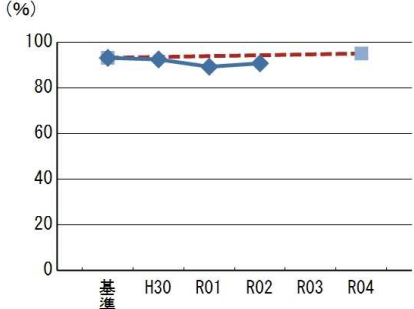
政策 05 生涯を通じて人と人とのふれあい共に学びあえるまちづくり

施策 01 学校教育の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
- 児童 - 生徒	学校生活に満足している児童生徒が増加します。

施策の成果状況と評価

指標①	学校生活に満足している児童の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【子ども教育課】	%	95.2	92.5	94.1	95.2	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の学校生活に満足している児童の割合は94.1%で、基準値と比較して1.1ポイント減少しましたが、前年度と比較して1.6ポイント増加しました。 <原因> 学校生活に満足している児童の割合は、高い水準を維持しています。これは、コロナ禍で学校生活での制限が多い中、各学校の様々な工夫や市の少人数指導講師や支援員・心の教室相談員の配置によるきめ細かな指導が原因と考えられます。						対前年度 ☀ (横ばい) 達成状況 ■■ (中)
指標②	学校生活に満足している生徒の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【子ども教育課】	%	93.1	89.2	90.7	95	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の学校生活に満足している生徒の割合は90.7%で、基準値と比較して2.4ポイント減少しましたが、前年度と比較して1.5ポイント増加しました。 <原因> 学校生活に満足している生徒の割合は、高い水準を維持していますが、基準値を下回ったのは、コロナ禍における学校行事の中止・延期や部活動の活動制限に対する不満の増加が原因の1つと考えられます。						対前年度 ☀ (横ばい) 達成状況 ■■ (中)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進

基本事業 02 「健やかな体」の育成

基本事業 03 「豊かな心」を育む

基本事業 04 ICT教育の実践

基本事業 05 教育環境の整備

基本事業 06 地域と学校の協力体制の推進

基本事業01 「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進

指標①	学力の向上が見られる児童の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
		【子ども教育課】	%	57.5	-	62.1	60
評価	<状況> 令和2年度の学力の向上が見られる児童の割合は62.1%で、基準値と比較して4.6ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 基礎・基本の徹底を図るために、ドリルタイムなどの継続的な学習時間の確保に努めたことが要因です。						(横ばい) 対前年度 --- 達成状況 (達成)

基本事業01 「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進

指標②	学力の向上が見られる生徒の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
		【子ども教育課】	%	54.4	-	66.4	56
評価	<状況> 令和2年度の学力の向上が見られる生徒の割合は66.4%で、基準値と比較して10ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 基礎・基本の徹底を図るために、ドリルタイムなどの継続的な学習時間の確保に努めたことが要因です。						(向上) 対前年度 --- 達成状況 (達成)

基本事業01 「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進

指標③	中学校卒業時に英語検定3級以上を取得している生徒の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
		【子ども教育課】	%	36.1	35	32.8	50
評価	<状況> 令和2年度の中学校卒業時に英語検定3級以上を取得している生徒の割合は32.8%で、基準値と比較して3.3ポイント減少、前年度と比較して2.2ポイント減少しました。 <原因> 英語検定は年に3回受験機会がありますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、受験回数が減少したことが一因と考えられます。						(横ばい) 対前年度 (横ばい) 達成状況 (低)

基本事業05 教育環境の整備

指標①	学校施設・給食施設の不具合による学校生活支障件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
		【施設整備課】	件	0	0	0	0
評価	<状況> 令和2年度の学校施設・給食施設の不具合による学校生活支障件数は0件で、基準値を維持し、めざそう値を達成しました。 <原因> 学校施設や給食センター施設において、修繕や改修工事等の必要性が高まってきていますが、保守点検の委託や日常点検の実施等により、学校生活に支障が出るような不具合等はありませんでした。また、突発的な案件についても迅速かつ適切に対応してきました。						(横ばい) 対前年度 (横ばい) 達成状況 (達成)

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

- ◆新型コロナウイルス感染対策により従来どおりの施設利用ができないことから、自主事業等の実施が困難な状況です。
- ◆市民の学習ニーズの多様化・高度化が進んでおり、これらのニーズに対応した講座の充実が求められています。
- ◆生涯学習施設利用者の高齢化・固定化が進んでいます。新たなニーズを模索し市民誰もが参加しやすい学習・文化事業の展開が必要です。また、各施設については老朽化が進行しており、公共施設等総合管理計画・個別施設計画に基づく、施設の適正配置及び維持管理が必要となっています。
- ◆市内には国が指定する2件の文化財のほか、県12件、市90件の指定文化財があります。これらを周知・活用した学習機会を増やすことで、郷土愛の醸成につなげます。
- ◆芸術文化への関心が高まり、活動への新規参加者は増加傾向にあります。一方で、郷土芸能活動をはじめとする伝統文化等の継承・保存は担い手不足等により困難になっています。
- ◆東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定を契機に、グローバル化が急速に進んでいます。多文化交流・理解力・国際競争力が求められる中、広い視野を持つ人材の育成が必要です。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
生涯学習に取り組んでいる市民の割合 全般的) (%)	成果	25.7	21.5	☂ (低下)	☁ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	市主催の生涯学習講座の年間参加者数 人)	成果	3,056	1,513	☂ (低下)	☂ (低下)	
01	自主クラブ登録数 グループ)	成果	120	114	☂ (低下)	☁ (横ばい)	
02	生涯学習施設の利用者数 人)	成果	294,243	74,568	☂ (低下)	☂ (低下)	○
03	市民が認識している市内文化財数(全13項目) 項目)	成果	9.42	-	---	---	
03	文化財を活用した事業・施設への参加者・入館者数 人)	成果	8,897	4,219	☂ (低下)	☂ (低下)	
04	芸術文化の鑑賞の機会が充足していると思う市民の割合 (%)	成果	69.2	63.6	☀ (横ばい)	☂ (低下)	○
04	市主催の芸術文化事業への参加者数 人)	成果	5,594	928	☂ (低下)	☂ (低下)	
04	芸術文化活動・発表等の機会が充足していると思う市民の割合 (%)	成果	34.3	27.8	☂ (低下)	☂ (低下)	
05	青少年育成事業 体験学習への児童・生徒参加者数 人)	成果	3,168	65	☂ (低下)	☂ (低下)	○
05	海外派遣事業応募者数 人)	代替	15	0	☂ (低下)	☂ (低下)	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 05 生涯を通じて人と人とのふれあい共に学びあえるまちづくり

施策 02 生涯学習の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民 (主に学校教育を終了した市民)	・ 生涯学習の環境が整い、学習の機会が増加することで、市民の学習への取組が活発化し、自己実現が図られます。

施策の成果状況と評価

指標①	生涯学習に取り組んでいる市民の割合（全般的）	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値														
		%	30.8	25.7	21.5	33	☂ (低下)														
	【生涯学習課】																				
評価	<状況> 令和2年度の生涯学習に取り組んでいる市民の割合（全般的）は21.5%で、基準値と比較して9.3ポイント減少、前年度と比較して4.2ポイント減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染対策として施設利用を制限したことや緊急事態宣言等による外出の自粛が要因と考えられます。各施設では、感染防止のために三密対策を実施して、事業を行いました。		(%) <table><thead><tr><th>項目</th><th>割合 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>30.8</td></tr><tr><td>H30</td><td>28.5</td></tr><tr><td>R01</td><td>25.7</td></tr><tr><td>R02</td><td>21.5</td></tr><tr><td>R03</td><td>21.5</td></tr><tr><td>R04</td><td>33.0</td></tr></tbody></table>				項目	割合 (%)	基準	30.8	H30	28.5	R01	25.7	R02	21.5	R03	21.5	R04	33.0	対 前年度
	項目	割合 (%)																			
	基準	30.8																			
H30	28.5																				
R01	25.7																				
R02	21.5																				
R03	21.5																				
R04	33.0																				
							☁ (横ばい)														
							達成 状況														
							■■■ (低)														

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 主体的な学習の推進

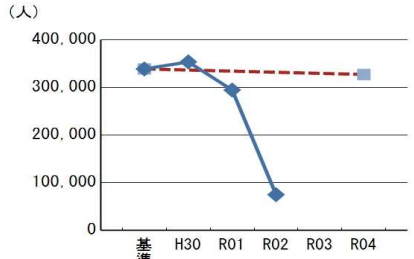
基本事業 02 生涯学習施設の利用促進

基本事業 03 文化財の保護・活用

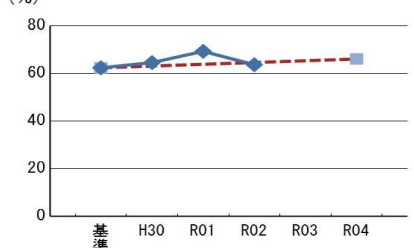
基本事業 04 芸術文化活動の充実

基本事業 05 青少年の育成

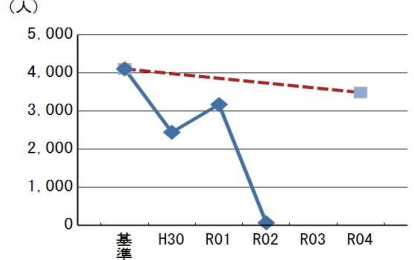
基本事業02 生涯学習施設の利用促進

指標①	生涯学習施設の利用者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【文化会館】	人	338,515	294,243	74,568	326,900	☂ (低下)
評価	＜状況＞ 令和2年度の生涯学習施設の利用者数は74,568人で、基準値と比較して263,947人減少、前年度と比較して219,675人減少しました。 ＜原因＞ 施設の大規模改修工事による休館や新型コロナウイルス感染対策として施設利用を制限したことおよび緊急事態宣言等による外出の自粛が要因と考えられます。 各施設では、感染防止のために三密対策を実施して、事業を行いました。						対前年度 ☂ (低下) 達成状況 ☂ (低)

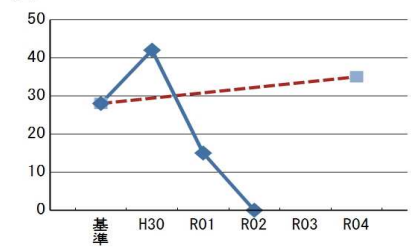
基本事業04 芸術文化活動の充実

指標①	芸術文化の鑑賞の機会が充足していると思う市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【文化会館】	%	62.3	69.2	63.6	66	☀ (横ばい)
評価	＜状況＞ 令和2年度の芸術文化の鑑賞の機会が充足していると思う市民の割合は63.6%で、基準値と比較して1.3ポイント増加、前年度と比較して5.6ポイント減少しました。 ＜原因＞ 新型コロナウイルス感染対策として施設利用を制限したことが要因と考えられます。						対前年度 ☂ (低下) 達成状況 ☂ (中)

基本事業05 青少年の育成

指標①	青少年育成事業・体験学習への児童・生徒参加者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【生涯学習課】	人	4,102	3,168	65	3,482	☂ (低下)
評価	＜状況＞ 令和2年度の青少年育成事業・体験学習への児童・生徒参加者数は65人で、基準値と比較して4,037人減少、前年度と比較して3,103人減少しました。 ＜原因＞ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、ニュージーランドやスリランカとの交流事業等の多くの事業が中止となったことが原因です。						対前年度 ☂ (低下) 達成状況 ☂ (低)

基本事業05 青少年の育成

指標②	海外派遣事業応募者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【生涯学習課】	人	28	15	0	35	☂ (低下)
評価	＜状況＞ 令和2年度は海外派遣事業を実施できませんでした。 ＜原因＞ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に伴う渡航制限等により中止としたためです。						対前年度 ☂ (低下) 達成状況 ☂ (低)

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆高齢化社会の進行により、高齢者の健康意識の高まりによる体力づくりやスポーツ活動への参加が年々増加傾向にあるため、状況に応じたプログラムの整備を行うことで、子どもから高齢者までが、スポーツを継続的に取り組むことができる環境づくり（総合型地域スポーツクラブの設置）を推進します。

◆少子化に伴う少年スポーツ団体数の減少や統合により、各種団体への登録人数が減少している状況を踏まえ、子どもたちの運動機会を増やすため、自宅にしながら利用できる公共スポーツ施設予約システムの構築による利便性の向上を図ります。

◆経年劣化により老朽化したスポーツ施設の改修整備等を行い、多くの方が気持ちよく利用できる環境づくりを図ります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
スポーツ活動に親しむ市民の割合（％）	成果	32.4	28.7	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	スポーツ大会 教室へ参加した市民の割合（％）	成果	10.1	5.7	☔ (低下)	☁ (横ばい)	
01	スポーツ大会 教室の機会の充足度（％）	成果	69	65.9	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
02	スポーツ団体数 総合型地域スポーツクラブを含む）団体）	成果	49	49	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
02	体育関係団体の指導者数（人）	成果	123	71	☔ (低下)	☔ (低下)	○
03	体育施設の利用者数（人）	成果	138,482	48,785	☔ (低下)	☔ (低下)	○
03	体育施設の修繕件数（件）	成果	0	0	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

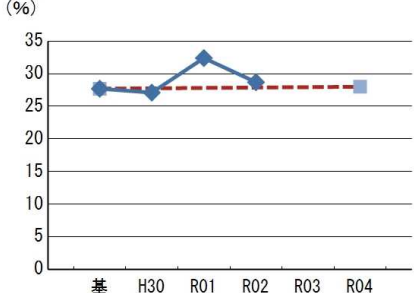
政策 05 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり

施策 03 スポーツの振興

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民	・ 継続的にスポーツを行うことにより、心身ともに健康な生活を営むことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	スポーツ活動に親しむ市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
	【スポーツ振興課】	%	27.7	32.4	28.7	28	☀ (横ばい)
評 価	<状況> 令和2年度のスポーツ活動に親しむ市民の割合は28.7%で、前年度と比較して3.7ポイント減少しましたが、基準値と比較すると1.0ポイント増加し、めざそう値を達成しました <原因> 新型コロナウイルスの影響により、長い自粛生活が続き、健康維持のためスポーツ活動やウォーキング（散歩）に親しむ市民の割合が増加していると考えられます。		(%) 				対 前年度
							☁ (横ばい)
							達成 状況
							🏰 (達成)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 スポーツ活動の充実

基本事業 02 体育関係団体・指導者の育成

基本事業 03 体育施設の利用促進

基本事業01 スポーツ活動の充実

指標②	スポーツ大会・教室の機会の充足度	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【スポーツ振興課】	%	63.7	69	65.9	66.2	☀️ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度のスポーツ大会・教室の充足度は65.9%で、基準値と比較して2.2ポイント増加しましたが、前年度と比較して3.1ポイント減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の使用中止や利用制限により、スポーツ大会や教室を実施する機会を提供できなかったことが考えられます。また、スポーツ推進委員の協力によりyoutub e山武市公式チャンネルを活用し、「ポッチャ」を紹介しました。						☀️ (横ばい)
							☀️ (横ばい)

基本事業02 体育関係団体・指導者の育成

指標①	スポーツ団体数（総合型地域スポーツクラブを含む）	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【スポーツ振興課】	団体	49	49	49	50	☀️ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度のスポーツ団体数（総合型地域スポーツクラブを含む）は49団体で、基準値を維持しています。 <原因> 令和元年度と比較すると、少年スポーツクラブに加盟するクラブの増減がありましたが、スポーツ団体（総合型地域スポーツクラブ含む）の総数に変化はありません。また、新型コロナウイルスの影響による活動制限の継続や少子化による児童・生徒の減少は続いているため、少年スポーツクラブを取り巻く環境は依然として厳しい状況であると考えられます。						☀️ (横ばい)
							☀️ (横ばい)

基本事業02 体育関係団体・指導者の育成

指標②	体育関係団体の指導者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【スポーツ振興課】	人	133	123	71	135	☔️ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の体育関係団体の指導者数は71人で、基準値と比較して62人減少、前年度と比較して52人減少しました。 <原因> 少子化や新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ少年団への登録団体数が減少したことが原因と考えられます。今後「コーチングアシスタント」等の資格取得を支援することで、登録団体及び指導者の増加を図ります。						☔️ (低下)
							☔️ (低下)

基本事業03 体育施設の利用促進

指標①	体育施設の利用者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【スポーツ振興課】	人	144,471	138,482	48,785	148,122	☔️ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の体育施設の利用者数は48,785人で、基準値と比較して95,686人減少、前年度と比較して89,697人減少しました。 <原因> 施設の老朽化による改修工事や新型コロナウイルス感染症の影響による使用中止等があったため、利用者数が減少したことが要因と考えられます。						☔️ (低下)
							☔️ (低下)

政策 05 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり

施策 04 人権尊重のまちづくり

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

- ◆「人権が尊重されているまちだ」と思う市民の割合」は、ほぼ横ばいながらも微減しています。
- ◆LGBTや外国人の人権等、配慮すべき多様な人権ニーズへの期待に応えられるよう、人権教育・啓発活動を推進します。
- ◆多様な人権問題の解決の糸口を見いだせるように、人権相談窓口を開設します。
- ◆「あらゆる分野で男女が対等に参画していると思う市民の割合」は、平成25年度以降、低位で推移しており、本市の男女共同参画を推進していくうえで順調とはいえない状況にあります。このため、令和元年度から運用を開始した「第3次山武市男女共同参画計画」において、積極的に男女共同参画に関連する施策を推進する必要があります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
人権が尊重されているまちだと思ふ市民の割合（％）	成果	58.5	55.7	☀ (向上)	☁ (横ばい)	○
あらゆる分野で男女が対等に参画していると思ふ市民の割合（％）	成果	24.6	20.3	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	この1年間に人権について学んだことのある市民の割合（％）	成果	23.3	26.7	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
01	この1年間に人権侵害をするような言動や行動をした市民の割合（％）	成果	9.3	7.9	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
02	人権侵害に対する措置件数（件）	代替	886	620	☂ (低下)	☀ (向上)	
03	審議会などに女性委員が登用されている割合（％）	成果	22.1	26	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
03	男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方ではない人の割合（％）	成果	77.7	77.6	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
03	男性が家事・育児に積極的に参加している割合（％）	成果	39.2	36.8	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 05 生涯を通じて人と人とのふれあい共に学びあえるまちづくり

施策 04 人権尊重のまちづくり

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・ 市民	・ 誰もが基本的人権が守られる地域社会になります。 ・ 男女の不公平感が解消され、女性の社会進出の促進が図られます。

施策の成果状況と評価

指標①	人権が尊重されているまちだと思ふ市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【市民自治支援課】	%	45.7	58.5	55.7	48	☀ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の人権が尊重されているまちだと思ふ市民の割合は55.7%で、前年度と比較して2.8ポイント減少しましたが、基準値と比較すると10ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 人権教育やマスメディアにより、市民の多様な人権に対する意識が高まるとともに、各種人権に対するニーズも多様化したものと分析します。						対前年度 (横ばい) 達成状況 (達成)
指標②	あらゆる分野で男女が対等に参画していると思ふ市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【企画政策課】	%	21.8	24.6	20.3	25	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度のあらゆる分野で男女が対等に参画していると思ふ市民の割合は20.3%で、基準値と比較して1.5ポイント減少、前年度と比較して4.3ポイント減少しました。 <原因> アンケートの割合では、男性26.5%、女性15.4%で認識に相違がみられます。年齢別では10歳代が15.4%、職業別では学生17.0%と低くなっています。今後も啓発活動を継続していく必要があると考えます。						対前年度 (横ばい) 達成状況 (低)

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

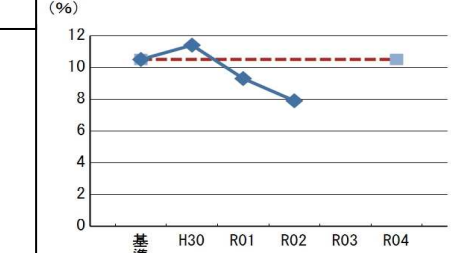
□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 人権教育・人権啓発の推進

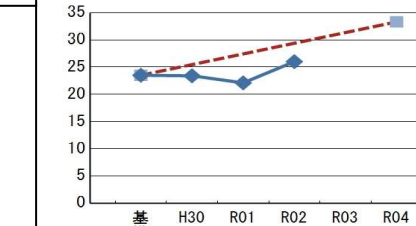
基本事業 02 人権擁護の推進

基本事業 03 男女共同参画の推進

基本事業01 人権教育・人権啓発の推進

指標②	この1年間に人権侵害をするような言動や行動をした市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【市民自治支援課】	%	10.5	9.3	7.9	10.5	
評価	<状況> 令和2年度のこの1年間に人権侵害をするような言動や行動をした市民の割合は7.9%で、基準値と比較して2.6ポイント減少、前年度と比較して1.4ポイント減少し、めざそう値を達成しました。 <原因> 人権教育やマスメディアにより、市民の多様な人権に対する意識が高まったと分析されます。引き続き学校・職場を中心に人権啓発を図る必要があると考えます。						対前年度  (横ばい)
							達成状況  (達成)

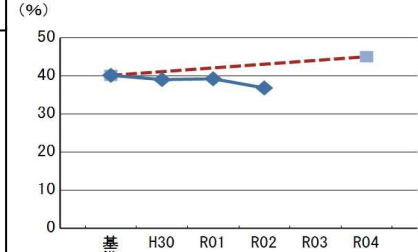
基本事業03 男女共同参画の推進

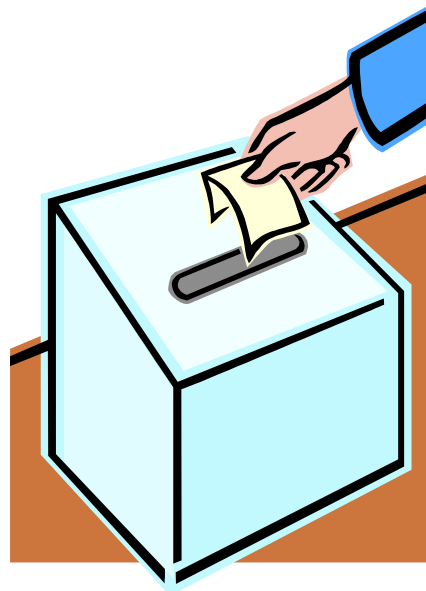
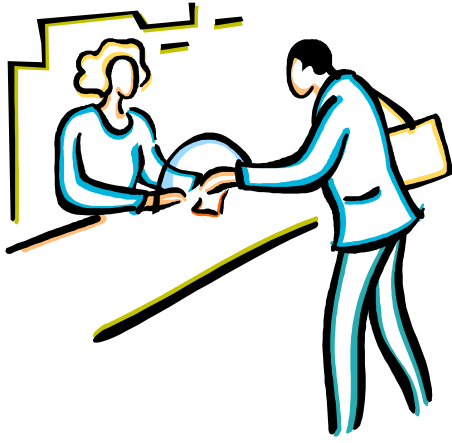
指標 ①	審議会などに女性委員が登用されている割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値
	【企画政策課】	%	23.5	22.1	26	33.3	 (横ばい)
評 価	<状況> 令和2年度の審議会などに女性委員が登用されている割合は26.0%で、基準値と比較して2.5ポイント増加、前年度と比較して3.9ポイント増加しました。 <原因> 前年度と比較すると、委員が44人増加、うち女性の登用は25人増加したことから、審議会の新設や更新において女性委員に登用が進んだものと考えられます。引き続き、積極的な女性委員の登用にに向けて、第3次男女共同参画計画や山武市審議会等委員への女性登用推進方針を基に全庁的に取り組みます。	 (%)					対 前年度  (横ばい)

基本事業03 男女共同参画の推進

指標②	「男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方ではない人の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値														
	【企画政策課】	%	73.3	77.7	77.6	75															
評価	<状況> 令和2年度の「男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方ではない人の割合は77.6%で、前年度と比較して0.1ポイント減少しましたが、基準値と比較すると4.3ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 全ての年代で70%を超え、中でも10代の94.8%など若年層で高水準を推移しています。男女別では、男性73.5%、女性81.9%でそれぞれ前年度と同等の数値です。これらのことから、性別的役割意識の解消が定着してきているものと考えます。	(%)  <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>73.3</td></tr><tr><td>H30</td><td>77.7</td></tr><tr><td>R01</td><td>77.6</td></tr><tr><td>R02</td><td>75.0</td></tr><tr><td>R03</td><td>-</td></tr><tr><td>R04</td><td>75.0</td></tr></tbody></table>					項目	値	基準	73.3	H30	77.7	R01	77.6	R02	75.0	R03	-	R04	75.0	(横ばい) 対前年度  (横ばい) 達成状況  (達成)
		項目	値																		
基準	73.3																				
H30	77.7																				
R01	77.6																				
R02	75.0																				
R03	-																				
R04	75.0																				

基本事業03 男女共同参画の推進

指標 ③	男性が家事・育児に積極的に参加している割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値														
	【企画政策課】	%	40.1	39.2	36.8	45															
評 価	<状況> 令和2年度の男性が家事・育児に積極的に参加している割合は36.8%で、基準値と比較して3.3ポイント減少、前年度と比較して2.4ポイント減少しました。 <原因> 男女間の認識では、男性が40.4%、女性が34.7%で相違が見受けられます。指標値の低下は、コロナ禍で家庭内の役割分担のバランスが変化したことが考えられます。今後、男性が家事・育児に積極的に参加していくには、男性の意識の醸成、家庭内での意思疎通や職場等の環境整備の進展が必要と考えます。	(%)  <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>40.1</td></tr><tr><td>H30</td><td>39.2</td></tr><tr><td>R01</td><td>39.2</td></tr><tr><td>R02</td><td>36.8</td></tr><tr><td>R03</td><td>-</td></tr><tr><td>R04</td><td>45</td></tr></tbody></table>					項目	値	基準	40.1	H30	39.2	R01	39.2	R02	36.8	R03	-	R04	45	(横ばい)
							項目	値													
基準	40.1																				
H30	39.2																				
R01	39.2																				
R02	36.8																				
R03	-																				
R04	45																				
							対 前年度														
																					
							(横ばい)														
							達成 状況														
																					
							(低)														



【政 策】

6 市民と行政が協働してつくるまちづくり

【施 策】

6-1 協働と交流によるまちづくり

6-2 開かれた市政とまちの魅力発信

6-3 計画的・効率的な行財政運営

6-4 公正確実な事務の執行

政策 06 市民と行政が協働してつくるまちづくり

施策 01 協働と交流によるまちづくり

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆多様化する市民ニーズに対応したきめ細かいサービスの提供を行政が担う時代から支えあいと活気のある住民主体の協働による共助社会へと移行しつつあります。地域まちづくり協議会等を通じて、各種団体等が交流し、自らが課題解決をするまちづくりを推進します。

◆「市民活動（地域活動）に参加している市民の割合」、「NPO・ボランティア活動をしている市民割合」は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少となってしまいましたが、市民活動が途切れることのないよう、オンライン化等を含めた新たな環境整備に努めます。

◆近年、山武市においても外国人が増加していることから、在住外国人と地域の人々が、共に理解し、暮らしていけるまちづくりが必要です。

◆山武市内の区・自治会が私人としての組織となったことから、地域と行政がパートナーとして協力していけるまちづくりが必要です。

◆東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるスリランカのホストタウンとして、オールさんむで大会の成功に協力するとともに、その開催効果を市の発展につなげます。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
市民活動（地域活動）に参加している市民の割合（％）	成果	36.5	31.6	☂ (低下)	☁ (横ばい)	○
NPO・ボランティア活動をしている市民割合（％）	成果	17	15.6	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	区会、自治会加入率（％）	成果	71.9	70.1	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	
02	市民活動に意欲的な市民割合（％）	成果	40.9	38.8	☂ (低下)	☁ (横ばい)	○
02	市の支援が役立っていると思う市民活動実践者割合（％）	成果	93.6	88.2	☁ (横ばい)	☂ (低下)	
03	市民活動支援施設の利用者数（人）	代替	54,093	24,285	☂ (低下)	☂ (低下)	○
03	活動場所に困っている市民活動団体の割合（％）	成果	17.8	25.5	☁ (横ばい)	☂ (低下)	
04	多文化共生社会への行政・市民団体の取組数(オリパラ 関連除く) 件)	成果	9	9	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
05	東京オリンピック・パラリンピック関連の事業実施数（事業）	成果	20	7	☂ (低下)	☂ (低下)	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 06 市民と行政が協働してつくるまちづくり

施策 01 協働と交流によるまちづくり

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
・市民 ・NPO法人 ・市民活動団体 ・職員	・まちづくりや公共について、市民と行政が共に考え、共に実践していく市民活動が活発に行われています。

施策の成果状況と評価

指標①	市民活動（地域活動）に参加している市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値														
	【市民自治支援課】	%	41.7	36.5	31.6	42	☔ (低下)														
評価	<状況> 令和2年度の市民活動（地域活動）に参加している市民の割合は31.6%で、基準値と比較して10.1ポイント減少、前年度と比較して4.9ポイント減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症の影響により、市民活動自体が全般的に減少傾向であったことが大きな原因となります。しかし、活動をされる方々による基本的な感染症対策、また、オンライン会議や研修など様々な工夫により、大きな減少とはなりませんでした。	(%) <table><tr><th>指標</th><th>基準</th><th>H30</th><th>R01</th><th>R02</th><th>R03</th><th>R04</th></tr><tr><td>市民活動（地域活動）に参加している市民の割合 (%)</td><td>41.7</td><td>36.5</td><td>31.6</td><td>31.6</td><td>31.6</td><td>42</td></tr></table>					指標	基準	H30	R01	R02	R03	R04	市民活動（地域活動）に参加している市民の割合 (%)	41.7	36.5	31.6	31.6	31.6	42	対前年度 ☔ (横ばい) 達成状況 ■■■ (低)
	指標	基準	H30	R01	R02	R03	R04														
市民活動（地域活動）に参加している市民の割合 (%)	41.7	36.5	31.6	31.6	31.6	42															

指標②	NPO・ボランティア活動をしている市民割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値														
	【市民自治支援課】	%	19	17	15.6	20	☔ (横ばい)														
評価	<状況> 令和2年度のNPO・ボランティア活動をしている市民割合は15.6%で、基準値と比較して3.4ポイント減少、前年度と比較して1.4ポイント減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア等の方々が関わる活動自体が全般的に減少傾向であったことが大きな原因となります。	(%) <table><tr><th>指標</th><th>基準</th><th>H30</th><th>R01</th><th>R02</th><th>R03</th><th>R04</th></tr><tr><td>NPO・ボランティア活動をしている市民割合 (%)</td><td>19</td><td>17</td><td>15.6</td><td>15.6</td><td>15.6</td><td>20</td></tr></table>					指標	基準	H30	R01	R02	R03	R04	NPO・ボランティア活動をしている市民割合 (%)	19	17	15.6	15.6	15.6	20	対前年度 ☔ (横ばい) 達成状況 ■■■ (低)
	指標	基準	H30	R01	R02	R03	R04														
NPO・ボランティア活動をしている市民割合 (%)	19	17	15.6	15.6	15.6	20															

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 区・自治会活動の活性化

基本事業 02 市民活動の活性化

基本事業 03 市民活動施設の利用促進

基本事業 04 多文化共生社会の推進

基本事業 05 東京オリンピック・パラリンピック関連事業の推進

基本事業02 市民活動の活性化

指標①	市民活動に意欲的な市民割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【市民自治支援課】	%	45.4	40.9	38.8	48	☂ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の市民活動に意欲的な市民割合は38.8%で、基準値と比較して6.6ポイント減少、前年度と比較して2.1ポイント減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症の影響により、活動機会が例年より少なかったことが大きな原因であると考えられます。市民活動は、人との対面によるものが多く、新たな活動の形を模索していく必要があると考えます。						☂ (低下)
							☂ (低下)

基本事業03 市民活動施設の利用促進

指標①	市民活動支援施設の利用者数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【市民自治支援課】	人	44,066	54,093	24,285	45,000	☂ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の市民活動施設の利用者数は24,285人で、基準値と比較して19,781人減少、前年度と比較して29,808人減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の利用が大幅に制限されたことが原因です。基本的な感染症対策を行った上で、多くの方が利用できるよう体制を整えていきます。						☂ (低下)
							☂ (低下)

基本事業04 多文化共生社会の推進

指標①	多文化共生社会への行政・市民団体の取組数(オリパラ関連除く)	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【市民自治支援課】	件	9	9	9	9	☀ (横ばい)
評価	状況> 令和2年度の多文化共生社会への行政・市民活動団体の取組数は9件で、基準値を維持し、めざそう値を達成しました。 原因> 新型コロナウイルスの影響により、海外の交流事業等が中止となる中で、語学支援事業は継続されており、取組数が維持されています。また、対面での開催となる外国人懇談会は、ガイドブック作成に変更し、事業を継続しております。						☀ (横ばい)
							☀ (横ばい)

基本事業05 東京オリンピック・パラリンピック関連事業の推進

指標①	東京オリンピック・パラリンピック関連の事業実施数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【東京オリンピック・パラリンピック戦略推進室】	事業	21	20	7	20(H32)	☂ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の東京オリンピック・パラリンピック関連の事業実施数は7事業で、基準値と比較して14事業減少、前年度と比較して13事業減少しました。 原因> 東京2020大会開催までの期間において実施する事業について、毎年度アクションプランを策定し、計画的に事業を実施することとしていますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、10事業が中止となったことが原因です。						☂ (低下)
							☂ (低下)

政策 06 市民と行政が協働してつくるまちづくり

施策 02 開かれた市政とまちの魅力発信

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

- ◆株式会社ブランド総合研究所の地域ブランド調査によれば、山武市の魅力度は1,000団体中997位（令和2年度現在）で最下位でした。首都圏に位置し、成田国際空港に近接している立地メリットや、魅力ある地域資源のポテンシャルを発揮するため、市外から「山武市」を知ってもらえる集中的な情報発信体制を構築し、市の魅力を積極的に発信していきます。
- ◆広報紙や議会だよりの創意工夫に加え、新聞離れやインターネットメディアの普及等から、SNSを活用しながら、市政情報の伝達手段の多様化に取り組めます。
- ◆「市長への手紙」等の仕組みを通じて、市民と行政とが情報共有することにより相互理解を深めます。
- ◆ICTを活用した議会中継配信（平成28年9月運用開始）の周知等を通じ、議会への関心を高めていきます。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
市政情報の提供の満足度 (%)	成果	82.7	78.8	☂ (低下)	☁ (横ばい)	○
多様な市民の声を取り入れる仕組みとなっていると思う市民の割合 (%)	成果	63.4	59.7	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
山武市の特徴や良い点を近隣以外の人に説明できる市民の割合 (%)	成果	24.9	24	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	広報紙を読んでいる市民の割合 (%)	成果	85	86.9	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
01	広報紙が分かりやすいと思う市民の割合 (%)	成果	86.5	86.5	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	
01	市ホームページアクセス件数 (アクセス)	成果	827,353	466,639	---	---	
01	まちの魅力の各種メディア掲載件数 (件)	成果	289	209	☀ (横ばい)	☂ (低下)	○
02	市民の声が市政に届いていると思う市民の割合 (%)	成果	26.2	26.5	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
03	議会だよりを読んでいる市民の割合 (%)	成果	41.6	39.2	☂ (低下)	☁ (横ばい)	○
03	傍聴人数 (人)	成果	84	62	☂ (低下)	☁ (横ばい)	
03	議会インターネット中継アクセス件数 (件)	成果	1,394	1,409	☂ (低下)	☀ (横ばい)	

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 06 市民と行政が協働してつくるまちづくり

施策 02 開かれた市政とまちの魅力発信

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
- 市民 - 行政 - 国民 - 職員	- 市政情報が適切に市民に伝わるとともに、市民の意見が市政に取り入れられています。 - 市民一人ひとりが「わがまち」に誇りを持ち、市外からも魅力が感じられています。

施策の成果状況と評価

指標①	市政情報の提供の満足度	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値														
	【秘書広報課】	%	84.1	82.7	78.8	85	☂ (低下)														
評価	＜状況＞ 令和２年度の市政情報提供の満足度は78.8%で、基準値と比較して5.3ポイント減少、前年度と比較して3.9ポイント減少しました。 ＜原因＞ 令和元年度と比較して各年代で満足度が下がっていますが、10歳代から50歳代までは概ね80%を超えています。これはスマートフォンなどを利用して情報収集しているためと思われます。広報の配布は新聞折込で実施していることから、新聞購読率の低下に伴い、満足度が下がっていると考えられます。	<table><caption>市政情報の提供の満足度 (対前年度)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>満足度 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>84.1</td></tr><tr><td>H30</td><td>82.7</td></tr><tr><td>R01</td><td>78.8</td></tr><tr><td>R02</td><td>78.8</td></tr><tr><td>R03</td><td>78.8</td></tr><tr><td>R04</td><td>85.0</td></tr></tbody></table>					年度	満足度 (%)	基準	84.1	H30	82.7	R01	78.8	R02	78.8	R03	78.8	R04	85.0	☂ (横ばい)
	年度	満足度 (%)																			
基準	84.1																				
H30	82.7																				
R01	78.8																				
R02	78.8																				
R03	78.8																				
R04	85.0																				
						達成状況 ■ (低)															

指標②	多様な市民の声を取り入れる仕組みとなっていると思う市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値														
	【秘書広報課】	%	60.2	63.4	59.7	65	☀ (横ばい)														
評価	＜状況＞ 令和２年度の多様な市民の声を取り入れる仕組みとなっていると思う市民の割合は59.7%で、基準値と比較して0.5ポイント減少、前年度と比較して3.7ポイント減少しました。 ＜原因＞ 年齢別では10歳代から20歳代、職業別では「学生」では、満足している割合が高いですが、その他の世代では、前年度数値と横ばいのため、市ホームページなどのインターネットを活用した仕組みが浸透していないものと思われます。	<table><caption>多様な市民の声を取り入れる仕組みとなっていると思う市民の割合 (対前年度)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>割合 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>60.2</td></tr><tr><td>H30</td><td>63.4</td></tr><tr><td>R01</td><td>59.7</td></tr><tr><td>R02</td><td>59.7</td></tr><tr><td>R03</td><td>59.7</td></tr><tr><td>R04</td><td>65.0</td></tr></tbody></table>					年度	割合 (%)	基準	60.2	H30	63.4	R01	59.7	R02	59.7	R03	59.7	R04	65.0	☀ (横ばい)
	年度	割合 (%)																			
基準	60.2																				
H30	63.4																				
R01	59.7																				
R02	59.7																				
R03	59.7																				
R04	65.0																				
						達成状況 ■ (中)															

指標③	山武市の特徴や良い点を近隣以外の人に説明できる市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値														
	【秘書広報課】	%	19.2	24.9	24	25	☀ (横ばい)														
評価	＜状況＞ 令和２年度の山武市の特徴や良い点を近隣の人に説明できる市民の割合は24.0%で、基準値と比較して4.8ポイント増加しましたが、前年度と比較して0.9ポイント減少しました。 ＜原因＞ 「説明できない」と回答した割合は、年齢別では30歳代、60～64歳代の層が高く、職業別では会社員、自営業が高くなっています。アンケートの意見では、都心へのアクセス環境の良さや豊かな自然環境などが上げられていますが、こうした市の魅力が市民に浸透していないことなどが要因として考えられます。	<table><caption>山武市の特徴や良い点を近隣以外の人に説明できる市民の割合 (対前年度)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>割合 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>19.2</td></tr><tr><td>H30</td><td>24.9</td></tr><tr><td>R01</td><td>24.0</td></tr><tr><td>R02</td><td>24.0</td></tr><tr><td>R03</td><td>24.0</td></tr><tr><td>R04</td><td>25.0</td></tr></tbody></table>					年度	割合 (%)	基準	19.2	H30	24.9	R01	24.0	R02	24.0	R03	24.0	R04	25.0	☀ (横ばい)
	年度	割合 (%)																			
基準	19.2																				
H30	24.9																				
R01	24.0																				
R02	24.0																				
R03	24.0																				
R04	25.0																				
						達成状況 ■ (高)															

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 情報発信力の充実

基本事業 02 広聴の充実

基本事業 03 議会情報の公開の推進

基本事業01 情報発信力の充実

指標①	広報紙を読んでいる市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【秘書広報課】	%	88.1	85	86.9	90	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の広報紙を読んでいる市民の割合は86.9%で、基準値と比較して1.2ポイント減少しましたが、前年度と比較して1.9ポイント増加しました。 <原因> 市民編集委員と協働し、市民目線で市民生活に密着した情報や特集記事の掲載に努めたことや、新型コロナウイルス感染症情報に関心が高いことが前年度と比較して増加した要因の一つと考えられます。						☁ (横ばい) 対前年度 ☀ (横ばい) 達成状況 ■■■ (低)

基本事業01 情報発信力の充実

指標④	まちの魅力の各種メディア掲載件数	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【秘書広報課】	件	195	289	209	215	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度のまちの魅力の各種メディア掲載件数は209件で、基準値と比較して14件増加、前年度と比較して80件減少しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症予防のため市行事等が中止や延期になることが多かったことが前年度から減少した要因として考えられます。						☀ (横ばい) 対前年度 ☔ (低下) 達成状況 ■■■ (高)

基本事業02 広聴の充実

指標①	市民の声が市政に届いていると思う市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【秘書広報課】	%	26.8	26.2	26.5	33	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の市民の声が市政に届いていると思う市民の割合は26.5%で、基準値と比較して0.3ポイント減少しましたが、前年度と比較すると0.3ポイント増加しました。 <原因> 60歳代と70歳以上においては、前年度より低い数値となっていますが、50歳代においては、前年度数値を大きく上回っている状況です。						☁ (横ばい) 対前年度 ☀ (横ばい) 達成状況 ■■■ (低)

基本事業03 議会情報の公開の推進

指標①	議会だよりを読んでいる市民の割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【議会事務局】	%	45.7	41.6	39.2	47	☔ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の議会だよりを読んでいる市民の割合は39.2%で、基準値と比較して6.5ポイント減少、前年度と比較して2.4ポイント減少しました。 <原因> 議会だよりは、新聞折込及び郵送で各世帯に配布していますが、新聞購読者が減少し配布数が減っています。また、新型コロナウイルスの影響による定例会一般質問を取りやめたことで記事内容が変更となったため一時的な紙面離れにつながったと考えられます。						☔ (低下) 対前年度 ☁ (横ばい) 達成状況 ■■■ (低)

政策 06 市民と行政が協働してつくるまちづくり

施策 03 計画的・効率的な行財政運営

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

◆権限移譲や人口減少等の影響から職員一人ひとりの事務量増加が見込まれる中、行政評価の仕組みを活用することで、費用対効果の高い事業への資源配分を推進し、結果重視の行政経営を一層推進する必要があります。

◆年金の支給開始年齢の段階的引き上げによる再任用の原則義務化、地方公務員法の改正による人事評価結果の処遇反映の義務化や会計年度任用職員制度の導入等に対応した、組織運営が必要です。

◆普通交付税の合併算定替期間の終了に伴い、歳入歳出のバランスの適正化を推進する必要があります。

◆公共施設等の老朽化に対応するため、令和2年度末に策定した個別施設計画を踏まえ公共施設等総合管理計画の改訂を2021年度までに行い、公共施設の適正化を推進します。

◆市民サービスの向上や労働人口の減少が進むなかで多様化するニーズに対応するため、自治体DX（行政事務のデジタル改革）が求められています。

◆全国銀行協会が2024年10月から自治体からの送金に手数料を新たに適用すると表明したことから、振込件数の削減を含む会計処理を改革を推進する必要があります。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
施策の目標達成率（％）	成果	35	35	☀ (向上)	☀ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	基本事業の目標達成率（％）	成果	35.7	36.7	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
01	PDCAサイクルを意識している職員の割合（％）	成果	54.3	57.2	☀ (向上)	☀ (横ばい)	
02	部署内外の連携が十分に図られていると感じる職員の割合（％）	成果	69.3	71.6	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	
02	能力が十分発揮され実績が評価されていると思う職員の割合（％）	成果	77.9	82.4	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
02	研修により資質の向上が図られていると思う職員の割合（％）	成果	92.8	92.4	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	
03	経常収支比率（％）	成果	92.6	92.6	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	
03	実質公債費比率（％）	成果	8.7	7.9	☀ (向上)	☀ (向上)	○
03	経常経費に占める一般財源の割合（％）	成果	78.58	78.02	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
04	市税収納率（％）	成果	97.58	97.58	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
05	市保有の土地活用率（％）	成果	45.5	46.6	☁ (横ばい)	☀ (横ばい)	
05	公共施設維持管理費（万円）	成果	143,715		☂ (低下)	☂ (低下)	○
06	市のITサービスを利用している市民割合（％）	成果	41.5	43.1	☀ (向上)	☀ (横ばい)	○
06	主要情報システムの予期せぬ停止時間（年間）（時間）	成果	0	0.5	☀ (横ばい)	☁ (横ばい)	

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 06 市民と行政が協働してつくるまちづくり

施策 03 計画的・効率的な行財政運営

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
- 行政 - 市民	計画的・効率的・効果的な行財政運営が行われています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	施策の目標達成率	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対 基準値																						
	【企画政策課】	%	29.1	35	35	60	☀ (向上)																						
評 価	<状況> 令和2年度の施策の目標達成度は35.0%で、基準値と比較して5.9ポイント増加しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度から引き続き指標値が大幅に減少している指標もありますが、森林整備年間実施面積の増加など、各取り組みにより向上した指標もあり、令和元年度の達成度を維持しました。			(%) <table border="1"><thead><tr><th>指標</th><th>基準</th><th>H30</th><th>R01</th><th>R02</th><th>R03</th><th>R04</th></tr></thead><tbody><tr><td>実績値</td><td>29.1</td><td></td><td>35</td><td>35</td><td></td><td></td></tr><tr><td>めざそう値</td><td>29.1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>60</td></tr></tbody></table>				指標	基準	H30	R01	R02	R03	R04	実績値	29.1		35	35			めざそう値	29.1					60	対 前年度
								指標	基準	H30	R01	R02	R03	R04															
								実績値	29.1		35	35																	
								めざそう値	29.1					60															
	☀ (横ばい)																												
	達成 状況																												
	■■■ (低)																												

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業	01	行政経営の推進
基本事業	02	人材育成と効率的な組織運営
基本事業	03	健全な財政運営
基本事業	04	税収の確保
基本事業	05	公共資産の適正化とファシリティマネジメントの推進
基本事業	06	情報化の推進と適正管理

基本事業01 行政経営の推進

指標①	基本事業の目標達成率	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【企画政策課】	%	35.6	35.7	36.7	70	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の基本事業の目標達成率は36.7%で、基準値と比較して1.1ポイント、前年度と比較して1ポイント増加しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度から引き続き指標値が大幅に減少している指標もありますが、コロナ禍でもこれまでの各事務事業の取り組みにより全体としては指標値が向上しています。						☀ (横ばい)
							☀ (横ばい)

基本事業03 健全な財政運営

指標②	実質公債費比率	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【財政課】	%	9.3	8.7	7.9	9	☀ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の実質公債費比率は7.9%で、基準値と比較して1.4ポイント減少、前年度と比較して0.8ポイント減少しました。 <原因> 計画的な借入れを行ってきたため、公債費は減少傾向にあり、実質公債費比率は基準値から減少しています。						☀ (向上)
							☀ (向上)

基本事業05 公共資産の適正化とファシリティマネジメントの推進

指標②	公共施設維持管理費	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【財政課】	万円	192,225	143,715		192,000	☔ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の公共施設維持管理費は215,556万円で、基準値と比較して23,331万円増加、前年度と比較して71,841万円増加しました。 <原因> 会計年度任用職員制度の開始による給与体系の変更に伴い人件費が増加したこと及び小中学校での生徒用タブレットを購入したことが原因です。なお、通常の公共施設維持管理費については、前年度と比較してほぼ横ばいとなります。						☔ (低下)
							☔ (低下)

基本事業06 情報化の推進と適正管理

指標①	市のICTサービスを利用している市民割合	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
	【総務課】	%	28	41.5	43.1	31	☀ (向上)
評価	<状況> 令和2年度の市のICTサービスを利用している市民割合は43.1%で、基準値と比較して15.1ポイント増加、前年度と比較して1.6ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> スマートフォンの普及により、65歳以上のホームページの閲覧やメール配信サービス利用者の増加が原因と考えられます。						☀ (向上)
							☀ (横ばい)

政策 06 市民と行政が協働してつくるまちづくり

施策 04 公正確実な事務の執行

施策の基本方針（環境変化と課題）

施策の 基本方針 及び 施策の 環境変化と 課題

- ◆地方自治体の業務が多様化、高度化する一方で、引き続き、市民に対して不安や誤解を与えない正確な事務執行と会計処理を行っていく必要があります。このため、職員誰もが公正で確実な行政サービスを提供できるよう取り組みます。
- ◆選挙権が18歳以上に引き下げられましたが、依然として投票率の向上が見られないことから、若い世代を中心に選挙に関心を持ってもらうための啓発活動を行い、併せて選挙事務の効率化に取り組みます。

施策・基本事業成果指標の一覧

施策の成果指標

成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
公正確実な事務の執行の満足度（％）	成果	74.1	74.5	☂ (低下)	☀ (横ばい)	○

基本事業の成果指標

No.	成果指標名	区分	R01実績	R02実績	対 基準値	対 前年度	掲載
01	口座振替支払期日における支払不能件数（件）	成果	29	59	☂ (低下)	☂ (低下)	○
02	市政投票率（市長）（％）	成果	—	—	---	---	
02	市政投票率（市議）（％）	成果	55.6	—	---	---	
03	監査による指摘事項などの措置率（％）	成果	100	100	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
04	不服申立による変更件数（件）	成果	0	0	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○
04	個人情報の漏洩件数（件）	成果	0	0	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	
05	窓口サービスの満足度（％）	成果	82	81.9	☁ (横ばい)	☁ (横ばい)	○
06	不服申立等により課税誤りになった件数（件）	成果	0	0	☀ (横ばい)	☀ (横ばい)	○

※掲載欄に○のある成果指標については、次の成果状況と評価においてグラフと評価コメントを掲載しています。

政策 06 市民と行政が協働してつくるまちづくり

施策 04 公正確実な事務の執行

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
- 市民 - 職員	職員のだれもが、公正で確実な行政サービスを提供できます。

施策の成果状況と評価

指標①	公正確実な事務の執行の満足度	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値														
	【総務課】	%	81.9	74.1	74.5	82	☂ (低下)														
評価	<状況> 令和2年度の公正確実な事務の執行の満足度は74.5%で、基準値と比較して7.4ポイント減少しましたが、前年度と比較して0.4ポイント増加しました。 <原因> 対基準値で減少している一方、対前年度では2年連続で向上しています。これは、文書管理や情報公開制度等の研修の実施等により、職員の事務能力の向上が図られていることが要因です。また、今後、文書への押印義務付け廃止を実施することで、効率的かつ公正な事務の執行に取り組みます。			(%) <table><thead><tr><th>年度</th><th>満足度 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>81.9</td></tr><tr><td>H30</td><td>74.1</td></tr><tr><td>R01</td><td>74.5</td></tr><tr><td>R02</td><td>74.5</td></tr><tr><td>R03</td><td>74.5</td></tr><tr><td>R04</td><td>82.0</td></tr></tbody></table>			年度	満足度 (%)	基準	81.9	H30	74.1	R01	74.5	R02	74.5	R03	74.5	R04	82.0	対前年度 ☀ (横ばい)
							年度	満足度 (%)													
基準	81.9																				
H30	74.1																				
R01	74.5																				
R02	74.5																				
R03	74.5																				
R04	82.0																				
							達成状況 ■■ (中)														

見開き左側のページに施策の成果状況を、右側のページに基本事業の成果状況を掲載しています。
なお、基本事業の成果状況については、特に動きのあった指標を抜粋して掲載しています。

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 適正な会計処理

基本事業 02 積極的な選挙啓発

基本事業 03 監査の充実

基本事業 04 情報公開及び個人情報保護の推進

基本事業 05 窓口サービスの向上

基本事業 06 公平・公正な課税

基本事業01 適正な会計処理

指標①	【会計課】	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
		件	48	29	59	43	☂ (低下)
評価	<状況> 令和2年度の口座振替支払期日における支払不能件数は59件で、基準値と比較して11件増加、前年度と比較して30件増加しました。 <原因> 振込不能返却報告書が随時ファックス連絡されるようになったことにより、当日再振込が可能になりましたが、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として行われた特別定額給付金の支給があり、同日再振込ができず、支払不能件数が増加しました。						☂ (低下)
							☂ (低下)

基本事業04 情報公開及び個人情報保護の推進

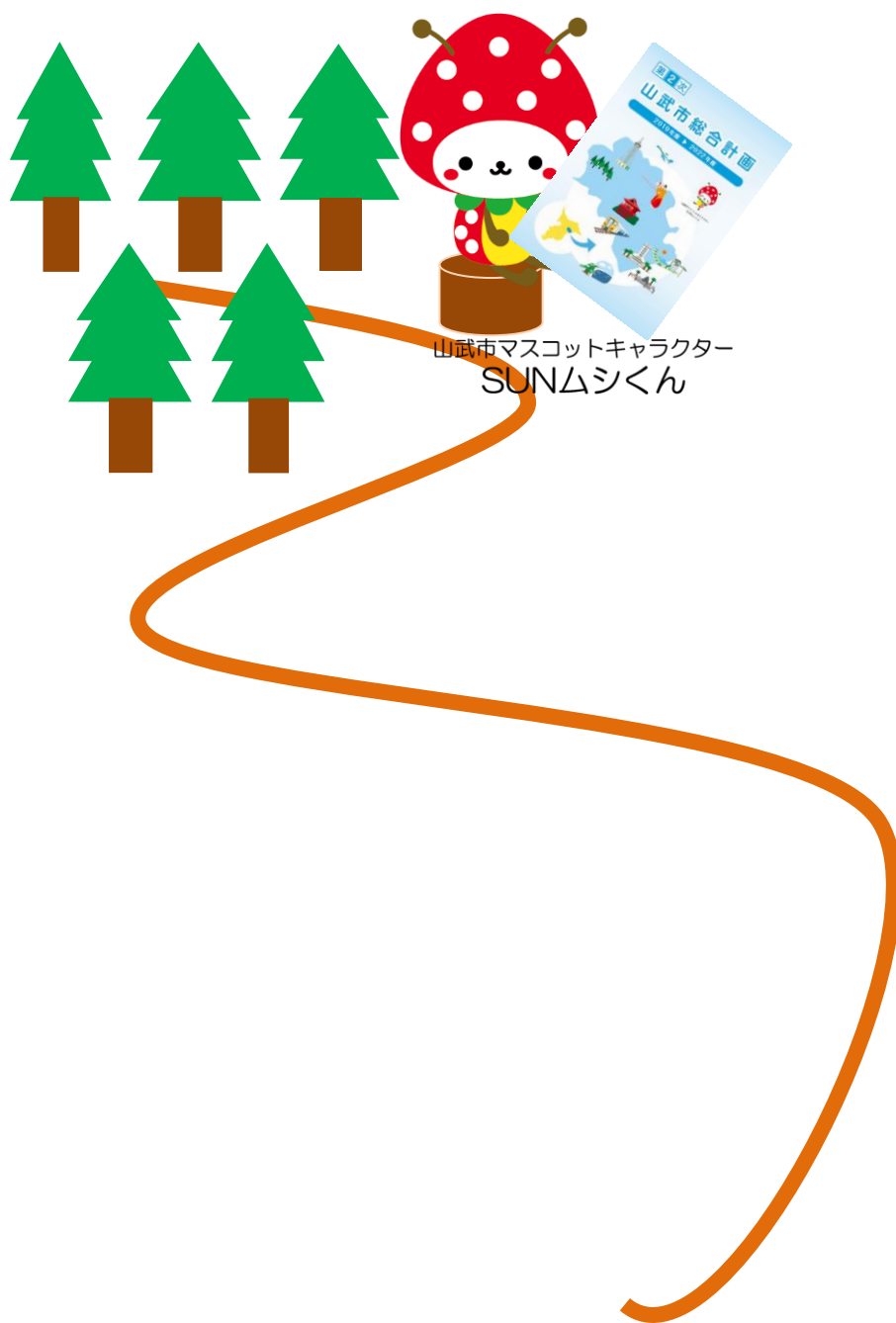
指標①	【総務課】	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
		件	0	0	0	0	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の不服申立による変更件数は0件で、基準値を維持し、めざそう値を達成しました。 <原因> 職員の事務が正確に行われているためと考えられます。						☀ (横ばい)
							☀ (横ばい)

基本事業05 窓口サービスの向上

指標①	【市民課】	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
		%	82.4	82	81.9	84	☁ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の窓口サービスの満足度は81.9%で、基準値と比較して0.5ポイント減少、前年度と比較して0.1ポイント減少しました。 <原因> 休日窓口の開設やマイナンバーカード等を利用したコンビニ交付を実施し、窓口サービスの向上に努めていますが、窓口サービスのニーズが多様化していることが考えられます。						☁ (横ばい)
							☁ (横ばい)

基本事業06 公平・公正な課税

指標①	【課税課】	単位	基準値	実績値 (R01)	実績値 (R02)	めざそう値 (R04)	対基準値
		件	0	0	0	0	☀ (横ばい)
評価	<状況> 令和2年度の不服申立等による課税誤りになった件数は0件で、基準値を維持し、めざそう値を達成しました。 <原因> 課税客体を的確に把握し、適正な賦課が実施されたためです。						☀ (横ばい)
							☀ (横ばい)



山武市マスコットキャラクター
SUN△シくん

山武市まちづくり報告書
令和3年11月
発行／山武市
編集／総合政策部企画政策課
〒289-1392 千葉県山武市殿台 296 番地
TEL : 0475-80-1132